建築ト社會



大正六年九月十四日 郵便物認可
大正九年六月一日 第三種郵便物認可

第三輯
第六號

大正九年六月一日發行

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ノ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會ヲ望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分ツテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關係スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラムト欲スル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ會内ニ於テクル其責任ニ付會外ニ於テ責ニ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各種ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

前項ノ規定ニ依リ賛助員ニ之ヲ準用ス

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　六名

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭、副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

役員ノ任期ハ貳ケ年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主　記　一名

二　主　計　一名

三　編　輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書　記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應ジ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會又ハ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ嘱託委員トスコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、講話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於テクル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條　本會ハ毎秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　建築ニ關スル研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　會誌ノ發刊

五　建築ニ關スル圖書ノ刊行

六　建築ニ關スル講演會ノ開催

七　建築ニ關スル展覽會ノ公開

八　建築ニ關スル視察

九　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十　理想的建築ノ計畫

十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ提出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ス

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助員年額金九圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助費年額金六圓ヲ前納スベシ

但六期以内ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產債權債務及毎月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得





乳色硝子製

ベルリヤ反射笠！

電燈の進歩に伴はざる笠の悩み！

電燈創始時代の單純偏平な笠は
時代後れを示します
形と色とは審美的に
配光は學理的に作り上げられたる
之は夜間家庭平和の象徴です

此切取に添へ御申越の方へは説明書謹呈

ベルリヤ

神奈川縣川崎町

東京電氣株式會社 (TEC)

出張販賣所
東京市京橋區銀座尾張町一ノ一
大阪市西區阿波堀通一ノ五
門司市西本町三ノ二九

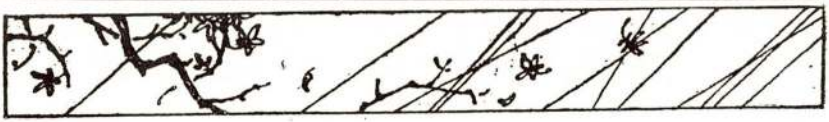
電話 長一七一三、一三五二、一三八八、一三九八
電話 長六三〇、六六
電話 長六八二

『建築と社會』第參輯第六號

目次

口繪（茂木ビルディング（三色版）
全部（寫眞版）
懸賞改良住宅設計案 第三等 第一席（寫眞版）

● 模倣に亡びむ乎創造に生む乎（卷頭）……會員 片岡安 二
● 文化生活と建築……京都帝國大學法科大學教授 戸田海市 六
● 現代方便生活と社會問題……會員 小笠原鋭 一三
● 現場監督員と請負從事員……明治火災保險株式會社大阪支店長 押本重平 一八
● 都市の防火問題……會員 伊藤正文 二二
● 若い技術家と藝術家との話から……マスター、オブ、アーツ 三宅毅一 二九
● 私の眼に映じた彼此住宅の批較……會員 葛野壯一郎 三五
● 居構百選（其六）……『特別賛助員農學士 大屋靈城 三九
● 日本庭園考（三）……『大阪土木建築業』組合常任評議員 山本辰五郎 四四
● 私は都市計畫に就て斯う思ふ……江村郊邨 四八
● 現代都市は眞に生きつゝある乎……



〔邸居寸觀〕

●新聞記者として見たる名士の邸宅(4)　讀賣新聞記者　梅谷孫吾　五一
—中山侯爵邸、島田三郎氏邸、末松謙澄氏邸、江木衷氏邸—

〔一事一想〕

●交通問題から觀た都市計畫　工學博士　岡胤信　五七
●給水政策から觀た都市計畫　理學士　大阪市水道部長　澤井準一　五九

〔都市と社會施設〕

●將來の市加古市(1)　ウオルター・デイ・ムウデイ著　ZY生譯　六二

〔資料〕

●大阪市都市計畫參考資料(其三)　會員　佐藤四郎　六八

〔漫錄〕

●四宜草堂漫筆(四)　會員　波江悌夫　七〇
—色と音と歌舞伎劇場と—
●太平洋を横ぎりて　七六

〔女流の建築觀〕

●廣い家狹い家　表千家流　林千代子　八一

〔藻苑〕

●俳句　芦田秋双選　八六
□時報　八八
□會報　九二

附錄

●ブルックセル市建築規則(中)　八頁

G.E. CHEMICAL PRODUCTS.

ジーエフ防水剤

GF. Waterproofing Paste.
GF. Trowel Coating.
GF. Dampproofing Coating.
GF. Acidproofing.
GF. Cristalrox,
GF. Mastic Cement.
GF. Timber Life.
GF. Floor Enamel.
GF. Brick and Cement Coating.
GF. Galvanized Steel Coating,
Etc., Etc.

ジーエフ塗料

GE
YOUNGSTOWN. OHIO.

製造元　米國ジエネラル、フアイヤープルーフキング會社

輸入元　中外貿易株式會社

◉ジーエフ防水剤
◉ジーエフ防水防濕塗料
◉ジーエフ防酸塗料
◉ジーエフ室内裝飾塗料
◉ジーエフ床用塗料
◉ジーエフ金屬防蝕塗料
◉ジーエフ木材防蝕塗料
◉在庫品豊富◉

TKS

販賣元　株式會社 東洋工業社

東京市京橋區傳馬町一丁目
電話京橋 一二八〇・二二〇・四長三〇四五
出張所 大阪 名古屋 小倉 紐育

S.G.



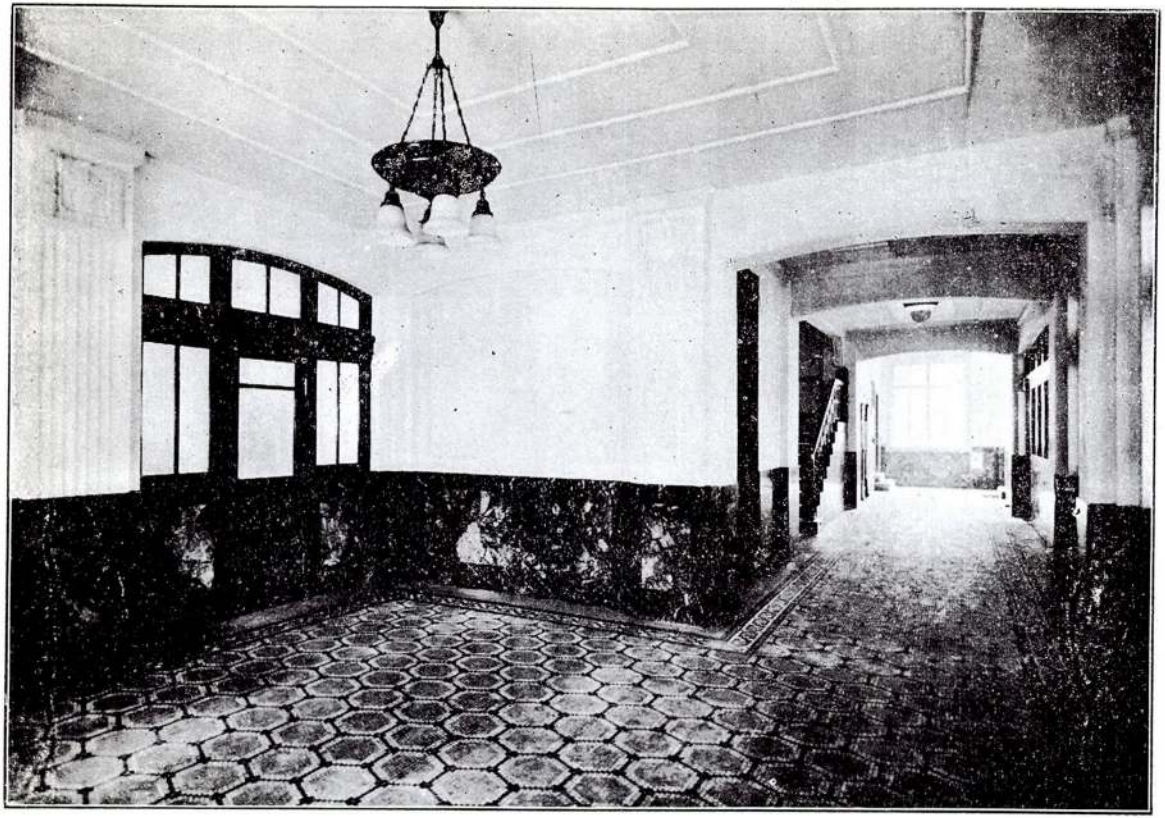
茂木ビルディング　（大阪市東區今橋二丁目）

（大阪製圖印刷所製版印刷）

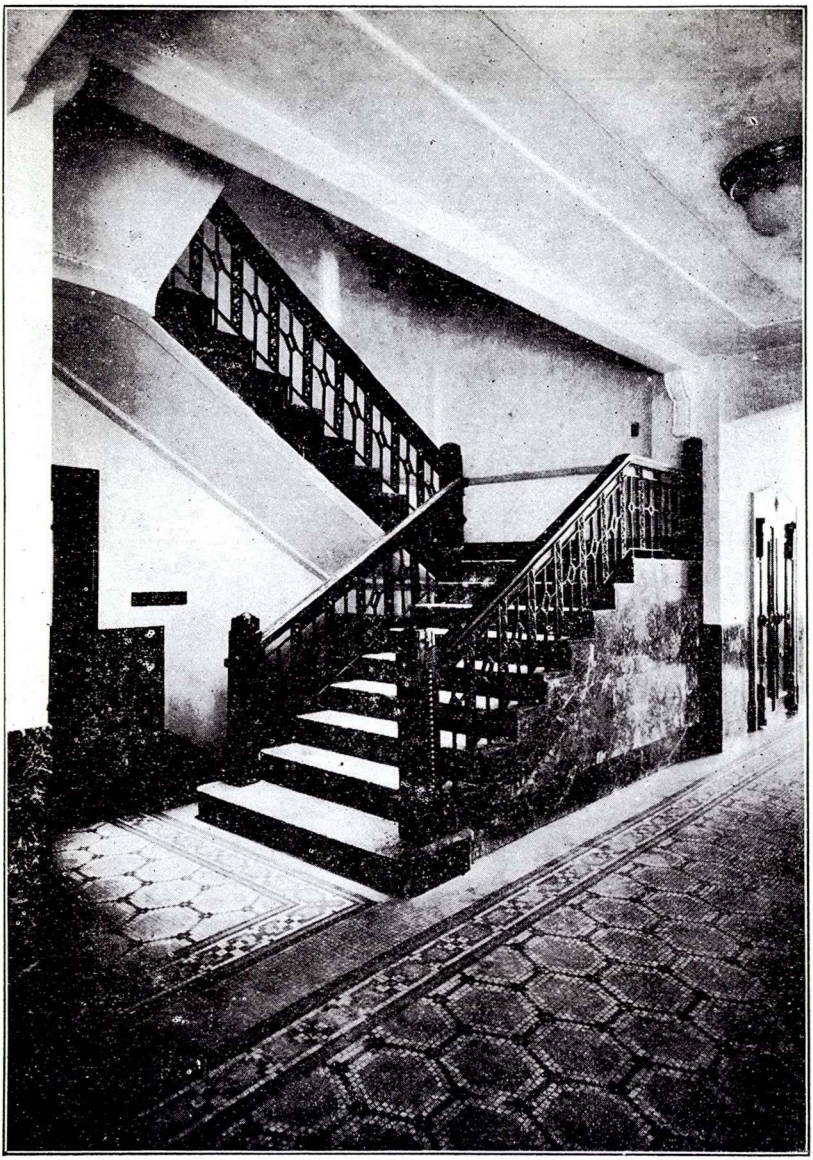
茂木ビルデイングの入口



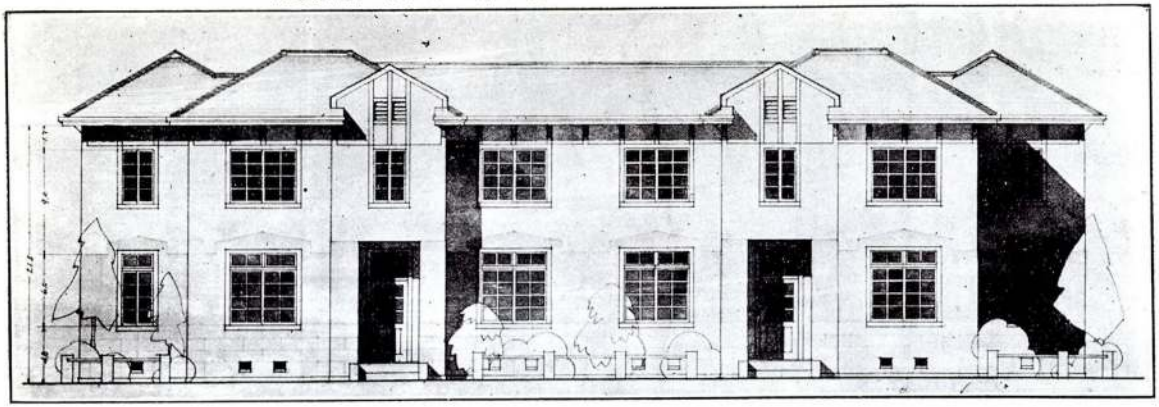
茂木ビルデイング玄關内中央廊下



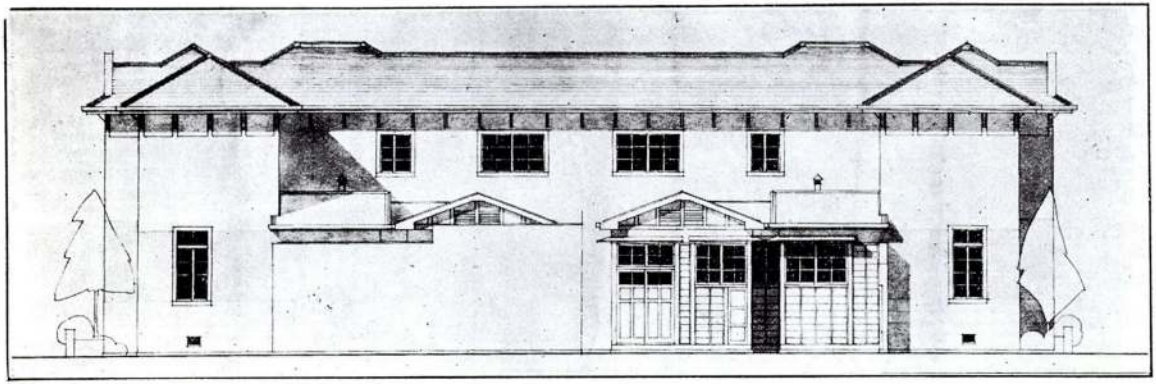
茂木ビルデイング表階段



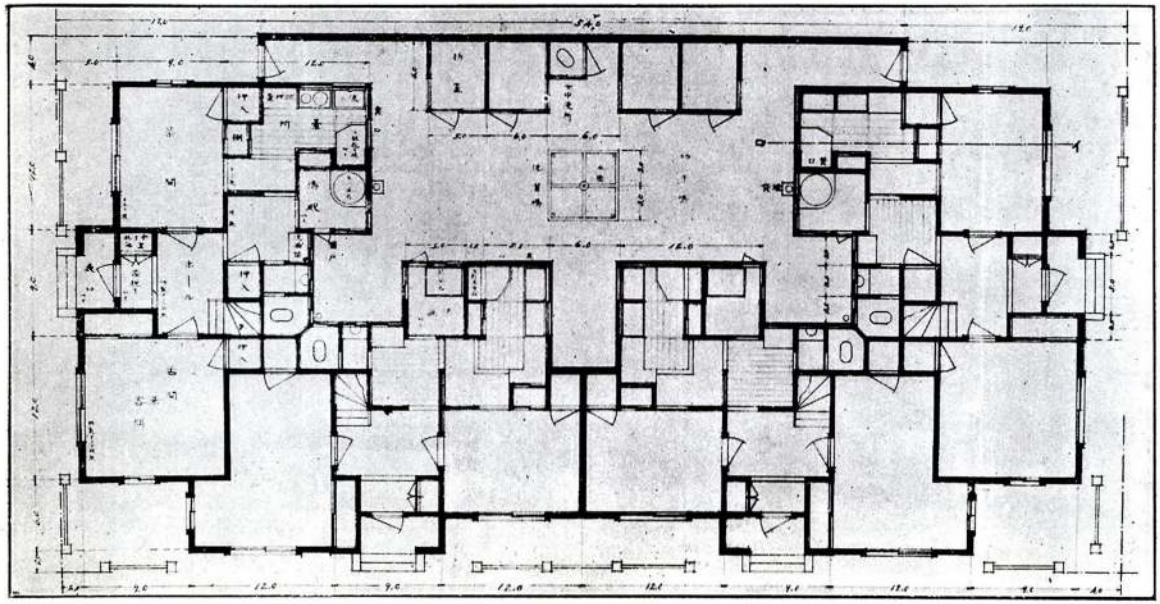
改良住宅設計案＝正面（第三等第一席當選）



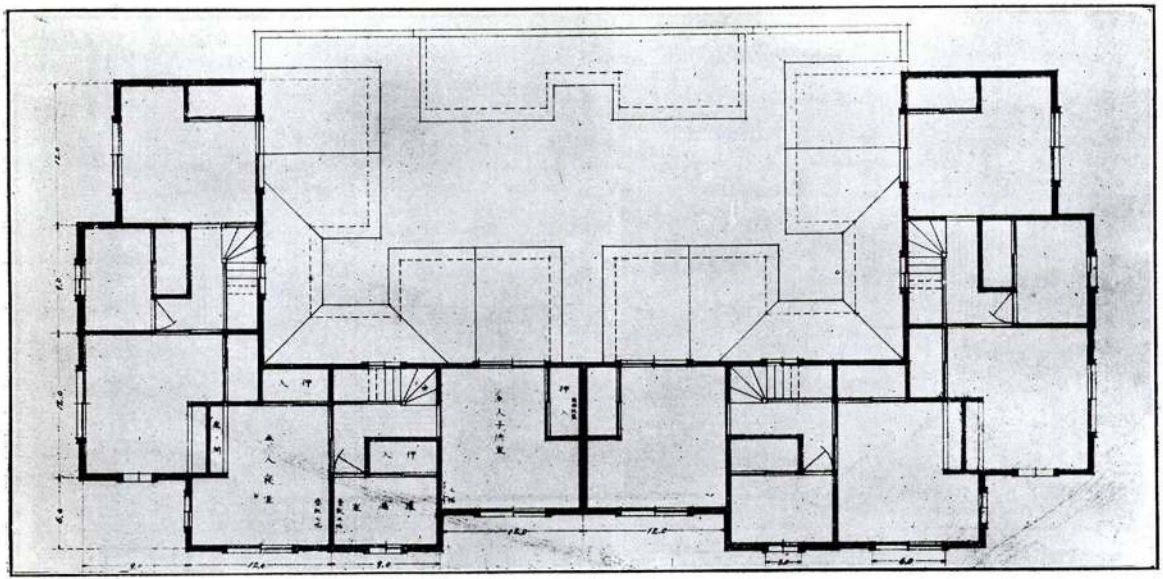
面背＝上全



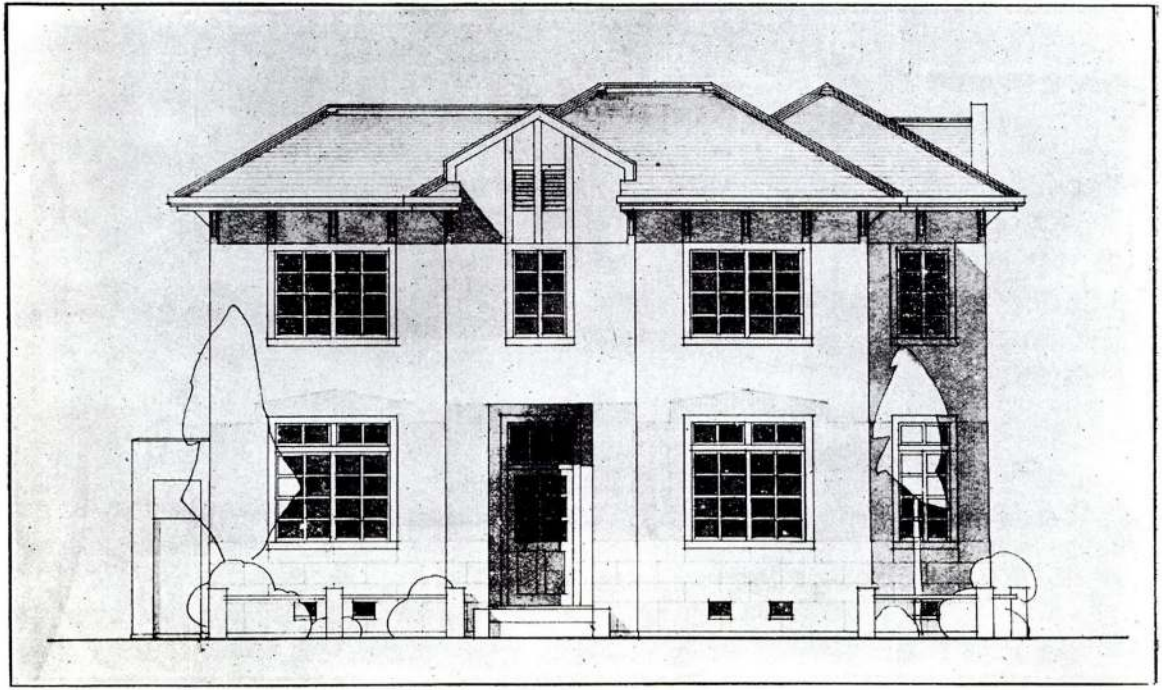
其三 ═ 建物配置並地階平面圖



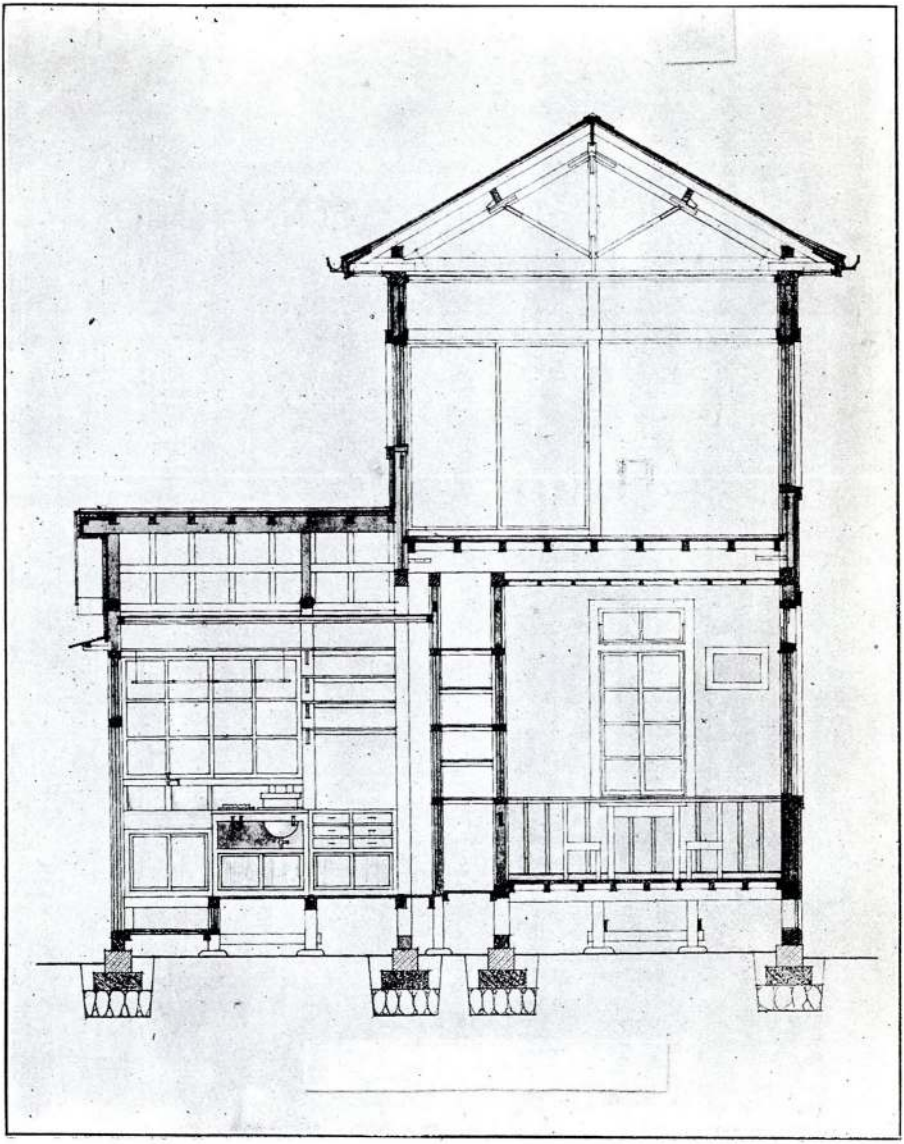
其四 二階平面圖



其五 ═ 側面圖



其六——斷面圖



謹告

從來本會々費雜誌購讀料及廣告料等集金郵便又ハ集金社ニ委托シ御請求申上居候處御本人御不在等ノ事情ニ依リ御支拂無之向往々有之整理上非常ニ支障ヲ來シ候間未ダ御支拂無之方ハ此際至急振替貯金或ハ其他ノ方法ニテ御納付被下度候也

追而今後會費ハ年四回廣告料ハ掲載翌月從來ノ方法ニ依リ御請求申上尚購讀料ハ前金ノ筈ニ付萬一前金切ノ節ハ御送本致サザル塲合モ可有之候間左樣御承知置被下度候

日本建築協會

主計

「振替口座大阪三九九七五」



『黄禍』が泰西を脅威しつゝあるときは歐羅巴に於て能く云はれた所である、これ實に一種の莫迦氣た、そして嗤ふべき空言に過ぎない、併し乍ら之に反して、若し日本に於て『白禍』否むしろ『赤禍』が說かれ始めたとしたならば、それは決して莫迦氣てもゐないし、又嗤ふべきでもないであらう。實を云へば、この危險はもはや危險ではなくなつたのである、怖れらるべきものは、既に侵入したのである。泰西の侵入者等は、日本に於て思ふが儘に振舞ひ、殆どそれを彼等の一州であるかの如く見做さうとし始めた、純粋の日本といふもの、滅する日の來るのは、もう遠い事ではあるまい、恐らくは何處か田舍に於て邊陲の島々に於て、百姓や漁夫の間には今猶それ（生粋の日本）が存在してゐるであらう。都市に於てはしかし今や全然價値なき西洋の『近代文明』が日本の文化をば殆ど食ひ盡した。私は到る處に歐羅巴や亞米利加の罪惡と愚昧の猿眞似を見る。然るに、此等の罪惡や愚昧たる、實は日本的及び總じて東洋的痴呆には徹頭徹尾矛盾するものにして、未だ高級の眞に教養ある日本人には嫌惡の情を催さしむるに相違ない所のものである。日本は愈々益々その清新な本原的な所と、子供らしさと一種愛すべき『野生』とを喪ひつゝある。

模倣に亡ぶ乎

創造に生む

（ケーベル博士）



文化生活と建築

會員　片岡安

〔一〕

現代の文化程度は各國民必ずしも一樣でないのは固よりであるが、歐洲及米國の所謂先進國と稱するものも、其一部を除けば文化普及の度は餘り十分に行渡つては居ないのであつて、其低劣な度合は其上流人士と相距ること可なり遠いのである。我國は古來特殊の文化によりて開發され來り一種獨特の文化生活を營み來りたるは吾人の常に誇とするところであるけれども、之を世界的に達觀する時は、其半面には驚くべき程缺陷の多くして、到底現代の世界的文化と相並ぶを許さぬ程偏倚狹窄のものであつたから、明治維新以來努めて歐米各國の現代文化の流れを注入せんと企て、今日迄約五十年間の不斷の努力により我古來の偏狹なる特殊文明も大に其面目を一新し、大体に於て世界的文化の潮流に沿ふようになつたのである。乍併其程度の一般に低きはもとより、我國民全体を通じて其普及の度合は僅少のものであるのを遺憾とせざるを得ない。

〔二〕

凡そ一國民の文化生活の程度を知るには、多方面より之を觀察するを要する。其藝術や文學や或は信仰の如何、風俗の情態、或は各種の制度習慣を始め、其經濟活動力の大小、交通や産業の開發等に至る迄凡て之れ文化生活の内容に觸れざるはないのである。乍併、凡て之等の内容を具体的に表現する唯一の對象は、其國民が日常利用する建築物であると言はれて居るのである。換言すれば、其國其時の文化程度は其處に建設さるゝ建築物の内容外觀によりて其大要を卜知し得ると見て差支がないのである。

我國古來の文化が世界一般から見て偏狹不徹底のものであつたことは、現代文化のあらゆる方面から見て間違のない問題であるけれども、其建築物の實質及外樣より見る時は最も明確に其適實なるを知り得るのである。今試みに其著しき特徴の二三を擧げて見んに、其實体が主として木材によつて構成さるゝが爲め火災に對して低抗力なく、腐朽に對して耐久性なきことが其一であり、寒暑の調節方法を欠き、盜難其他の不安に對する防備不完全なることが其二であり、都會生活の活動に不便にして衛生設備が不完全なることが其三である。其外觀の陰鬱にして變化の妙味乏しき、又集團的輪奐の美を成すに不利益なる等は。如何にも現代の文化と並行するものにあらざること敢て呶々するまでもない。

我國民が古來斯の如き特殊の建築に馴致されて來たとは言へ、明治維新以來其特殊文化の境涯を脫して世界的の現代文化を享け樂しむべく其方向を一轉した爲めに、其建築も亦從つて其特殊的な狀態を脫して世界的現代建築を建設すべく努力するのは當然でなくてはならぬ。而して我國民の現在の文化程度が果して歐米のそれと遜色なきところまで向上進展して來たが什うかは、各方面に於て常に喧しく論議さるゝところであるが、其正鵠を得たる、測定は現代の我建築物を一通り調べたならば、大体に之を識り得ると見て差支がなからう。斯の意味に於て我國の現時の建築を觀察する時は我國の文化生活の程度が未だ一般に低劣にして、其特殊的情態を脫するとの甚だ僅少なるを感せざるを得ないのである。殊に大多數の國民の住宅建築を見るに於て其感を深くするのであるが、東京其他の大都市の中樞地域に於ける最新の大建築を見ても、其程度の餘り向上したものでないことが感知されるのを遺憾とする。

〔三〕

建築が文化程度の標準器であつて、同時に吾人の文化生活は現代の最も發達せる建築に倣らねばならぬものであるとして見れば、我國の文化生活を現代の文明に沿ふものたらしむるには、少なくとも我建築の大改善を急要とするは明な道理である。固より建築物の改善向上のみに藉りて我國の文化生活を向上進展せしめ得ると言ふのではないけれども、如何に國民の敎育が普及し、其藝術が

發達し、又其社會的組織、政治的活動及經濟的發展が向上したとて、其建築物が矢張り古來の偏狹的文化の境涯に彷徨して居ては、吾人は何時までも適當なる文化生活を營むことは出來ないのである。或は之を大局より見れば、建築なるものは其時代の文化に促進されて自然に變遷推移し遂に其時代の文化程度に適合するようになるのであるかも知らぬ。然しそは唯自然順應主義者の言ふところであつて、大体に於て眞理に近き見方であるが、吾人は我國の現時の狀態より見て唯其儘に看過する譯にはゆかないのである。寧ろ一歩先んじて建築物の改善を促進し一般的文化生活向上の指南車たらしむるを急務と考ふるものである。歐米各國に於ても、此次大戰の後其各方面の改造の中に就て改善されたる住宅の建設を以て最大要綱の一として居るのみならず、其要求の切實なるとは、我國の各地に於ける住宅不足の聲が喧しい位のものではないのである。英國に於ては十億磅に近き大金を以て少くとも五十萬戶以上の住宅建設を企畫中であると言ひ、米國にても各都市銳意住宅の大建設を企てつゝあり、又一般都市建築建設の殷盛なる古來未曾有の狀況であると言はれて居るのである。

幸か不幸か我國の過渡式文明は今や全く其方向を一回轉せねばならぬように行詰つて居るのである。其經濟組織より社會組織に至るまで現代の文化に取遣されんとして居る、此際に方り最も切實なる改造の要急は、其一般都市建築と住宅建築の一大改造であらねばならぬのである。而して、吾人は其改造により現時の不徹底なる過渡式の文化生活より一轉して、世界的文化生活に移らねばならぬことを自覺し、以て、我建築界の一大努力を期待せざるを得ないのである。



現代方便生活と社會問題（上）

京都帝國大學法科大學教授　戸田海市

戸田博士は、曩に我誌が前號及前々號に亘りて博士の高見を掲載するの榮を與へられ、今亦重ねて斯編を讀者に供するの光榮を得たり。惟ふに、現代の社會問題は、所詮各人が方便的な生活に其『生』の眞目的を沒却して自ら營む處の欺瞞生活の所産たるとも謂ひ可く、之と全時に、這は纏て都市社會問題の一象徴なりと謂ふ可し。而して、社會問題とし云はゞ多くは唯物的にのみ之が解決を得んとする今のときに於て、近時漸く倫理主義的又は道德主義的解決の論議稍殷ならむとする傾向ある斯のとき、唯心主義に出發せる斯の一編を得たるは、都市研究殊に都市社會問題の研究に微力を捧げつゝある我誌の最良なる賜なりと謂ふ可し、敢て讀者に薦む。

（編輯者＝郊郎）

一

今日社會問題と云へば勞働問題と同樣に解せられるが、其實現代の文明國に於ける總ての階級が勞働者と同じ性質の生活上の壓迫不自由を感じ、從つて勞働者の社會改造の要求は全社會の要求を代表して居ると云へる。現代人が此の如く一般に生活の壓迫を感ずるに至つた所以は要するに現代人の生活が餘りに物質過重の弊に陷り、之が爲め總ての階級の生活が餘りに强く方便化手段化せられて、眞に生活の自由を感じ得ざるが爲めである。勞働は商品にあらずとは現代の社會問題を解決する根本原則として夙に識者の主張した所である。此原則は國際聯盟規約に採用せられて文明國共通の現實政策とせられたのであるが、併し現代の實業家政治家其他

總ての階級者も自己の活動の重要部分が報酬を得る爲めの方便であつて實質上は商品と異らざるの感を禁じ得ないであらう。人間が生きると云ふことは內面的外面的に、生産的消費的に活動することであるから、活動の內に自己を見出だすの外に自由の生活はない、然るに活動の重要部分を占むる生産活動を單に方便とする現代人が生活の壓迫を感ずるは當然である。特に重要の生産に付て方便活動に甘んずる者は消費活動に於ても自由を得るの能力を有することが困難である。

物質過重の生活とは人間の總ての活動の意義を主に其活動の內に見出すことに偏する巧利的生活を云ふのである。生産の結果即ち外面的なる損得賞罰褒貶に刺戟せられ追ひ立てられて暮らすと云ふ方便的生活は、自由なく餘裕なき生活であつて、覺醒した人間に取つて此の如き生活は眞に自己の生活と云ふを得ない。如何に仕事が繁忙であつても又全く他人の爲めに行ふべきものであつても、若し其仕事が眞に自發的自主的に行ふものであるならば、吾々は悠々として生を樂しむの餘裕を有する。然るに仕事は如何に閑散であり又自己の爲めのものであつても其仕事が方便的のものであるならば、吾々は絶へず一種の强制を感じて生を樂しむの餘裕を有たぬ。餘裕ある生活とは、自發的に生活することであり、自由に創造に耽ることである。此の如き生活に於ては目的と方便とか融合統一せられて居るから、其生活は常に內面に充實し緊張して居る。然るに現代社會に於ては總ての階級の生活が方便化巧利化せられて居るから、其生活は外面的には甚だ繁忙であり華麗であつても內面的には常に空虛寂漠に苦しまざるを得ない現代の社會問題の本質は、人間が方便生活より脫出して眞の自主自由を恢復し、生活の目的と方便とを融合せんとするの運動であり、又其運動は單に勞働者階級の運動ではなく、總ての階級の是認に由りて維持せられて居る運動である世人は今日の役員勞働者を以て賃銀奴隷と稱し社會改造は即ち賃銀奴隷制度の廢止に外なら

ぬと主張するが、其實は政治家實業家自由職業者等の總てゝ階級が大なる程度に有形無形の外的報酬の奴隷となつて、一生を暮らすのであつて、眞の自主自由を有せざるの苦痛は勞働者と異らず。故に方便生活に苦める現代人は最も露骨なる生活の切り賣りを爲さゞるを得ざる勞働者の口を藉りて其苦悶を訴へつゝある。勞働者よりも一層責任の重き地位に立つ他の階級は、勞働者と異つて往々良心の切り賣りまでも餘儀なくせらるゝから、彼等の苦痛が一層大であるとも云へる。

現在の經濟界に於ける生活が甚だ方便化せられて居ることは周知の事實である。企業者は事業其物の發展を樂しむよりも、之を以て營利の方便とするの傾が甚だ強く、又役員勞働者は勞銀を得る爲めの方便として其生産に協力するのであるから、勞働其の物には意義がなくて苦痛である。最近先進諸國に於ける勞働者の所得は大に增加し中等階級の夫れを凌ぐ有樣であるが併し其勞銀增加は勞働を苦痛より快樂に變ずるの效果はない。此の如く總ての生産協力者が其生産的活動を以て夫れ自身には厭ふべきものとし、單に之を以て外的結果を得るの方便と考へるときは、眞の職業尊重又は勞働神聖の思想も存在し得ない。經濟上の活動が此の如く方便化せられて居る爲めに、生産活動を純然たる苦痛犧牲の如く見做し、單に生産結果を得る爲めの生産費に外ならずとする巧利的打算に立脚する所の從來の經濟學の結論が略ぼ現代の實生活の說明となり得るのである。併し生活の方便化せられて居るのは決して獨り經濟界に止まらぬ政治學藝總ての方面に於ても同樣に方便化が行はれて居る。今後の社會改造上教育の普及は、物質の公正なる分配と同樣に重大の關係を有するものであるが、從來の教育も亦極端の方便化に陷つて社會の腐敗を助長しつゝある。例へば小學校は中學校に入るの方便であり、中學は高等學校大學に入るの方便であると云ふが如く學校其物が方便であり、又學校に於ける教習も、進級卒業して稱號を受け立身出世をする方便で

ある。此の如く方便化せられた教育界に於て思想の自由とか眞理の爲めの眞理と云ふ氣分は生長の餘地が少ない。勞働問題や婦人解放問題の緊張せる今日に於て、公私諸學校の昇格運動の起れるが如きは怪むを要しない。

二

現代人の生活を此の如く方便化せしめた物質過重思想は、人間の最大の又は只一の幸福が人間の活動其物よりも活動の外的効果を得るに在りとする思想である。財産や位階や稱號の所有に人生を託せんとする過度の所有欲である。法律制度組織自身の力に對する過度の信用である現代の科學と交通との進歩は、外界征服事業の大發展を來たしたが、之と共に物質過重思想が益強まり社會公衆は總ての事業に對して只管ら外的効果を大にすることを要求して、所謂消費者本位の思想が確立し、各事業に從事する人々の勞働が如何に不快のものとなるも、其勞働の結果が豐富低廉に社會に供給せらるゝときは、社會は之を事業の進歩なりと賞讃し、此の如き豐富低廉の供給を爲さしむる爲め各事業に殘酷なる生存競爭を行はしめ、又迅速に結果を得る爲め專門家と稱する部分人を作つて機械的に之を結束協力せしめた。此機械的結束を行ふ所の機關が即ち政治經濟教育等に於ける專制主義である。同じ弊害に陷れる個々の生産協力者も生産活動の内に人生の意義を見出すを得ず、其結果を收穫することを只一の目的として働くから必然協力者相互の間に、就中指導者と被指導者との間に、經濟事業に付て云へば資本家と勞働者との間に、有限なる生産結果の分配を爭ふことが甚しくなり。其中の強者たる資本家が不當の分け前を得て、他の協力者が如何なる困苦に陷るをも顧みず、之が爲め本來最も親密なるべき協力者が互に不俱戴天の仇敵たるが如き反感を生ずるに至つた。

從來世人は社會問題の實體は分配問題にあると考へて專ら分配の工夫に沒頭し、現代人の苦痛の根源が一層深く内面に潜み、外面の分配不

公平は其結果の一つであるとは考へなかつた。生産活動の目的が全然又は主として外的効果を得るに在りとする思想の續く限りは、社會主義其他の如何なる社會組織の下に於ても、生産協力者の間に重大の分配爭ひが起らざるを得ない人間が此思想に支配せらるゝ限りは、生産學的なる生存競爭說及之より出發せる階級戰說が眞理であり、同胞兄弟は相親しむ爲めに生れたのでなくて相戰ふ爲めに生れたことゝならざるを得ない。物質的には緊密なる相互依存の關係を有するも精神上には常に相戰はねばならぬ。現代人は外界征服に最も成功した人間であると誇つて居つたが、何時の間にか最も強く外界に依頼する不自由の人間となつたことを發見して苦悶し初めたのは既に久しき以前からであるが最近には此物質過重思想を脫せざる限り、如何に社會組織を變更して見ても重大なる分配爭ひの生ずることを免れないと云ふ感が痛切となりつゝある。

此の如き物質過重主義の下に社會公衆は果して何物を供給せられたりやを經濟生活の上より例示せんに、文明國に於ける生産物の過半は眞に人生の幸福に多く關係なきものであり、特に其生産物は量的であつて質的でなく、從つて感覺を刺戟する力は強いが精神に滿足を與へる力は少ない。是れ現代人が身邊に物質を堆積しつゝ生活の無味寂漠に苦しむ所以である。元來享樂財には、飮食品の如く一時に消費し盡すものと衣服住居家具の如く保存性を有するものとがあり、後者を消費するに方つて吾々が其効用を意識に上ぼす機會は寧ろ少ないものである。吾々は衣服を纏ひ家屋に住居するも不斷に衣服住居を享樂するの愉快を感ずるのではない。故に此の如き保存性ある享樂財に付て人類は古來之を美化し、不斷に且つ强く其効用の意識を喚起して之が價値を高める工夫を行つた、即ち量的の實用品を質的ならしめた。此品質化の作用は生産者が生産活動其物に自己實現の最大の機會を認めた場合、即ち生産の過程が生産者に取つて品質化せられた場合に初めて大に成功するも

のであるが、生産活動を甚しく方便化せる現代に於て其生産物が數量的となるは當然である。固より現代の生産物には多大の勞苦を費して過度に裝飾を加へた物が多いが、此等の物は高尚の趣味を滿足するに不適當であり、其の多くは實用品の本質を破壞して眞に其價値を增加するの效果なく、殊に現代的裝飾の多くは强烈に感覺を刺戟する一時的作用を有するに過ぎない。故に其消費者は、飢渴に刺戟せられて飮食する場合と同じく忽ち飽滿に達し、其物の實用力の尙ほ存續するに拘はらず之を拋つて更に新規の生産物を要求する。現代生活は此の如く覺感の刺戟に加ふるに刺戟を以てした爲めに、中毒に陷つて居るから、醒めた瞬間の苦痛が特に强くなる。

實に現代生産者の大なる部分は此の如く無意義又は有害の生産の爲めに甚しき勞苦に服せねばならぬ。現代は最も富める時代なりと稱せられるが此の如く量に富みて質に貧なるの結果、全體に於て左まで富んだ時代ではなくて生産の勞苦の多い時代である。

品質的生産物を消費することは單純なる生理的又は消極的享樂の域を脫し、一の愉快なる精神的活動又は創造を爲すことであつて、一面に此の如き貨財を生産する活動も大なる程度に享樂的創造的となる。即ち其生産と消費とが共に自主自發的の生活となる。現代人は生産は方便に過ぎずして消費こそ自由の生活であると云ふが、其消費方面に於て人間に眞の自主自發の滿足を與ふるを得べき趣味的消費に付き現代人は上述の如く主に外部よりの刺戟に自己を服從せしめて絶へず壓迫不滿足の感を懷き、眞の自發的なる消費活動に由て滿足を求むるの能力を失ふて居る。生産も消費も共に活動であるが、人間の活動として重要部分を占むる生産活動に付き、方便的にして自主的なるを得ざる現代人が消費活動に於ても自主自發的なるを得ざるのは當然である。予輩は後に論ずる如く徒らに過去を嘆美する一部の復古的改造論者に同意する者ではないが、併し現代生活が種々の點に付て貧

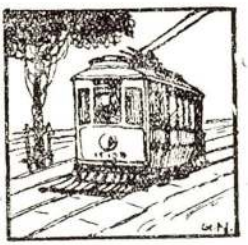
弱となりし事實を拒むを得ない。現代に於て外部の社會組織が急速に生長せるに反し、民衆の精神の生長が之に伴ふを得なかつたことが、物質の豊富となりしに拘はらず生活内容の貧弱となりし點多き所以である。

現代社會を改造する爲めには先づ社會一般が覺醒して方便生活より脱出することに努めねばならぬ。戰後に於ける英佛等の狀態を見るに、其生産の恢復は三五年の間に望み得ざるは勿論恐らくは從來の如き半ば無意義なる量的生産の恢復は永久に不能であらう。今や人類の歷史は一大轉化を爲すべき時機に到達した。今後先進國に於て量的生産の恢復が困難なるものとすれば、人々は已むを得ずして質的生産に滿足を求めんとするであらう。何となれば現代人の内面に質的要求が消失して居るのでなく、只だ其發展を妨げられて居るからである。覺醒せる今後の勞働者に對して以前の如き無意義なる量的生産を多く負擔せしめ、彼等をして厭ふべき方便生活を營ましむることは益困難となるが、併し彼等をして大に質的生産に努力せしめ、特に生産過程を質的にすることに由り有意義の生産に努力せしむることは可能である。今後の世界に於ても生活を維持するが爲めには多大の量的生産物を必要とするが、此の如き生産に付ては之に從事する者に出來得る限り自發的の勞働を爲さしむるの方法を立て、即ち其生産過程を生活に有意義ならしむる爲め特に多大の苦心を爲さねばならぬ。

（未完）

◆自主的生活と美育

人間の裏なる神的要素を認識することは、即ち人間の裏の本質的なるもの、萬人に共通なるもの、機械的必然の法則に支配せられざるもの、自由なるものを領會するの謂である。この故に『美育教育』とは愛と自由とに依つて愛と自由とに從つて人の人たる所以に達するを目的とする教育である。この教育の事業は、人間をして人の人たる所以を恢復せしめ、人間を導いて再び其理想的諸權利（其總ては唯一の根本的權利即ち自由のそれに歸し得る處の）に復位せしむるに在る。これ實にシルラーの心緒指導法の最後の目的である。——ケーベル博士——



現場監督員と請負從事員

會員　小笠原鈅

建築工事の施行と云ふ事は設計主任者の指導と請負者の努力が根本的のものではありますが愈其實施に際しては直接に現場監督員及請負從事員の責任と此兩者の關係とが特に重大なるものだと考へます。

其築建の設計が如何に完全無缺のものであつても、此兩者の立場と關係とが惡くては何にもなりません。

一方には又建築の實施に際して局所局所の施工は勿論のこと、假設的の足場取建其他一般の支保工事は更なり、常に現場職工の取締や火氣の注意に至るまで工事の全般に渉り極めて細心の注意までが、何れも此兩者の大責任である。實に此兩者は建築の實施に際して重大なる使命を帶ふるものと云はなければなりませぬ。

然るに一般建築界の人は此兩者の地位に就てどれ位ひ考へて居らるゝでしようか。

尙又此自覺を有つた監督員と請負從事員とがどれ位ひあるでしようか。

私は之を考へるときに多少の不安を感ぜずに居られない樣に思ひます。

前記の如く重大なる使命を帶ぶる此兩者が建築物の實施に當り其關係が正當のものでなく、單に算盤勘定許りと、其場限りの木偶的監督とであつたならば、其出來上りたる建築物はどうでしよう。

外國の話を聞きますと、現場の施工は頗る簡單で監督員などは勿論居らず、單に設計主任者が二三日目に一度一二時間其現場に行き請負者を指圖をすれば、それで完全に實施が出來る樣ですが、到底今日の處では我建築界の一般が此まねをする樣には、行きませんかと思ひます。今日の有樣では、一般に監督者は一も二もより善き方法を採りて設計に對し完備したる施工を望みます。其結果が意外の處まで影響し請負者の手順に思はぬ狂ひを生せしむる場合も出來ますし、又請負從事員は一定の豫算金額より以内で可成簡單に其施工を終らんと努め、從て施工が粗惡に陷り、又は職工に滿足なる待遇を與へ得ざる結果が種々の影響を惹起す樣な事もあります。

要するに此兩者の立場が常に相反して居る故に兎角融和を欠いて協力一致と云ふ事を忘れ、施工上の齟齬を生ずる樣な、結果を產み易いのが今日の狀態である樣に見へます。

之は寔に止むを得ない事實だと思ひますが、併し斯樣な事が原因して、現場の施工に不知不識十分ならざる出來榮へを表はすと云ふ樣な事は全く此兩者の立場の關係に十分なる諒解がないからだと思ひます。

故に此兩者の關係の改善に就て多少考ふる事は私共の必要なる問題かと信じます。

一の建築工事を實施するに方りましては、假令其立場が現場監督員と請負從事員とでありましても、等しく之れ共に建築の技術者である以上は、兩者共其技術に對し技術者の生命として何處までも正當と云ふ信念を以て完全なる施工をすると云ふ事が最必要です。故に此兩者は各其異なる立場の上に於ても技術者たる本能に於て或る一致點を見出し、其處に互に協力一致圓滿に融和して、其建築場に對し、御互の技術者たる使命を出來得るだけ完全に果すと云ふ事を一般に心掛る事が必要だらうと思ひます。

併し此兩者の關係も、今日まで已に漸々改善せられつゝある樣です。

十數年以前は現に私共の實驗に依りましても請負從事員が兩端ばかりの『ボールト』を打込だり、地業杭の長を切たりしたもので、寔に現場監督員と請負從事員とは御互に目の敵の樣にしたものでした。

が今日では最早こんな亂暴なことは、なくなつたと思ひます。

一方に監督員に於きましても、左程重要ならざる部分にまで、杓子定規を振り廻して、つまらぬ施工を強要したり、又は豫め其施工法を協議又は明示せずして、請負從事員が之を施行したる後に、コレデはいけぬ、アレデはいけぬと、再三造りかへを命じたりする樣な事があつた樣に思ひます。

が之等の事實は近時一般に漸く減少して參りました。畢竟兩者の態度が向上したのだと思ひますのみならず、以前は建築技術者も斯道の敎育を受けた人が割合に少なく、其實施方面に當る人は素人か見習旁現場に出づるものも多かつた樣なわけかとも思ひます。然るに近來は段々と敎育を受けた技術者が增加して從事員の人格が高まり、同窓知友が各方面に從事して居りますから、其關係が御互に自然の改善を來し得たるものとも見ねます。乍併今後も尙一層此兩者の關係の改善せらるべき事が必要だと、私は深く信じます。

此兩者は御互に人格を重んじて、技術者たるの責任を思ひ、御互に其立場に同情を以て協力したならば、兩者の關係は非常に圓滿になり、從て建築物施工に好結果を與へ得る事と信じます。

この主意が完全に行はるれば、丁度外國の今日と同樣に自然監督員の必要もなくなると思ひます。茲に於て私は更に此兩者の關係は、

現場監督員も請負從事員も其建築の實施に際しては、御互に『親友』なりと云ふ觀念を堅く持する事が、尤も必要なりと信じます。

そして尙其建築即其仕事を御互に愛するといふ事が、大切だと思ひます。

申す迄もく建築は躰現するもので、一度地上に

魏然として、出來上れば先づ永久に還るものです。此貴重なる産出物は兩者の關係に依り其構造形態に大なる感化を與ふるものと思ひます。故に之は何處までも御互に協力して、之を愛して生長せしめねばならぬ事と思ひます。丁度我兒を生長せしめて、立派なる一人前のものとするのと、同じ樣な事かと思ひます。

現場監督員と請負從事員とは、全く共に其工事の全責在があるもので、輕重はないものと思ひます。極めて嚴重に申せば、一本の釘一枚の板でも取付けた以上は共に承知でした事（無論目を盜だり、知らなかつた内にした仕事抔は別なり）で共に其責任があります。故に一部の施工に就ても、十分に御互の意志を表示して熟議納得して、之を施工し萬過なからしめ、一旦爲た仕事は再び之を造り替へると云ふ樣な事はなき樣に御互に協力すべきもので、萬一施工後不工合で造直しを要する時の如きは、單に監督員の命令で請負從事員に强制する樣の事なく、宜敷再協議をして十分の諒解を得たる上で造り替ふるべきものかと思ひます。此く兩者が親友と云ふ觀念を以て實施に當る以上は、無論請負從事員も、自己の專斷で單に自分の豫算範圍で脩めると云ふ觀念許りでなく、一々監督員と協議をして事に當るべきで、或る施工部分が假令豫算範圍以上になり、又は豫定外の事であつても、技術者の本能から或る程度までは進んで實行しなければならぬ場合があるでしよう、かゝる場合は監督者も請負從事員の立場に同情して、茲に十分なる熟議を生ずるわけで、所謂協力一致を求むる事が一大緊要事なりと信じます。

故に建築工事の實施に當んでは、此兩者が、豫め細大漏さず其建築物の程度即設計主任者の意志と請負者の意志とに從ひ、御互に其施工上の意志を表明して、一致點を見出し着々と順序よく施工し總てに於てムダのなき樣にすべきである。

兩者の施工の意志懸隔して一致點を見出し能はざるとき、即豫想外高費を要するか豫想外簡單なるか其他豫め示されたる事柄よりも異

りたる場合等を生じたるときは、即設計主者と請負者とへの指導を仰ぐべき順序となるので、之が兩者當然の立場かと思ひます。

殊に施工期限の迅速を要する場合などには、最も此兩者の立場と關係が圓滿で共に協力一致せねば駄目だと思ひます。

以上の如く御互に技術者の本能を思ひ其建築物に對して、技術者としての使命を果す上に於ては、前述の如き十分なる諒解が必要と思ひますから、監督者なり請負從事員なりが其仕事に蒞んで此諒解が出來ないときは、御互に設計者又は請負者に申告して此諒解を得る樣な方法を諮り、それでもうまく行かぬ樣ならば御互に對手者を忌避する事にしたいものです、かくしたら兩者の關係は次第に解決する事と思ひます。

故に私は總ての建築工事の實施に際して兩者が常に前述の如き信念を以て事に當り其建築物の完全なる成工を期する樣にしたいと思ひます。

私は此處に再言して置きます、幷は、設計者も請負者施工者も、共に一箇の幾代迄遺すべき建物ものゝ完成に向つて有する處の分業者であります、故に、其の建物は幾世かの間それ等の人々の榮耻を物語るでありませう。

建築家に對する希望

建築家の修養の第一條件を充たし一義は人格に歸して後、初めて完うる。從つて、建築家は、建築の設計工事監督に際して先づ第一に自己の人格に忠實ならねばならぬ。第二に必要なのは、建築の眞髓を理解し、之を發揮することであるが、これは第一第二の條件は世界萬國、何時でも根本的必要な事であるが、第三は第三に建築家は依頼主の建築常識缺乏の爲、建築家は自己の欲する設計の策ない事が非常に多いのでやゝもすれば其處に遺憾を免れ得ないからである。（都市の美觀と建築）

特に現在の日本に於て最も必要だと思ふといふのは一つは經濟上の制限の爲、一つは依頼



都市の防火問題

明治火災保険株式會社大阪支店長　押本重平

都市に於ける火災問題は、等しく保安上の問題としても、其禍害の及ぶ速度の得て迅急なると、其損害の範圍が動もすれば廣汎にして一都市を燒土に歸せしむべき可能性を有してゐる上より、他の都市問題よりは最も緊切な關係を有してゐることは、今更ら此處に縷說するまでもなき極めて明確な事項である。されば、防火的施設の奈何といふ事は、都市問題中重要な系統と地位を占めてゐる事であつて、我邦にも近來都市計畫の具体化せんとする機運に際し、斯の問題も一層解決を促すべき事實上の問題となつて來た。

惟ふに、斯の問題は、家屋其ものが或程度の耐火的材料より成り、而も、消防施設の殆んど完備せる歐米都市の如くんば、唯だ消極的に應急問題のみが殘るのであるけれども、まだ〳〵木造家屋が建築物としての大部分を占めてゐる我都市の現狀に於ては、未だ極めて初步な問題であると同時に、之が解決方法としては、茲に二樣に亘つて攻究せなければならぬ、并は申す迄もなく家屋自体の耐火性と、消防機關の今幾段進步を遂ぐることの二つである。而して此處には家屋自体の耐火問題を主として考へてみたい。

個人が、自己の趣味なり其他の要求を滿足させる爲に作る處の家屋に就ては、塲合に依り工費抔の問題を離れて、完全に耐火的な構造を爲し遂げらるべきではあらうが、之を一般の問題としては、勿論其處に經濟上の制扼を受くるが故に、實は頗る難問題である。けれども、若も現在に於ける諸多の建築構造の中より斯る條件に適合するものを選ぶ事が出來得たならば經濟關係の問題は左まで重要でないと想ふ。而して、現在採られある處の建築構造としては、石造又は煉瓦の耐火的なるは申す迄もない事であるが、それよりも、輕便にして一層耐火的なる上に、經濟關係も餘程低易なる現代の建築構造としては、自分は、茲に、彼の鐵筋混凝土による構造を奬めたい。

將來に於ける建築技術上の進歩は、恰も、木造以外の家屋とし云はゞ、彼の鈍重な氣分に滿てる處の石造か、然らずんば、煉瓦が唯一の構造材料視されある中に、鐵とセメントで耐火耐震な家屋が產れた如く、或は一層理想的なものが出來るかも逆睹し難いが、先づ、現代では、斯の鐵筋混凝土構造に、耐火的な建築物としての留めを刺してゐると想はれる、自分は、斯の建築を奬勵したい。實際、自分共火災保險業者としての實驗に據れば、鐵筋混凝土の壁の厚つ味、即ち耐熱率は、煉瓦の一枚半に對して僅に四寸、其二枚に對して漸く六寸を出でない云ひ換へたならば、鐵筋混凝土の壁の厚さ四寸は、煉瓦壁普通一尺一寸餘、又前者の六寸は、後者の一尺五寸餘に比敵する處の耐熱力を有する。

是は聊か他き途へ外れるが、鐵筋混凝土を以てせる構造は、單に耐火力に富むといふ許でなく、耐震的な構造物である事は殆んど理想に庶幾ようであり、而も、今一二の特長は、防濕的であり耐蝕的である。蓋し、煉瓦構造が水分を吸收するの強い事は、雨後等に於て浸濕の容易に去らない事實に觀ても推し測られるのであるが、斯の點になると、鐵筋混凝土構造は、殆んど完全に濕氣を彈排するの傾向を帶びてゐ

る。次に、耐蝕とは、即ち害虫の侵蝕を指したのであるが、煉瓦構造になると、煉瓦と煉瓦の中間に塡充せるセメントは、年所を經るに隨つて一種の風化作用を起し＝ポートランドセメントの如き優良品は別だが―白蟻抔の侵蝕する事の甚しいのは、木材に於けると殆んど何等の異りがないようである。然るに、鐵筋混凝土を以てせる構造物には絶對に斯る短所がない。而して、工費上の關係に到りては、煉瓦抔の材料を以てするよりも、廉く付くのであるが、假りにセメントや鐵の値段が、煉瓦の値段と何等異りはなく、材料の價額が相等しいとしても構築上に要する時間は、鐵筋混凝土の方が遙に節約し得て、即ち早く出來上る故に、結局工費が廉く付くことになる。

以上は、大分鐵筋混凝土の提灯持ちを遣つたようであるが、眞實く、防火問題を建築材料の上から解決せんとすれば、現代に於ける建築構造の上に之を需むる以上、先づ鐵筋混凝土構造を奬めるの外はない。現に歐米に於ける火災保險料の關係より觀ても、鐵筋混凝土構造物は、木造建築物の約五分の一、煉瓦構造物の約三分の一である事實よりするも、以上の所見が決して溢美にあらざる事を語るものである。而して、今度は制度の上に於ける防火問題であるが、是は更に二つに分けたい、即ち、前にちよつと述べた消防機關の問題と建築物干渉法の問題である。消防機關としては、現在我都市殊に東京大阪等に於ける消防組織を今一段も二段も進歩せしめたい、それは、從來の損害といふ程な程度に及べる處の多くの場合は、消防機關が迅速事に處せなかつたといふに阪せられるようである、而して、其原因は出火の報知が遲れたといふに在るように想ふ。されば、消防屯所の如きを今一層周密に設けて、之に完全な自動喞筒抔を備へ、一面には、火災報知機を繁く設けて、現在大阪抔に在る如き把手で回轉報知を爲すような宇遠なものでなく、指頭一觸忽ちに感報するような仕組みに爲し度い。

他面に於ては、水道の如きも、飲用水を消防に兼用するようでは、有事の場合に於ける

水壓は充分でないようであるから、亞米利加抔のように消防用の水道を別に設けるがよい。紐育邊りでは八吋位のホースを使つて、水壓はあの高層建築にも遺憾ないようである、是は市當局者としても考慮すべき問題である。其他、ビルディングだの公官衙だのといふような大建築物にして、動力の設備あるものは、成るべく自動消火機を備へるように爲度い。是は、現に紡績工場抔には大概備へ付けてゐるが、極めて輕便な裝置であつて、或熱度に達すれば裝置してある鐵管の栓が自然に溶解して、栓の位置に依り、一齊に、或は噴泉の如く噴騰し、又は雨の如く降下するの裝置で、唯恒に其水槽へ給水のみすれば足れりである。

次に、制度の上に於ける防火問題としては、耐火材料を以てするにあらざれば建築を許さない、といふような制度も其一つ、又、件の自動消火機の設備を命令するのも更に其一つであるが、是は到底容易に行はれ得ない問題である。故に、先づ茲に手つ取り早く遣り得らるゝのは彼の『防火壁』の設備である。是は、鐵筋混凝土でも煉瓦でも、場合に依れば亞鉛板でも相當な効果あるように察せられる、何は兎もあれ、防火壁を設けしめるといふ事は左しての負擔でもない、故に、是は法令を以て、例へば大阪府の建築取締規則といふようなもので令したらよいと想ふ。要するに、我都市は、家屋抔の建築上の問題に就ても、今確に過渡期に在るように想像されるから、其建築物の大部分が、自体として耐火性を帶び、是によりて、防火問題が解決されるまでは、凡ゆる消防的施設に藉りて、せめては斯の災害を狹少ならしむべく各自の用意に俟ち度いのである。（文責在記者）

今より二百六年前、巴里に於て消防團體の組織を認可せられ其後百年許して漸く確固たる軍隊的組織となつた。斯くして今より九十二年以後歐洲の諸都市にて續々此の種の團體が組織せられたのである。



若い技術家と藝術家との話から

會員　伊藤正文

――私達は若い一人一人の人間としてより良き生活の爲に度々話し合ひました、より良き社會心地よき生活を熱望して話し合ふたことごをまとめました、我々の思ふ所云ふ所を聞りてもらひたい。――

一形式主義

日本人は一般に淡泊である、と云ふと大變いゝことの樣に聞ゐるが、淡泊もよいが餘りに生活欲がなさ過ぎる、自分と云ふものに對する意識すらはつきりしてゐない。少し學問でもした人になると、『あの男は個人主義だ』等と云ふ、個人主義と利己主義とを取違へてゐる、自己意識のはつきりした人間は、理解力の劣しい人間から見ると利己主義に見ゆることすらある。

それも事を欠いて利己主義とは云はず個人主義だと云ふ、個人主義と利己主義さへ、ごちやくにしてゐる。生活欲が薄弱で自己意識が貧弱である故に何事も淡泊と云ふていのよい言葉でごまかされてゐる、從つて形式と云ふことを惡用し萬事形式と云ふ箱の中へをさめて、うまく納まると、「世慣れた人」で、道德家で、成

功者だとまで成りませる。

私はそれが悪いことだとは云はない。貧弱なことだと云ふ。生活欲の強い自己意識のはつきりした人であつても形式主義の根強くはびこつた、此社會では、變り者か、所謂やりてかに終らせられ時によると狂ひの國賊のと云はれ、折角の才能も目茶苦茶にされてしまふ。

識者が日本に人物がないと歎く、又宜なる哉で社會の形式主義と云ふ者の食び物にされてしまつては天才も出られない筈だと思ふ。

日本では美人の本場を京都としてゐる。所謂京美人なるものゝ典型は如何がと云ふのに、大抵は表情の淺い人形の美しさをそなへた女である。又一般日本人の顔付を見ても如何に無表情な生活欲に乏しい、顔付で何所にも強烈なる意志、深刻な熱情の表れは見られない。某哲學者の説の一節を引いて見ても、

『日本人の生活のモットーは中庸の一言に盡きてゐる、しかも中庸と云つても日本人の其は善惡の極端の要求が自然に均衡を保つて現はれたのではなく、始めより深刻な要求がないのである。それは微温的な生活の自然の結果に外ならない』と、實際日本人は微温的でしかも形式的である。

藝術に於ても、宗教に於ても、政治に於ても、其他社會問題、學問、教育の方面に於ても皆然り。此形式主義、消極主義の行渡つてゐないものは一つもない。

或一部の人々の間に形式主義打破の者を聞きても、多くの人々は己に形式主義で消極的になり終つてゐる爲にまるで問題にしない、考へて見ようともしない。

斯うして誌上又は辨論に於て現代社會のあらゆる方面の缺點を擧げて改造を要求する人があつても、次の樣な文句を恥げもなく列べて我は知者也と云ふ樣な顏をして、すましてゐる人すらある。

『あれも惡い、之も惡い、あれも改造して欲しい、之も直して欲しい、直さねばならぬ』

と云ぶけれど、一体それではその改造す可き

手段は如何にと俺(ワシ)が問ふたら返事が出來まいだから意味のない空騒ぎさ』とすまされては、その低能さ加減にあきれて文句のつぎ樣もない。

こんな場合に何は扨置いて、その論者の改造を要求する主意は何所にあるか、從來の思想と異る點は何んな主要な點があるかを強い研究的態度で聽き、しかもよく考へて見る必要がある哲學上にルッソーの說に對して日本の思想家は極めて單純な解譯を以つて、彼の生活と思想との矛盾してゐる理由によつて哲學者たる彼の位置を下げようとする傾向があると云ふことである。トルストイは性の問題に就き、ショウペンハウエルは死の問題に就いて矢張同樣の局見否寧ろ低見を附せられてゐる。某學者は之を日本人の形式主義、主智主義の弊害であると云つてゐる位だ。

何々購何々講と稱して所謂善男善女が珠數を片手に白脚胖白足袋で、紫の旗を先頭に寺々を縫つて歩くのはよく見受ける圖だが、あれは一種の遠足で身体の爲には大變いゝだらう、しかし日本人の信仰の表れの一つだとすると、如何に貧相な影の薄い信仰だらこと傍目に見ゐる何故にもつと熱烈な信仰心の表現がないのだらうか。

日本人は說敎を聞いても輝かしい光明を認めるよりも悲しい人生のあきらめに到達するだけで只單に涙の宗敎に終るのではめるまいか、宗敎によつて信仰によつて自分自分の生活に輝きを增す意味は皆無だと見ていゝ。生活の爲め、人生の爲め宗敎でなく、僧侶と善男善女のあきらめと死者の進善供養の爲の宗敎である。日本人の多數が宗敎を生活にあみ込んでゐない理由と原因は茲にあるのだ。宗敎を他人のことの樣に思ひ無關涉な原因は之にあるのだ。

藝術上に於ても然り、淡泊な日本畵には偉大なりと稱せらるゝ傑作もあるが、未だ洋畵に熱烈な感情、燃ゆる樣な理想を基調とした傑作はあつても、認められてゐないのは、日本人の多くが形式主義だからだ。二科會の展覽會は日本

では御氣の毒な會だと思ふ。

何故と云つて、自分の思ふことを云つて見て對者に誤解される程不愉快なことはないから。

音樂に於ても、日本の音樂は遊蕩音樂である三弦の雨の夜の情緒は美しからう。

新内の月夜の流しもいゝ。春の朝の琴の音、幽幻な古典的な能のゆかしさ、皆惡いことはない否私達の感情に豊かなりズムをとかし込んでくれるものだけれども、皆一種の享樂的の調がある。痛切な感情を振興せしめたり、神秘的な情操を動かしたりする所は全くない、眞實さ藝術に特有の熱烈な眞實さに欠けてゐる。

支那の音樂の一律なのを笑ふ日本人の音樂も一律な微溫的な點に於ては五十歩百歩の感があるではないか。

今度の選擧に就ても同樣の感がある。

私達の若い目でしても純な目で見るならば選擧は候補者が頭を下げて頼むと云ふことは已に矛盾であるし、中には大臣である身を以て頭を下げて歩き當選した曉には形式的な謝禮文を擧げて事がすんだ氣になり、俺は代議士ぢやと大きな顔をふり廻す、運動は形式である頭を下げるのは形式であると思つてこそ出來るまねだ。あとて代議士になつた、形式を觀板に威張る、萬事形式主義だ、議壇に上つて又形式的の妥協をする、此が日本の代議士かと思ふ。敎育に於ても敎へればよい、講義をすればよい、それで月給をもらへれば我事終れりとする低能敎育者もある。

都布計畫の先驅者たる某氏の論を聞いて、あれでは實際に當つて如何にするかと云ふことが云つてないから空論だ等と辻褄の合はぬ事を云ふ。

日本人は二重生活をしてゐる、外面的の問題はわかり切つてゐるが、現代の思慮ある人々の内面的の生活に於ても極端な二重生活を社會によつて強ひられてゐる。

茲に新思想家の人々言論で非常に尤もであると思はれる説があつても、それの實行は不可能であるが自分一人心の中で賛成してゐる場合が

ある、又某氏の言を借りるなら「新人物たる第一條件は思想と生活を全く分離し思想に於てもある程度まで異端的で實行は極めて、コンヴェンショナルな人たることである。思想と實行との二元生活をする人たる可し」と皮肉つてゐる以上云つた樣にあらゆる方面に於て、日本人の頭は可成深く消極的になつてゐるので頭の改造は隨分と骨の折れることだ。

二　社會と私達と

私達は若い眼でしかし、社會の形式主義には未だ同化出來ない純な、眼で建築家の社會を第一に見ることが出來る。私達が學校を出て、社會を初めて知つた時に、當て、某先輩が『日本に建築家らしい建築家は殆んどありませんよ』と云はれたことを痛切に感じた。此點について今日（大正九年五月）の中央公論に中澤臨川氏の技術家に就ての評論の一節を讀んで狹く見て建築家も同樣だと思つた。狹い社會（建築界と云ふ）にぢ込もらう、そうして建築と云ふ技術だけ、もつとせまくすると建築工事の現場だけでも經驗でのみ込んでゐれば、一生食ふには困らない、等と小さな考の中にひそみ、自己と云ふ人間そのものへ問題すら閑却してゐる非人間建築家を見る。書や音樂は道樂だ、遊戲だ、趣味だ、文學も然り、宗教は老人か、基徒教徒に限る、位の低級な考へでゐる建築家も少くない。私はこうした人々に社會で面接して涙が出る程悲しい思ひをした。それが私達の後輩で之から勉強もし、理解力の出來る人達なら私達も希望を以てゐていゝ、又私達ずつとずつと先輩であつて斯界の立物である程度の人々ならば、私達が社會的に反抗しても惡口を云つても無駄であるし、又いつ自分自身を見直す勇氣と理解力を有つてゐてくれぬとも限らない望があり、問題はならない、しかし私達の兄貴分位の先輩即、建築界の中堅を以つて自から任じてゐる人々に形式主義で中庸主義で、人間生活それ自身に對して考へても見ない樣な、只具象化されて目前に迫つた自己の問題のみを問題する人々を

見る時私達はどんなに悲しい思ひをしたらう。

果然議院建築の問題が起つた、私達はどれ程此問題に期待を置いてもそれは徒勞であると知つてゐた。此問題の結果は私達の先輩又は友人の集りより成る建築青年會の活動となつて表れた。建築青年會の事を云々することは同會の諸君に取つてはいらぬことかも知れないが思ふことだけ云はしてもらひたい。

建築青年會は議院の問題を動機として起つたので議院の問題が目的ではないと思ふ。

私は青年會の野田氏と嘗て話した模樣から色々と考へても見た結果、同會の起つたことは今私が此拙ない筆で云つてる問題の改造に向つての運動である。もつと一般の人に建築を解つてもらひたい。低能な建築家（自己意識のない）に覺醒をうながしたい。と云ふのが目的であり又建築界引いて社會の生活をよいよくしたいのが目的で、議院の樣な失敗の結果を二度と見るなと云ふ意味であると思はれる。

私は建築青年會の諸君に、何度コレペチションをやり直しても結局建築青年會の中の作品以外は九十八パーセントまでだめだと云ひたい。何故なら何度思ひ直して設計して見ても頭の問題だ。眼と手の問題もある。一朝にして建築界に他から天才が出た場合には私は此言を謝し、併せて日本の建築界を祝福する。私は嘗て日本建築協會の表紙圖案の件に就き、驚きに似た悲しみとあわれさを感じた。もうこれをどうしてくれともどうしようとも、云ふ餘地はない。圖案に對する理解力は何の位の程度かと云ふ程度がわかつてがつかりしただけの話だ。

俳句、書を見る眼は洋畫の內容や雜誌の表紙圖案を見る眼とは異る。

明治維新史の人物の言行を現代の人物にあてはめようとすると大失敗に終るのと同じことだ

先輩某氏は某紙上に於て、議員の問題に就き建築界の老大家云々として建築界の先輩を攻撃して居られた樣に思ふが、寧ろ建築界の中堅者又は私達の同輩に對して云つて戴き度かつた。

一般社會の人々及び建築界の中堅者流には現

代の建築のスタイルを批評し、又設計するに當つて書や俳句の面白味を味ふ氣でする人が多いことを斷言する、何と云ふ不眞面目なことだ。それ位なら構造本位で自然に出來た外觀をスタイルとする方が眞實である。

私はそう云う人々に對した時こそ、如何していゝかわからない悲哀を感ずる。

私達の眼を一般社會に轉じ道に出よう。

私達はあの拙劣な廣告の繪と不丁寧な文字におびやかされる。同じ廣告を出すなら何故にもつと感じのいゝものにしてくれないかと思ふ。あのいやな馬鹿〳〵しい廣告が却て印象を深くするのかも知れない。

大阪市内では仁丹、健腦丸、ナイス、低級なビヤホール、更に不快なのは有田ドラック商會の廣告、等其他大小色々、數知れぬ低級な廣告は數に於て、低級な建築より以上に市街の美觀を害するばかりでなく市民の美的情緒を害する事多大だと思ふ。

ドラック商會等は新聞紙二面に低級な小學修身書のおさらいをするより第一に市内の廣告を取下すことを私は要求する。

社會人特に建築家の一部の人々が哲學的根底ある藝術敎育を受けること、を要望する。建築家としての噴飯に値する最近の事實を素はぬくと、改造博覽會へ新築大阪市廳舍の塔の模形を出品したことだ。

如何に當事者の頭に哲學的カルチユアのないかを表はしたものかものだ。

塔の意匠の良否ではない。改造博と名のつく所へ、何の改造を表示して出品したのだらうかあの塔に何の改造の意味があるのか。

私は此塔の設計をもう少し改造しくれと云ふ意味かと思つた。

頭の改造を要求する點は茲にある。こんな違いは別に害は少いが、誤りによると文化の進歩の上に多大の害を及ぼすことが多い。

せめて日本の知識階級の人々が皆もつともつと文化的の向上につとめてもらひたい、私達も同樣である。



私の眼に映じたガーラン氏の邸宅

マスター、オブ、アーツ　三宅毅三

一　太陽光の無視

——一番先きに感じたこと——

長い間歐米生活をした者が、日本へ歸つて來て、さて家庭生活を營むといふ事に成ると、先づ第一に求むべき住宅が、何れも此れも非常な缺點許り目に立つて、仲々滿足の出來ないものである。

如何にも非文明的な、如何にも消極的な、如何にも不衛生的な——然樣した諸點は勿論數ふるに遑あらぬ程だが、其中に於ても、殊に一段と私の感じたのは、殆んど一般が共通的に光線——即ち太陽光を甚だ粗末にしてゐる事である

これは我國の古い歷史的因襲の結果であらふけれども、粗末といふよりは全然無視してゐると思はれる者さへ多くあるのである。

新しき設計家によつて建築せられたものは、此點などは充分に注意が拂はれてゐるから申す事も無いが、所謂やゝ古い時代の純日本式といふやうなものには、思ひ切つてひどいのがある理想的とは行かなくとも、稍それに近い地所を有し、且つ費用の點杯でも莫大な物を掛けてゐながら、設計者乃至技術者の不注意といふのか住むべき主人の不注意といふのか、古い頃のもの許りで無しにそれが割合に近來出來たものに於ても尙且つ發見することがあるのだから驚か

ざるを得ないのである。

二　世界一の住宅

――ガーラン氏の理想新邸――

私が歸朝をする少し以前に米國に於て理想的な住宅を見せて貰つたことがある。まだ建築が完成した許りの時で、新しいといふことも私自身を喜ばせたのであつたらふけれど、何んとなく清い泉の湧き出してゐるのを見てゐる時のやうな、清新な美しい感じで胸が一ぱいになつて戻つた。後で此住宅の事が、全世界に於ても容易に發見の出來ない理想的なものだといふ記事が或る雜誌に出てゐたが、この推賞も決して過當ではあるまいと思つた。

それはウキシコンシンのミルウオーキーで近頃ます〳〵評判に上つてゐるやうであるから、專門家諸氏は既に御承知であられるかも知れないが、富豪ガーラン氏の邸宅で、實に金を惜しまずに凡てを合理的に建築したものである。矢張り此土地の設計家でブラスト氏と、フイリップ氏が心血を注いだものであることを後で聞いた。

建物は先づ地の利に就て非常なる注意を拂つた樣子で、玄關から一步踏み出せば、實に自由に三つの本通りへ通へるし、自働車なども其處迄は、どん〳〵行つて、幾臺でも並べられるやうになつてゐる。周圍といふ周圍は頗る閑雅なのに、閑雅に附添ふ外出の不便といふやうなものゝ、ちつとも無いのは寧ろ不思議な位である。

三　邸内部の室々

――外部は苔蒸した自然石――

建物の外部は荒削りの自然石で、話によるとミルウオーキーから三十哩許り奥にある岩石山から運んで來たものだそうで、その石がまた少しもごち〳〵した感じのない自然色で、一帶に石苔がむしてゐるから、云ふに云はれぬ物懷しさがあつて、たゞ見たゞけでも親しみのある色をしてゐる。自然の歌が聞こゑるやうだとでも云ふのであらふ。

四階建になつてゐるが、二階と三階とは主に

寢室になつてゐて、一日中絶え間無く日が當つてゐる。先づ第一階は、居間、食堂、日光浴室應接室、圖書室、などであるが、これ等の室々には、何れも最も現代化した精巧な家具類が使用されてあつて、其上に室其物との調和を取る爲めに椅子一つも輕々には扱つてゐないやうであつた。

I 居間

居間は勿論愉快に家庭的になつてゐるが第一番に太陽光の採り方に就て非常に苦心をしたやうである。何の室も日中陽を射込まそうとする中でも、最も此室に於ては苦心をしたらしく、南一帶が開いて、それに東に向つても多くの窓を持ち、朝日の新しい光線も完全に受入れるやうにしたのだ。

殊に此室からは、裏手の方に出來てゐる二つの小さな湖が眺められて、青葉や綠滴る芝生や——實に何んとも云へない心地がする。

室の內部は、美しい樫の木細工で造られてゐて、天井は普通のものとは異つて、色々な極めて珍らしい手工の美術品で飾られて、それがまた樫の木の色と美術的な對照をしてゐるので、非常にゆつたりとした落付きのある空氣が滿ち滿ちてゐるのである。

II 食堂

外國人は日本人と異つて、食事を一日の重大なる仕事の一つとしてゐるから、從つて食事場には一般に充分なる注意を拂ふけれども、此邸に於ては就中その完全を期してゐる。廣く大きい多くの窓は眞東に面して開かれてゐるのは、主として早朝のほのぼのと明けて行く頃からの光線を受け入れる爲めで、朝の食事を、青葉越しのこの新しい光によつてしたゝめて、一日中こうしたさわやかな氣持で仕事をするためなのである。

內部は居間に劣らぬ美しい英國樫の木で造られてゐて、非常にじみなゆつたりとした裝飾が施されてゐる、少しもけばけばしい感じのない

極く穏やかなもので、柱などは古い時代――丁度チュードル王朝の美術でも思ひ偲ぶやうな薔薇の花が一面に彫刻してあつた、これがまた容易に見られぬ美事なものである。

III　日光浴室

居間と食堂との間に三角形の硝子張の屋根を持つた日光浴室がある。室の中には澤山な植物類が並べてあつて、籐椅子があり、卓があり、珈琲を啜り乍ら、ゆつくりと日光を浴びて談笑する事が出來るのである、これは單に家族の人達許りでなく、兼ねて客室にもするやうに工夫してあるから、堅苦しい客以外の訪問者は、晝の間は大抵この室で談話をする樣子だ。

只、屋根が有ると無いだけの事で、丁度野原とか庭園とかにゐるのと同じ事で、硝子張を透して、晴天の日は晴天のように、曇つた日はまたそのやうに、室一ぱいに日の光が溢れ返るのである。

斯うした日光浴室は、外國に於ても、餘り澤山は見られないものではあるけれども、日光を無視してある日本人の多くの考から見れば、寔に天地雲泥の違があるではないか。日光は實に大自然が吾人に惠與したるもの〻大なる一つであるのである、我々は少なくともこれを利用すべき義務を負擔してゐるものであると思ふ。

しかも此日光浴室内部の建方は極めて明るい感じのする陽氣なものであつて、直ちに、居間は勿論、食堂へもまた他の室へでも簡單に出て行けるやうに成つてゐる。

IIII　客室

客室即ち應接室は、内部一面精巧なる木造りで、胡桃（くるみ）木の香がしてゐた。勿論南向きで、窓の外には鏡のやうに清く光つた二つの湖水が見え、周圍の景色の晴々とした樣は、此室を去り難い程である。壁と云はず天井と云はず、人工的の微細なる美術品で飾られてゐて、殊に念を入れた高價な椅子や卓と共に、殆んど眼を驚かす許りであつた。窓掛（まどかけ）の美麗なる事、調度の整

然たる配置、指一つ差すべき點もない有樣は云ふ迄も無いのである。圖書室もまた南一帶が窓で、空氣の流通と云ひ、日光の通り具合と云ひ萬事理想的に出來て居る。

四　二階は寢室と

——三つの浴室二の水浴室——

二階は主に寢室と成つて居て、主人の寢室は東南の隅にあつて、朝から日沒までは日の眼が休みなく覗くやうに出來てゐる。大きな廣々とした窓で、絶えず風が流れ込んで來る。他は多く東向きで、朝日に呼び起こされるやうになつてゐるし、窓からは何れも、湖を眼下に見る事が出來るのである。

此外の三つの室は清潔な美麗な浴場で、他の二つは頭の上からざん〳〵と水が降つて來るやうな水浴場である。何れも割合に廣々としてゐて、兩浴場共、單に沐浴とか水浴とかをする許りでなしに、充分に手足を延して、小運動なども出來るやうな充分な場所があつた。

五　三階は娯樂堂

——舞踏室と音樂室化粧室——

三階も二つは寢室であるけれども、他の室は雇人に與へられたる數室の外は、舞踏室、娯樂室、音樂室、化粧室などである。

○舞踏室

舞踏室は非常に澤山の小さな窓を持つてゐて空氣の流通には充分の注意をしてゐるが、此邸宅に於て、此室のみが何れかと云へば寧しろ北側に面してゐる。內壁には日本の古い時代の掛軸などが下つてゐて、一寸私を驚かした。

○化粧室

舞踏室に直ぐ隣接した室を化粧室としてあつて、大きな鏡が並んでゐるし、其前には、此室へ入る者が誰でも自由に使ふ事の出來る、いろ〳〵な化粧瓶が置かれてあつた。舞踏室で身化

粧が崩れると、勝手に入つて來てはその化粧を整へる爲めなのである。

○娯樂室

娯樂室には實に色々な室内遊戲の機具などがあつて、單に家族の人達許りで無しに、時には雇人達をも交へて賑りの無い夕を送るやうにしてある。

○音樂室

音樂室は一家庭としては廣過ぎる位に成つてゐるのは、稀には客を招待して舞踏會等を催した時の仕度が出來るやうになつてゐるのである。

要するにガーラン氏の邸宅は其便利にして結構を極めた点も私の眼を驚かすものではあつたけれども、巧みに光線を利用して四六時中その恩惠を粗略にせずして、よく之れを受入れ利用する工夫に苦心したる點に於て、尚一層私を感心せしめたのである。

——談、文責在記者——

○都會生活と進化○

田舍生活から都市生活に移るに就て、人は最初苦しむだ。茲生存を困難ならしめ、又殆んど三代目の子孫を滅亡せしめる。然し、吾等は其難點を了解して、速かに恢復を圖りつゝある。そこで、次の時代には大都市の中心にも又進化が必要である。都會生活は二代目の子孫の變化が起つて、都市住民に起る身體的退化を有效に阻止することが出來るようになるのは疑いない事である神は現代の文明が十分の敎訓を有すること及び其敎訓を十分良く學んだことを承認する。神は勞働者の健康と體力とを犧牲にすることによつてのみ成り立ち得る事業は不利益なる事業と考へられて止めさせらなければならぬといふことを、吾等が遠からざる内に十分確乎として宣言し得るだらうといふことを承認する。

＝進化の意義より＝



居構百選

（其六）

會員　葛野壯一郎

拾四　小住宅

米國中部

第拾六圖は前例と仝じくシカゴ市フランク、ロイド、ライト氏設計小住宅の一例で、工費其他詳細の記錄は無いが、入口の一部張出しの有る外は仝く正方形で、一尺の無駄も無く最便利且つ經濟的に各室が按配されて居ります、是を假に四間角とすれば十六坪、五間角とすれば二十五坪で、居間の如きもかなり廣く使用せられ大きな卓子だのピアノの如きもゆつくり置かれて有ります、三方に窓出入が有る結果光線も充分なれば風通しも申分無く、一方の出入口を出れば廣やかな露臺に出る事になつて居ります。食堂と居間の間の仕切の無いのも便利、食堂と臺所の連絡も都合よく、臺所からは裏口に出てすぐ地下室に降るようになつて居ります。階上は大寢室一と小寢室二、外に豫備室浴室を備へ各寢室には潤澤な物入を附屬して居ります。

（ライト氏建築圖集。）

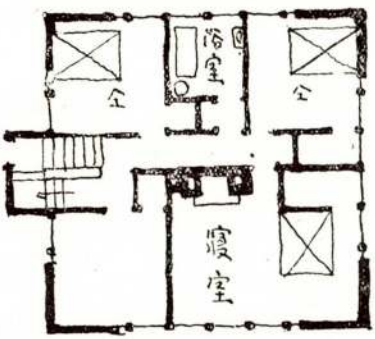
拾五　小住宅

獨逸中部

第拾七圖は獨逸風小住宅の一例で、フランツデルヘル氏の設計で有ります。前にあげた米國ライト氏の設計によく似た大きさのもので、兩方比較してみると面白い点が有るかと思つて爰

にあげたので有ります。總建坪約拾六坪、此工費二千五百圓即ち一坪當り百五十六圓餘とありますが、是れは拾年以前の相場で有りますから今日の標準にはなりません。全体が引締めた出來るだけ經濟的に少しの無駄も無いといふ点は前例と同樣で有りますが、内部の配置は大分趣を異にして居るので有ります。入口を入れば巾四尺餘の狹い廊下が有つて左手に臺所口右手に手洗便所口、正面にウオーンラウム即ち居間の出入口が有ります。居間は十三尺に相當し、其一角を約三尺位張出して取付椅子と食卓を置き、他の一角から二階へ昇る樣になつて居ります。地下室への降口は廊下右手便所口の隣にあり、全体の約四分通りを地下室として居ります。居間の前面に廣やかなテラッセ即ち露臺を設け低い石造の手摺を周らし、其一隅に石階を置いて庭に通ずる事になつて居ります。階上は中二階式の構造で大小三箇の寢室と浴室を設け、軒先屋根裏に當る部分を利用して、各潤澤な押入を附けて居ります。

第拾六圖



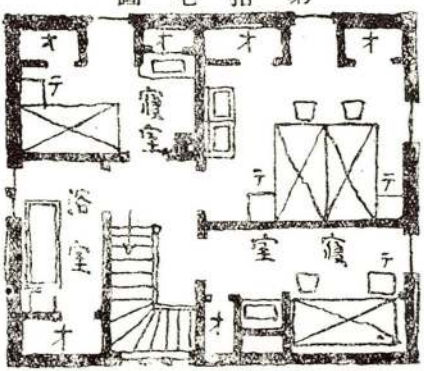
（ゾンメルウントフエリーンホイゼル千九百七年版）。

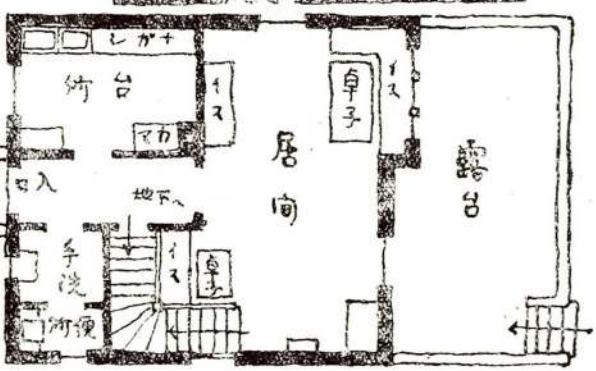
拾六 小住宅

獨逸

第拾八圖は前例と仝じく獨逸風の小住宅の例で、設計者はテオエッフェンベルグル氏、總建坪約二十二坪、此工費二千五百圓當り百即ち一坪十三圓餘となつて前例に比し著しく安價な事になるが是れは必すしも特に安價に出來る理由が有るのでは無くて、吹抜きのヴエランダをも建坪に計算した結果で有ります。また全体に工費が非常に低額だといふ事も、前例と仝じく十年前の相場によるためで現在の標準にはならないので有ります。

第拾七圖

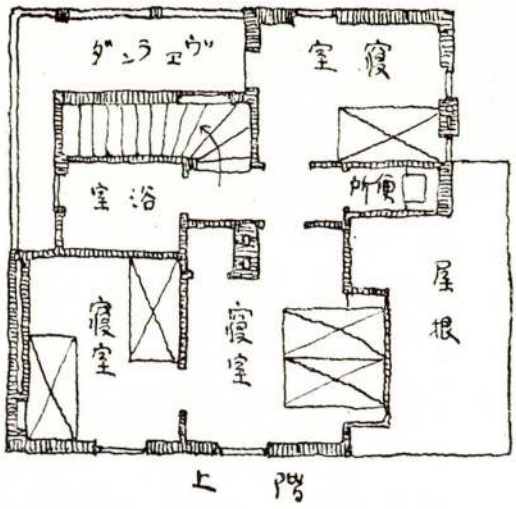




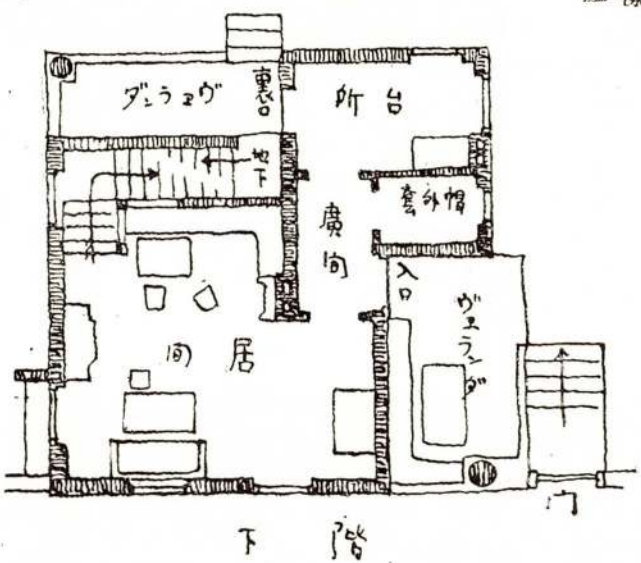
此設計は建物を道路に接して置く場合のもので少いさな門を入り石段を昇ると、巾へ間に長約二間の吹抜きのヴエランダ或はポーチが有り、隅には丸い太い柱が有つて壁ぎはに長い取付椅子と大卓子を具へて居ります。ポーチの片隅にある入口を入ると狹いホールに入り、右手には臺所口及び帽外套置場の口があり左手には居間の出入口が有ります。居間の大きさは廣いところで三間半に三間半位疊數にすると二十疊敷位に相當する可

なり廣いもので二方の窓を設け、其一隅が二階へ昇る階段を置いて居る事及び、階段傍に長い取付椅子卓子を具へて居ることは前例と全様で有ります。臺所は二方の窓を開き片隅に爐

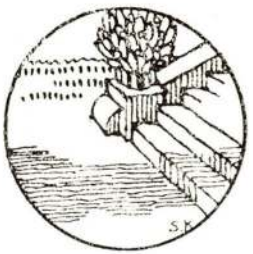
第拾八圖



を置き、一方に裏口を設けてそれから細長い吹抜のヴエランダに出で、片一方は石段を降りて外へ、片方は地下室に通ずる階段口となつて居ります、階上は階段を昇り切つた處に小い



さな浴室と其一方に便所を設け、大少三箇の寢室を置いて居るが其内の一個は直接廊下に出入口を設けないで大寢室即ち夫婦床の置いて有る部屋から通ずる事になつて居ります。是れは一方を夫婦、一方を小供の寢室に當るためだらうと思はれますが、斯いつた配置は寧ろ珍らしいので注意する價値が有る樣に考へます（前全）（未完）



日本庭園考 (三)

特別賛助員
農學士 大屋靈城

三 日本庭園の變遷

上古の庭園 紀元一二〇〇年代蘇我馬子が飛鳥川の畔に邸宅を構へて池を穿ち庭を作つたのを初めに朝廷にあつても臣下に於ても所々に庭園を營む樣に成つたが、此の頃の庭は庭と云つてもほんの樹木を二三本植ゑたり一寸した池を堀つたりした位のもので後世に遺るようなものは勿論なかつた。それは多く帝都が定まらず一代々々に遷都がある風習であつた爲に各人の邸宅が簡素に出來てゐた勢でもあらうが、未だ庭と云ふものが宏く解せられなかつた爲にもあるだらう。

奈良朝の庭園 元明天皇が奈良に都を定められてからは奈良は七代の都となつたがその割に造庭の術は進歩しなかつた。

越ゑて桓武天皇が都を山城に遷し平安城を定め給ふてからは**平安朝時代の庭園**建築に於ても美術に於ても、一時代を造る位に發達したと同時に庭に於ても一つの樣式が出來る樣に成つた即ち寢殿式の庭と云ふのは此の頃の庭である。寢殿造の建物の周圍に小さい水流を廻らして所々に欄杆の反り橋を架け御殿の正面の左右には壺をこさゑて其の中に藤や橘や櫻等の花木を植ゑこむと云ふ風の庭の樣式である、俗謠にも

御所の御庭に右近の橘左近の櫻……

と云ふものが遺つて居る。今でも寢殿造の建物の前にはこんな植樹法が行はれて居る事は京都

の平安神宮等に參詣すれば判かる。

昔の物語等に出てくる藤壺とか桐壺とかと云ふのもこの庭の植壺をさしたものであるこれから考へると此の頃の庭は多く一種の簡單な形式によつて造られて居た事が判かる從て餘り深い意味を持つた庭でなく單に建物の前を飾る一つの裝飾法であつた樣に思はれる。今此の頃の庭のチピカル(代表的)なものを圖に示すならば第一圖の如きものであらう。

此の頃出來た庭で有名なものは神泉苑と河原院の庭の二つである。今日京都上京區御池通大宮御所の傍に殘つて居るのは其の一部分で同七條高



第一圖

倉東本願寺別邸枳殼邸の前身は河原院の庭である

神泉苑は桓武天皇平安京奠建の時に造られたもので東西は十四丈南北百七十二丈の地に大池を堀り其の中に島を設け山を造り大木が鬱蒼とし周圍を繞して居た、其の中央には乾臨閣と云ふ御殿があつて時々觀櫻、觀菊又は鷹隼を放し白鹿を追ふ等の御遊びがあつたが當時は禁苑であつたから多くを窺ひ知る事が出來ない。今日遺つて居るのは其の一少部分である。

河原院は源融公の第宅で矢張山水庭であつた其の趣向は陸奥國鹽竈の勝

景を庭中に模造したもので毎日大阪(昔の難波)から潮水廿斛を汲ませて大きな竈に入れ鹽を烹る眞似をして煙の立ち昇る景色を眺めて喜こんで居たと云ふ頗ぶる大名式な大仕掛の庭である我國で名所舊蹟の景色を自分の庭中に寫す樣に成つたのも全くこの頃から起つた事である。

尙此の外天子の營なまれた嵯峨院雲林院、花山院、朱雀院、冷泉院等の庭や藤原直長の京極第、同基經の粟田院の庭等も其の頃の名園として擧げられる。

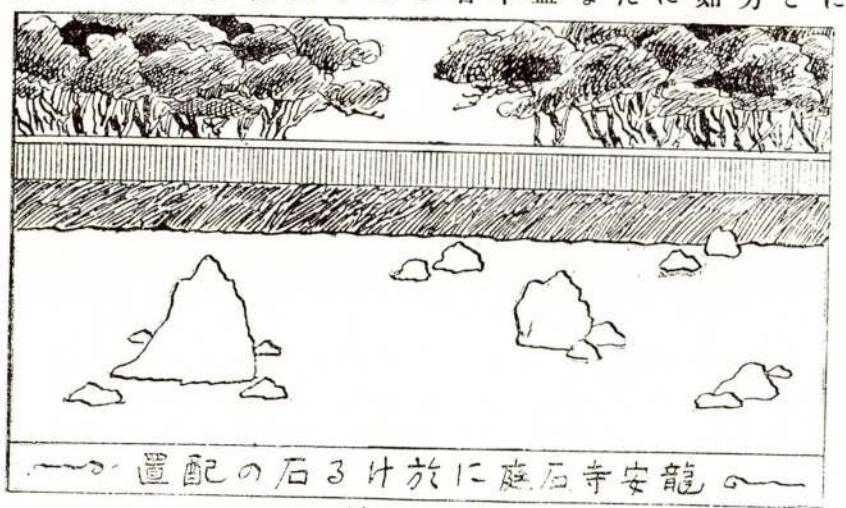
斯の如くにして庭造の術も漸く興り所々に名園も顯はるゝ樣に成つたが、平氏の爲に藤原氏は從へられ平氏は又源賴朝に亡され等しく茲に古今未曾有の大戰亂起り折角萠芽した洛中の庭園も多く烏有に歸し造庭術の進歩も此所に一頓坐を生ずるようになつた。即ち國勢が一變して政權武門に移り**鎌倉時代の庭園**源賴朝が幕府を鎌倉に移してからは專ら質素を旨とし尙武の氣風を奬勵して造庭と云ふ如き方面は敢て顧みるの暇がなかつた爲に造庭の術は大いに衰微した

然し茲に注目すべき事は佛敎の隆盛と云ふ事である世の中が亂れて人心が殺伐に成ると死人を見る事も珍らしくなくなり自己の生命も保障が出來なくなる、即ち世の無情と云ふ事も感せられ易くなる。鎌倉の時代には我國の佛敎も徹しく盛に成つた、そうして僧侶の間には修行を積む一つの法として坐禪を組む事が流行した。坐禪は即ち今日の所謂精神統一の一法であるから是をやるには極靜かな林間や山の中に限る、然し毎日山に出掛けるのは大儀であるから多くの僧侶は自分の寺院の裏に山水の形を摸して、石を組み樹木を等植ゑて所謂庭を造り庭内に坐禪石等と云ふ大石を据へて其の上で精神統一を行つた。

これが即ち、この頃の庭と成つた。從つて極自然で靜寂治淡に富んだ造り方で石や樹にも佛名等を配するとさへあつた。今日遺つて居る日本庭園の立石法は多くこの鎌倉時代に案出されたもので全く僧侶の手に成つたものである。今でも京都花園村妙心寺塔頭雜華院の庭石には十六羅漢の像がなぞらへてある。

こんな風に殆んど斷絶せんとした我國の造庭

術も漸く此等僧侶の手によつて維持せらるゝ事となつた特に庭石の立て方の如き樹木の刈込みの如きは後世の範と成る迄に立派なものが案出された次で**室町の時代**になつに成つては禪宗の隆盛も其の極に達し禪僧の中にも活躍飛動の著しき者があつた。彼の有名なる夢窓國師（疎石と號す）の如きは學もあり詩文にも通じ風流で而も禪機に觸れ一草一木にも眞如の相を觀じ山色に佛身を思ひ溪水に長廣舌を聽き花紅柳綠を翫び到る處に林泉を造つた。今日遺てつ居る西芳寺（葛野郡松尾村）天龍寺（同嵯峨野）金閣寺（鹿苑寺）の庭の如きは彼夢窓國師一代の傑作である。世人が夢窓國師を以て我國造庭術の鼻祖であると崇ゆるのも決して溢美の言ではない。



龍安寺石庭に於ける石の配置

第二圖

國師の造庭法は泉石樹木の配置頗る自由にして妙を得特に遠山の景色を庭中に取り込んで今日の所謂借景法なるものを案出した。

義滿が北山に金閣を營み義政が東山に銀閣を作つてからは奢侈風をなし造庭法の如きも大變な進歩を示した。

現存して居る京都寺院の庭園は大部分此の時代の産物である就中相阿彌の作として傳へらるゝ銀閣寺の庭、大仙院（大德寺塔頭）の庭龍安寺の庭、清水成就院の庭、青蓮院の庭、等統院の庭の如きは其の主なるものである。

相阿彌は藝阿彌の子で其名を眞相と云つた。畫家で茶を嗜み禪僧によつて傳へられた造庭法に一面を加へて一種獨特の風を爲した。即ち木や石や流れの配置は悉く畫趣にもとづいて、これに茶味を加へ南宗の氣韻ある好尙なる林泉を造つた。彼の代表的作品である龍安寺の庭を說明しよう。

龍安寺は京都府葛野郡衣笠村字谷口にあり臨濟宗妙心寺に屬して居る。もと足利管領源朝臣細河勝元(法名を龍安寺と號す)の別莊であつた勝元は庭中に一木をも植ゑず一面白砂を敷き其の中に十五ケの石を配して大河の樣を寫した、世に此の石組を「虎の子渡し」と云ひ傳へて居る。虎の子渡しとは虎が子供を啣へて河を渡つて居る有樣を石にて寫したと云ふところから命名されたもので、これは支那の一挿話からとつたものである、『虎が三つ兒を產めば其の中一つはきつと豹である、この豹は母虎の目をぬすんで、すきがあつたらば自分の兄たり弟たる二兒を喰つてしまおうとする。或日のこと會々母虎は三兒を伴ふて一つの大きな河を渡ろうとした然し若し母虎が僅か一兒を啣へて渡つたならば豹はきつと殘つて居る子虎を嚙み殺すには違いない、茲で母虎は大いに心配して一案をめぐらした、即ち初め先づ豹を携へて河を渡り歸りには折角初め連れ來つた豹を再び啣へ歸りてもとの岸に止め他の子虎を渡して更に引き返し最後に豹を渡した、かくの如くにして三兒共に安かに河を渡り得たと云ふ。』

この趣をとつたのが、この庭の石組である、旨川愿氏の詩に『一庭空曠白砂平。頑石誰、舖形勢成。宛似昔時渡溪虎。』とあるが其の一斑を窺はれる。

この庭の生命とするところは向ふに遠く見へて居る城南八幡山と土壁越に植ゑてある松林である。

單に庭中の石組其者を觀ては何等の興味もないが遠く見ゆる山とこれをつなげる松林がある爲に偉大なる大自然の風貌が顯はれて居る。こゝに相阿彌の相阿彌たる價値が認められる。

此の如く室町時代に到つては造庭に妙を得たる僧侶、畫家茶人の徒輩出した爲に京都は勿論到るところに名園が出來日本庭園に動かすべからざる一種獨特の特徵を成した。今日室町の時代を我造庭史中の黃金時代として賞するも決して過言ではない。(續く)



私は都市計畫に就て斯う想ふ

大阪土木建築業組合常任評議員 山本辰五郎

□近代文化は都市民をして漸く都市計畫の最も意義あるを自覺せしむるに至つた。政府に於ては、業に都市計畫調査會を新設し、都市の交通保安、衛生、經濟等に關する調査を爲し、各專門家を網羅して都市計畫に關する根本的調査をなしたる結果、遂に、這般、市街地建築物法及都市計畫法の發布を見るに至つたのである。これに續ゐて六大都市等夫れ〳〵專門的機關の充實を圖り、過去數百年間、自然の膨脹のまゝ果ては今日の不自然不秩序なる都市の大改造に當らんとしてゐる。

□今日、都市計畫に將に着手せんとするを見るに至りしは、都市經營の研究家たゝ我專門技術家が、或は行政に、或は衛生に、或は交通保安に、或は住宅問題に、其他都市計畫上必要とする凡ゆる調査を基礎として、之れが實行の急務を論議した結果にして、換言すれば、都市計畫を一般世人が重視し且つ文明國として輕んずべからざるを自覺せしむるに至りしは、偏に、我技術家たる建築士の方々の努力の賜である。殊に、國家百年の大計畫たる本問題を十數年間一日の如く論議しつゝあゝ某建築士の博學浩識の力與つて大なるものあるを忘るべからず。

□謂ふまでもなく都市計畫には高遠なる文化的理想を含んでゐる、都市を組織的に改造し、有機的に發達せしめんとするには、开處に、都市

文化を基調とした綜合的計畫があらねばならぬのである。本計畫にして若し都市に於ける高遠なる文化的理想と、將來の計畫とを輕視するものあるときは、折角の計畫もそれだけの成果を收め得ないかも知れぬ。併し、私は今日の計畫が、幸にして、これ等の條件を備へつゝあることに力强く感ずるものの一人である。

□都市計畫は、即ち、雜然として不自然なる現都市を理想的に改造せんとするもので、謂はば私等が塵垢の裡に惴々として疲れた一刹那、窓を排すれば窓前の新綠滴るばかりにして、その生々した綠の葉摺から慄々と吹き入る一陽の風に、心も身も爽かに生き返る如き氣分と同じである。誰かこの爽かな心地に接するを忌むべきものやあらむ。

□都市計畫の必要は既に自明の論にして敢て茲に贅するまでもない。併し、私は、我都市民に今少し都市計畫の必要を普及せしめたいと考へる。即ち大大阪の建設に伴ひ、大阪市民に大市民的自覺を促さんとするのである。國民に國民的自覺を必要とする如く、大都市の市民は亦市民的自覺がなくてはならぬ。市民的自覺とは、謂ふまでもなく、その市民たるを以て自己の矜りとし、その都市の發達を圖り、その都市の合理的繁榮を圖るは市民たるものの任務たるべき都市民的責任の自覺を最も必要とするのである

□大大阪は今や將に實現すべく計畫せられつつある、今日市民若し愛市的觀念を忘れ、些々たる蝸牛角上の爭をことゝするには、折角の計畫を圓滑裡に運用せしめざるに至るやも計り難し。都市として價値なき雜然たる大阪市を世界的大都市たらしめんとするには、多少の犧牲は之を覺悟すべきである。苟しくも市民は斯る公共的事業に對しては自我を捨てて大同すべき覺悟を必要とし亦理解を必要とするのである。之れ聽て意氣ある都市の建設を見る所以にして、都市的の幸福を增進せしむるものなればなり。

□私は飜つて、同計畫が漸次進行するに伴れ、現在の都市をして何の程度まで改造し得て高遠なる文化的理想を實現せしめ得るかに尠からぬ

趣味を有する者である。最も是には、私共の常に畏敬して止まざる建築士及専門家が最も熱心に調査してゐられるので技術的及専門的論議は之を措くとしても、本計畫中の主なるものは、交通運輸系統の整理、地下埋設物及路上工作物の整理、補助路線の選擇、商工業並に住宅地區の制定、接續町村の編入、土地の區別整理、大小公園運動場其他休養場新設、市場、墓地、火葬場の施設、上下水道の整理などが先づ重要問題ではあるまいかと思はる。

口之等の諸問題に對しては、私の畏敬して止まない片岡安先生が、普通人の考究し得ない程度迄大研究されし結果、夫れ〳〵、先生の高遠なる識見と相俟つて弘く世人を指導せられ、之れが計畫者に絶好なる參考資料を與らへれつゝあるのである。

口都市計畫實行上必要とする事業及其方針は、片岡先生の指導によつて既に明かに了解せられてゐるが、果して、大阪市が之等の計畫を如何なる程度まで進め得て、當初の問題の目的を達し得るか、これが問題である。これには財源の伴ふのであるから更に問題とせなければならぬ大阪市は混沌たる狀態にあるので之を整理し、世界的大都市たらしめんには、容易でない。その容易ならざる計畫を間然するところなきまで實行せしめてこそ計畫も價値あれ、僅かに、その幾多計畫の一部を而かも幾年かの後に辛じて漸進せしむるか如きは何等の意義を爲さないことゝなる。斯くて之を都市計畫なりと唱ふるか如きは、一肢を撫して大象を想像せしむるよりも尙ほ困難であらねばならぬ。

口即ち、都市計畫は、常に片岡先生が唱へられあるが如く、市民の大覺醒を促し理想的都市を建設せなくては何等の意義を爲さないである。

口私は、技術的に暗く專門的に不識であるが、大阪市民は現在の道路を何と見る。現在の雜然たる商工業地及住宅地を何と見る。非文明的にして不衞生的、實に野蠻都市の象徵とも謂ふべき大阪市全体を何と見てゐるのか。一度降雨せば道路は泥濘深く、然らざれば砂塵濛々として

天を蓋ひ、剰さへ煤煙と灰燼は不斷に市全体を包圍し、衛生上有害なるは勿論　これがために建築士の方々が、折角努力して竣功せしめた建築物を幾年ならずして其美觀を損失せしむるなど、これがために都市の美觀を損することは蓋し尠少でない。私の如き何等の修養なき素人と同じものの眼に映じた欠点のみでも殆んど數ふるに遑がない程である。之等の凡ゆる欠点と短所を矯正し、理想的都市を建設せんとせば、幾多の難問題に逢着すべしとは謂へ、これを達成せしめなくてはならぬ時代となつたのである。

口私は常に想ふ、斯る計畫其ものは、建築士の方々に一任し、委員又は其市當局者は、建築士の方々が計畫せられた施工に要すべき財源の案出及施工を容易ならしむることに心して欲しい何等專門的智識さへ乏しいものが委員として徒らに論ずるの不可なることは贅するまでもない故に、私は、此際、其市當局者は須らく建築士の方々に計畫を依頼し、其目的を達するに遺憾なきを期して戴きたいと考へる。

獨逸の都市計畫

個人の建築でも敷地が定まると、之を標準にして、門庭園、物置、所便、それから間取りを一々圖引をして敷地全體を統一ある住宅とする。

之と同じく、市區設計でも矢張り全市域を標準にして鉛管鐵管の敷設圖が出來る大道以下各種道路の方向幅員等が定まる從つて又運動場・公園の位置抔が決定せられ、中心市區が設けられる、大體其案が市會を通過すると、是は先づ殆ど確定的のものとなるので、市民中には、必ずしも異議を申立てることが出來ぬのである。

そして之を立案するにも、市當局の手で自らせずに、廣く此道の大家の間から懸賞的に案の募集を爲すこと



現代都市は眞に生きつゝある乎

江村郊邨

――ベルドランド・ラッセル氏は、其著『社會改造の原理』に於いて（社會の）『成長發育の原理』なる章下に論じて曰く、『個人間に於ける好關係の二大淵源は、本能的愛好（同氣）と共同目的である。此等二種の中で、政治的には、共同目的の方が倍して重要と見わるかも知れぬが、實は、其共同目的は屢々是れ本能的愛好の結果である、之が原因ではない。生物的集團は家族より國民に至るまで、本能的愛好の程度の深淺大小に仍つて構成せられ、此の基礎上に其共同目的を建設するのである。』と。惟ふに、都市生活は、其生活に藉りて都市民の達むとする共同の目的を有し、斯の目的は、嬰て、有機體としての體市自體の目的である。然らざれば、單り都市許りでなく凡ての社會生活は、只雜然混然たる人類の聚團に過ぎずして、社會生活といふことは、所謂、各人の聯絡なき統一なき偶然の寄合世帶に過ぎないことゝなる。

――斯くの如きは、社會を夫れ自体として觀るとき、其社會なるものは對觀者の腦裡にける唇氣樓的な想像であつて、勿論、『社會』なる實際即ち有機物としての『實體社會』は存せないのである。都市夫れ自体としても、素より一箇の有機體として實體を認むる以上は、其處に、斯の有機的な生存目的があらねばならぬ筈である。其生存目的は、即ち、斯の社會組織に藉りて達せむとする處の『共同の目的』其ものであるる

――而して、其共同の力に藉りて達せむとす

る目的とは、素より、其生活の形式と程度に依り、又軈ては其社會人の能力に依り、具体的には必ずしも一樣ならざるべきも、之を抽象的に云ふならば、彼等は之に藉りて最上の幸福を獲得せむとするに外ならぬ。而して、何が幸福かといふとは、勿論各人の主觀的に決せらるべきであるも、其各自の追求する幸福を得むとすること、少くとも衝突せない範圍に於て各自の握持せむとする幸福は、斯る社會的共同の力に藉り初めて達し得るのである。

――併し乍ら、我等社會人の共同の目的は、ラッセル氏も云つたように、各自に相許し相愛する感懷の上に築かるべきものでなければならぬ。蓋し、共同の目的といふからには、恰も、一箇の所有物が、意識的には其所有部分のをのづから限界されあるも、物自体としては、各部は各自の所有目的部分たると同時に、各自は亦其物全体の所有者である如く、畢竟、不可分の關係に在るに等い。されば、社會的生活に於ても、斯の不可分なる共同目的を有する限りは、其生活上に於ける各自の行爲は、凡て斯の目的に向つて稗益し助成し援護するものであらねばならぬ。

――然るに、現代の凡ゆる社會生活殊に都市社會生活は、カーペンター氏の『吾等は時勢や傳說や、習慣に依つて四圍を封せられてゐて、事を爲すの習慣的であり、無意義的であり、傳說以外には何ものをも表現することは出來ない。吾等は自己の腕前を示すことを怖れ、平凡な車の跡を追ひ、怠情な一致を求めて迷ふて居る。でなくば、パンの奴隷になつて汲々として働き、四六時中一、二時間も吾がものになれば得たりと思ふ樣になる。』『絶へず自己の思想感情を隱して一生を送る者や、奴隷の樣に一生人から絶へず強迫されて生活するものは、生きるのではなくして、唯存在するまでゝある。』と云へるなどは勿論本來の目的を逸した處の生活である。

――視よ、由來、都市は文化の淵源であり一國化育の中樞であるとせられたのであるが、現

代の都市は、寧ろ極めて不健全な風潮の發生所であり、人類の墮落的反映の縮圖とも云へる所謂社會問題の大部分は都市に於けるそれである人間のダークサイドは、亦實に現代都市内に於て最も濃黑ではないか。所謂『人多ければ事繁し』の因果觀を以て、之等の事實を過眼視し得べきものではない、其處に、都市共同生活の眞目的を意はず、只自我的にして割據的なる生活あるのみである。

——意ふに、都市の膨大なる人口の抱容や、又勿論之と關聯するであらうが　經濟上の膨脹を以て都市の健全味を歎美する譯には往かない。隨つて、之等の事實のみを以て、一國文化の源泉であり又化育の中樞である能動性を有するものと斷じないのである。要は、都市社會人は眞に自己に醒めて、克く都市生活の目的を理解し、各自が、否な、少くとも、其都市生活に重要な位地を有する人々が、自己の生活を斯の目的に振り向くることである。即ち、少くとも斯の人々は、先づ、徒に功利を追ふなく、物質の奴隷となるなく、『共同の目的』又は『共同の生活』に飽迄自己生命の眞の價値を表顯し、創造し、以て、多衆を率ゆべきである。憾ふて此處に到れば、わたくしは現代の都市は、殊に我國の夫れは、果して、都市本來の目的の上に有機的生活を遂げつゝあるや否ややをわたくしは疑はざるを得ないのである。

福利主義の都市行政　抑も都市の福利行政は、學說に基きて一の理想鄕を造らんとするに非す、一は社會實際の進運に應じて市民全般に通じ其公共の福利を進めんと勉むるに在り。其活動や實驗的にして、虛想的に非す。國家が其全般の利益圈に向て其行政權を振張するものあると等しく、其統治の下に於ける都市も亦此國家の鐵路と相駢進して地方の利益圈に向て其行政權を擴張すべきは固より其所なり



新聞記者として見た名士の邸宅（四）

讀賣新聞記者　梅谷孫吾

═中山侯爵邸═

一　趣きのない鐵の門

何んでも孝麿侯爵が京都で亡くなられて間も無い頃であつたと思ふ、私は或る事件の研究を命ぜられて赤坂表町へ、公卿華族として知られたる同侯爵邸を訪れて行つた事があつた。處は高橋是清男の御並びで、青山一丁目から西へ掛けて一町餘に亘つた日本風の堂々たる塀を廻し正門は鐵製の純洋風で、その門へ幅七寸長さ一尺五寸も有らうと思ふ名札が掲げられてある。

處が、瓦を載せた壁塗の塀と、鐵の門とは全然調和取れてゐない上に、權式張つた馬鹿氣て大きい名札が邪魔をして、門内は一帶に玉川砂利が敷詰められて、青葉がこんもりと茂つてゐるに拘らず、幽邃どころか、何んと無く俗つぽくて何故した譯か自から襟を正すといふやうな

趣がちつとも無いのである。

それは當時私の胸の中に持つてゐた事件其物が既に面白くなかつたからでもあつたらふが、門内には日本風の番小屋が見え、塀も日本風であるのに、門ばかりが洋風のしかもけばけばしい感のする装飾があるからで、不調和がやがて其處に矛盾のある下品といふことになつたのであらふ。

二『殿様の御下駄箱』

門を入つて右へ廻ると玄關だが、邸は全然公卿屋敷といふやうな日木式で、右手にまた硝子戸などが立つてゐて家人は此處から出入りをしてゐるやふだ。玄關の中は今度はゴムを敷いた洋風で左手に應接室、右手に家職の室らしいのがある。

私は應接間へ案内され乍らひよいと正面を見ると、其處に『殿様の御下駄箱』と云ふのを發見した。斯うした仕事をしてゐるので隨分色々な邸へも出入をするが、この殿様御下駄箱なるものは、私の眼を驚かしたる最初の一つであつて、また恐らく最後の一つでもあらうと思つてゐる。

私に許された應接室は、八疊敷ばかりの絨緞を敷いて、卓を置いて、一方に眞白い日本風の唐紙を閉め、一方は硝子戸が立つて庭が見えるといふ、洋室ともつかず、日本室ともつかぬ一室で卓へ掛つた頗る立派な絹製のもの——恐らく錦とか何んとかいふのであらふ——など、如何しても普通外れがしてゐるのでよく〳〵考へて見た處が、勿論これとそれとは別物だが、赤坂の東宮御所の應接室や、故竹田宮殿下の高輪御殿の應接室とふやうな様式を取つてゐるものである事が解つた。

三『敷島の』御振舞

家扶と會ひ家令と逢つて話して見ると、此人達はまたこうした應接室には似合しからぬ碎けたもので『殿様』だの『何々様』だのと私共平民には公卿芝居でも見てゐるやうな言葉を使ひな

がら、番茶を出して呉れたり敷島を入れた煙草盆を持つて來たりして呉れるし話もざつくばらんで面白かつた。

此大きな名札を出してゐる御屋敷の長男は未だに行衛不明だし、次男は府下東中野で酒屋をしてゐるし、今の所謂『殿樣御下駄箱』の主人公は、帝大の商科へ通つてゐる御二男に渡らせらるゝのだそうだ。

═島田三郎氏邸═

一　角子戸の入り口

島田三郎氏も、近頃はだんまりん坊をやつてゐるが、其實沼南老いよ〳〵健全也矣なのである。麹町六番町大臣横手の端に住んでゐて、中橋文相の處からだら〳〵下りに成つてゐる閑靜な處だ、周圍總てが大きな邸のみで、塀ばかりで街並が出來て居り、樹が一ぱいで本當に靜かなものである。

日本風の冠木門で、名札には頗る達筆に『島田』とだけ書いてある。石疊が門から玄關迄敷いてあつて、右と左には花卉類が澤山に植ゑられてゐる上、に實によく掃除が行届いて見るからに氣持の良い住居である。

玄關――一寸玄關と言葉は當らない、所謂入口は綺麗に拭き込んで角子戸で、三和土になつてゐる三坪許りの庭は、何時行つても良い加減に水を撒いて濕めらして、且つ塵一つ落ちてゐない。突當りが壁で、右手が上り口、こゝへ一寸二尺許りの椽といふやうな圖のものが出てゐて、これがまた顔が映る位に磨き立てゝ拭いてあるのだから、塵だらけの足袋では一寸御邪魔もしかねる次第である。

二　塵一つ見えぬ庭

案内をされて書齋迄通る間、隨分色々に曲りくねつて行くが、此間の廊下の板は、入口の椽のやうに、何處も此處も輝き渡るやうになつてゐて、うつかりすると辷り轉びでもしそうな位である。西洋臭ひ香のちつとも無い純日本式の

室内で、廊下の多い、その廊下に添ふて庭の多い、私などに云はせると、先づ理想的な住居である。

庭は割合にあつさりしたものだが、これもまた掃除が行届ゐて、目觸りになる葉一枚も打捨てゝは置かない。沼南老が丹精なのか、家族の人達が丹精なのか、兎に角、氣持の良い邸である。

沼南老は絶ゑず笑ひ乍ら話す。初對面の時々私を捕へて、『あなたは何才になるの』『學校は何校だ』のと隨分いろ〳〵な事を訊いて、政治家——殊に政黨の人達は、稍ともすれば嘘八百を並べて白を切るのに拘らず、島田氏だけは、あれは斯う、これはあゝと、噛んで含めるように話して呉れる。これを面倒臭がらない間は、默つてゐてもまだ〳〵氏の人氣は落ちないといふものだ。

氏の邸宅を一言にして云へば、金持の隱居さんの住居かとでも云つたら適評かも知れないと思ふ。

末松謙澄子邸

一　門に大きな定紋

芳川伯が死なれた時にたつた一度お訪ねした切りである。伯がもういよ〳〵駄目となつたので電話で此事を申入れて、面會をお頼みすると『いやしくも息の通つてゐる間は伯に就ての一切の話はすることが出來ない、死んでから來て呉れ』といふので、仕方なく伯死去の發表がある迄待つてから出掛けて行つた。もう日が暮れやうとする時刻である。

末松子爵の門は大名構ゑと迄は行かなくとも先づ其形式で、殊に私の珍らしかつたのは門の正面の鴨居の上に大きな子爵の定紋が彫刻してあつた事で、之れから以後、大名華族の前を通る時は、電車へ乘つてゐても注意して見るが、まだ斯ういふ定紋付の門を見た事は無い。紋印は記憶しないが何かこう下り藤といふやうな格構であつたと思ふ。

二　炬燵に入り乍ら

直ぐに通されたが始めの邸である上に、もう家の中などは暗くなつてゐるのに電燈が点かないものだから足許が危なくて堪らない。薦を敷いた廊下が處々に高低があつて、奥へ行く程少しつゝ下り氣味なもんだから、一寸踏み脱すと大變だ、廊下の隅に、何か置かれてあつたが薄暗くて解らなかつたやうに覺えてゐる。

廊下の突當りで、一段下つた處に子爵の居間があるが、炬燵をかけて入つてゐられて、私の顔を見ると直ぐ『今君の電話でこれから芳川家へ行く處ぢや』と云ひ乍ら『入つて暖まりなさい』と頻りに炬燵を勧めて呉れる。女中が熱い茶を持つて來て漸くかちりと電燈が点もされた。

私はまあ良かつたといふやうな氣持がして四邊を見廻した。南向きに椽側のある二つの日本室を打通した室で、色々雑多なもの、例令ば本だとか、書類だとか、硯箱だとか、其邊に處狭しと散らばつてある。

豫ねて子爵は官僚畑だから、非常にそうした臭味のある人だと聞いてゐたが、實際會つて見ると、少なくとも私にとつては、決してそんな人とは思はれなかつた。煙草のやよひをすぱり〳〵と喫み乍ら、時々癖のやうに齒をきり〳〵と嚙んでは打ち解けて色々な話をして下さつた。

其處へ書生が『お馬車の用意が出來ました』と知せて來たので、それを機會に私も立ち上つて玄關へ來ると、もうちやんと一頭立の立派な馬車が待つてゐた。門を入つて右側に妙な小屋があると思つたが考へて見ると馬車の置場であつたのであらふ。

江木喪氏邸

一　旗本屋敷の名残

江木冷灰博士が輕井澤に別荘を有つて居られる事は誰知らぬものも無いが、東京にあつてはお住居であり事務所である神田の邸が一つである。須田町から昌平橋へ出やふとする處の突當りで、相當な旗本屋敷だと云ふ事だ。

黒塗りの冠木門だが、黒塗りと云つた處で只黒いといふだけの事で、極く粗末な上に、一寸

低い處へ建つてゐるから甚だ引立た無い。門の左右はお長屋になつてゐるが、これもまた相當な年代がついてゐるから決して綺麗だとは云はれないものである。

門内は右手に車置と供待がある切り、一二本の植込位の物で、甚だ殺景風だ。それに正面の玄關がまた恐ろしく古くて、四五坪も有らふと思はれる板張りから段を上つて疊に成るのだがこの板張がまたそれ相當に古臭いもので、正面に掲げられた支那の大きな額（龍や何んか彫刻してあつてその繪具が剝ちよろに成つてゐる）から受ける感じと、芝居にあるやうな大模様の唐紙から受ける感じと混和して、其處に冷灰博士一流の風流味と皮肉味とが生れてゐる。

二　落着いた應接室

或る人が博士の邸を訪ねて、その餘りに古色蒼然たるに吃驚し『金に不自由無く、殊に派出な夫人にして知られたる同邸の、こうした有様は、夫人が自分の容色を尚一層美しく見せる爲めに、周圍は故意に打捨て、置くのだ、所謂掃溜に鶴の智を汲んだものだ』と知つたか振を云つて居たのを知つてゐるが、これは餘りに穿ち過ぎた觀測で、要するに博士の趣味に共鳴し得ざる人の言葉などである。汚ないといへば汚ない、しかし云ふに云はれぬ趣の玄關構である。

應接室は椅子やら卓やら澤山にあり毛皮類が敷き詰められて、如何にも落着いた打解けた空氣が溢れてゐたと思ふ。大きな椅子には古い布が掩はれてゐる。御佛前へ備へるやうな腰の高い黒い茶卓に載せた大きな茶碗で熱い番茶を持て來て呉れて、暫くすると博士が出て來た。お召の綿入に袷を重ね同じやうな羽織を來て、縮緬の帶をだらりと前の方で結んでゐた。

話し乍ら見ると、東側の壁に掛軸が三本下つてゐて、時計やら置物やらが仲々上手に飾られてゐる。餘り室の中に空隙の無いやうにしたのは、打ちくつろがせた落着き味を自然に見せる爲めであらふ。私は要件を濟ませて歸る迄、博士が帶を前の方へ結んでだらりとしてゐるのが氣に成つてならなかつた。

處が後で、同じ辨護士をしてゐる大塲茂馬博士に會つたら、博士も矢張り髪の毛を冷灰博士のやうにもぢや〳〵にして、帶をだらりと前へ結んでゐた——これは一日中椅子に許り倚つてゐるので、後へ廻して置いては邪魔だからだな——と此時初めて氣が注いた——つゝく——

都市計畫の觀方

交通問題より觀たる都市計畫
殊に大阪市の夫れに就て

工學博士　岡　胤信氏談

▲交通問題といふも此處には一市内に於ける高速度の交通機關に就てお話しましよう。昨今に於ける大都市は、面積に於て世界的に膨脹しまして西洋の大都市では普通の交通機關ではいけない、方々へ立寄る普通の交通機關以外に非常な早い速力でもつて、長い距離を乘るといふのが一つ必要になりました。其次には、市を通り抜けて行く高速度の交通機關が必要になつて來て居ります。仍で、斯ういふ交通機關はどういふ方式かと云ひますると、普通の市内電車のように、地上を走ると縱横に道路かあり、市街があり、又河川抔があり、頻繁な人の往來が交通を妨げますから、高く上げるか地中に埋めるか、此の二つより仕方がないことになります。仍で、大都市の斯ういふ機關は高架になつて居るか、或ば地下になつて居りまして地下も、倫敦邊りは二重になつて居りまして、淺いものもあり又すつと深いのもあります。是は人が非常に多く集つて來ますと、どうしても斯ういふことより外に解決の仕樣がないから起つて來るのであります。

▲問題を小さくしまして、大阪で此の高架と地下の何れに據るかと申しますならば、金があり經濟も許し、確に是が出來て將來大丈夫であるといふことが出來るならば、無論地下線が宜いと私は信じてゐます。併し、私は、甚だ淺學でまだ十分な研究が積んでゐない爲でも厶いましようが、大阪の如き地盤に於て長い壓道を掘へて、それが地震のとき壞れないといふことを保障するだけ大丈夫なものを掘へ得るといふ自信はありません。それならば、厚い鋼を以て大きな管を造り之を埋めたらどうか

是は出來得ないとは申しません。けれども、厚い鋼にも自ら程度があります。非常に長いものになりますと、軟かい處に埋めれば眞直になつて居りません。どうせ人間が拵へてゐるセットや釘で打付けたものですから、地震のとき抔はそれが離れないとは申されませぬ。すつと下に堅い基礎がある處ならば、或は其處まで下げればお請合することが出來るかも知れませぬが、御承知の如く大阪の地盤は、極く剝り易く申しますれば三四十尺下—是も大阪全體の地下ではありませぬが—今日まで知りました所では、先づ東横堀から海に面した處であります。就中、西横堀から海に面した處は、四五十尺より下は頗る軟かく、恰當豆腐の上に厚い餅を載せた地盤のように考へます。仍で、此大阪で深く堀りました地盤といふものは、私自身では殆ど百尺程の工事をやつた經驗しかありませぬ。他に井戸を掘りましたのは三百六十尺まで下けたのでムいます。是に就て古くから出來てゐるのが天神橋と天滿橋で、此の二つの橋柱が深く下つて居ります。妙なことに下へ行けば行く程地盤が固くなりそうに思はれますが、決してさうではありませぬ。

▲仍で、此の下の方になゝとごういふ軟かさであるか、といふ一例を申しまするに、西成線を拵へますときに、元の安治川停車場から、更に築港で埋立でをしました櫻島停車場へ行く間に小さな入江が殘つて居ります。之に橋を架ける爲に煉瓦の井戸を降げた、それは十尺づゝのもので、それを度々沈めて上へ上へと繋いで行きます、それを三つ即ち三十尺沈めるまでは地上の固い處で壓されて保つて居る、それで、なか〳〵入らないから、もう止まるだらうといふので長い間試驗をして居つた、處がまだ止まらぬといふので、もう一つ其上に重れた、ズン〳〵沈めて行くと、下の方がコロッと取れた、極く下の方は泥である、仍で、上から固凝土を詰めて、其斷面を圖に描きますと、眞直に井戸が這入つて、それから下には大きな團子みたような固凝土の塊があつて、それで現在の橋が保ち、其上を瀧車が通つても差支ないだけになつて居ります。今日まで隨分いろ〳〵な人が研究したのに、和蘭に於ては地下線を設けるといふとはまだ問題になつて居りませぬ、是は殆ど大阪の下の方と同じ地盤と考へます。それで、確信を以て出來るといふ人があり、又其人を全體の市民のお方が信じ—或は外國人でも構ひませぬ、智識のそこに達した人であれば—其人に教を乞ふてやるが宜しいと思ひます。現在の大阪の町に於きまして、高い建物を建てゝ保つであらうか什うであらうか、といふ疑ひは從來もムいましたが、日本銀行の如き、或は三越の如き大なる建物が出來まして、多少基礎に於て狂ひが出來たかも知れませんが、先づ用ひる上に於て響を生ずる程の狂ひが今日まではないのでムいます。斯の如く試驗された地上の建物がある、即ち豆腐の上に餅を載せたような地盤の上に出來た物が保つてゐるといふ證據があるからには、之に倣つて宜いお考はありましまうが、之に反して、まだ大阪のような地盤に地下線なるものを設けて保つかどうか、といふことは、淺學なる私はまだ之を存じませぬ。

▲併し、私は、大阪の地下に大きな管を埋設してやるといふことは、どうも技術者として確信がありませぬ。幸に、外國なり

其他の例も聞き、教へて戴けは幸ひだと思ひます。先づ今日の處では、大阪市の高速度交通機關は高架なるように聞いて居ります。若しも高架線が悪いといふ時には、其鐵を取外して他に使用するといふことになりましたならば、費用として非常な損はないと思ひますので、一方には試驗費を拂つて、地下の或部分にさういふものを設けてそれが將來どういふ風に變化するかといふ試驗をすると同時に、今日では交通機關が非常に足りないから、少しも早く高架線を掛へて、十年の後に更に研究を積んで是で宜いといふ確信を得てから地下線を設けても、決して遲くはないと思ひます。一概に無謀とは云はぬが、確信のない地下鐵道を今日からやるといふことは、誰が責任を以てやるにしても、非常に困難事であると思ひます。

△△給水事業より觀たる大阪市の都市計畫

大阪市水道部長　澤井準一氏談

▲我大阪市は、既に工業の基礎確立し、各地の原料品は競ふて此處に蒐集せられて其加工を受け、更らに商業的機關に賴りて需用地に供給せらるべき大勢は亦動かすべからざるものがある私共奈何に控目に大阪を評價せんとするも、斯る趨勢に於て、其發達が近き將來に靜止の境遇に遭遇せむとは、之を想像し能はないのであります。私共は之を過去の歷史に徵し、之を現在の事實に鑑み、仍つて以て其將來を卜するに於て、我市の膨脹發展は、更により以上なりと云ひ度いのであります。

▲大阪市の大勢既に彼様であると致しましたならば、市たるもの勿論之に應ずべき施設がなければなりませぬ。我市の將來に備ふる所謂都市計畫は果して什うでありましよう？。惟ふに、都市の膨脹發達に應ずべき施設として考慮し研究すべきものは一にして足らざるも、市民の健康を確保し、財產の安固を企圖し加ふるに、商工の發達に資すべき給水機關の完成の如きは殊に等閑に附すべからざるもの一つであります。苟も之を等閑に付するものありとせむか、人益々多くして、水は愈々少しと云ふが如き結果となり、其市の運命を保つことの出來得ないことゝなるのは云ふ迄もありませぬ。今や、大阪市は、人口三百拾萬人に達すべき時代を豫想し、一日能く二百二拾萬石を給水し得るように、柴島に於ける現在の水源地を擴張する工事中であるも、大正二十一年に到らば、既に其數に達するの豫想でありますから、私共は之れあるの故を以つてまだ滿足し能はないのであります。

▲私共が今日計畫を確立して、其將來に備へんとする所以のものは、都市計畫事業の進展と、上水使用增加の趨勢に鑑み、水質水量共に大大阪市に相當なる水源を求め、且つ給水方法の最

善を考究するの一途に外ならぬのであります。極言すれば、之を別にして、到底、都市なるものは成立せず、之を離れて、市民なるものは到底生存せず、其將來に於ける給水事業を研究することは、實に、大阪市都市計畫の第一義でなければならぬと信じます。

▲凡そ、水道の水源には、地表水と地下水の別があります。前者は、河水、湖水、溪谷水等に源するものにして、我國水道の多くは之を採用して居ります。後者は、堀井水、泉水、又は坑道に藉りて集むる處の湧水にして、大陸諸國は盛に之を用ひますけれども、一に地勢又は地層に由りて湧出量及び水質の不定を免れない缺点を有し、我國に在りては、英國と等しく斯の種の地下水に成功したるものは極めて少く、之が採否は、今後尙ほ幾多の研究を要することゝ思ひます。

▲普通地表水に藉る場合でも、其經濟的施設としては、山間の溪流を堰き止め、仍て以て集めたる水を喞筒送水に藉らず、自然流下の方法に藉るは、實に唯一最良の策であり、我大阪市の如きは、之を近郊に求め能はない遺憾があります。若し強いて求むるとせば、琵琶湖を措いて他に適當なものはありませぬ。琵琶湖の水面は、大阪市の地盤に比して、約二百七十尺の高度に在りますから、是より隧道、鐵管、開渠等の方法を以て總延長十二里の紆餘屈曲を經て、之を吹田の高地に導き、而も尙百六十尺の水頭を保たしめ得ますならば、市の東部高地の一部に喞筒直送を行ひ、加ふるに、淀川の源水に藉る既設の一部を以てしましたならば、全市殆むど適當の水壓を以て配水し得ますけれども、幷は、將に大正四十年前後に於て、大大阪と大神戸とが互に延長して、市域相連絡し、其人口に合して七百五十萬に達すべき時期に於ける方法として準備するには、最も機宜に適したる措置であると信じます。

▲けれども、現下の大阪市水道の擴張工事成りて後、前述せる大計畫の熟するに至るまでの中間策としての攻究も、亦決して怠るべきはないのであります。若し、即今直ちに豫想し得らる範圍に於て之が解決を求むるとしますならば、出來得る限り既設工作物を利用し、別に淀川の沿岸に於て工場の簇出に基因せる處の水質の汚濁せらるゝ憂である區域を避け、其水源を、柴島を距る上流田舍の地、神崎川の分流点たる江口に選定するを以て最も適當な措置であらうと信じます。

▲江口に水源地を定め、此處で取水するときは、其一部は既設柴島水源地に送り、其余は江口に於て淨化し、之を吹田高地に揚げ、更に自然流下の方法に藉り、柴島の直送式と相俟つて配水し得られるのであります。そうして、其源水たる淀川は、最低水位に於て、一秒時間能く三千立方尺なるを以て、優に日本全人口の半數以上に給水し得べき流量あれば、水量に於て毫も意に介する要なきのみならず、其水質に於ても江口に於て飲料に不適當を認むるに至るには、測り知るべからざる長年月の後でありましょう。且つ、水源上流の惡水排除に關して、今後相當取締の勵行を期するに於ては、水道の源水として強き憂慮を要せないと信じます。要するに、大阪の地たる其水と土地との地理的按排は、絕大の天惠であつて、我大阪市の都市計畫に於

て一大誇りとするに足ると思ひます。

▲以上の卑見は、主として衛生的見地に於ける飲料水としての考へを申述べたのでありますが、之を防火用又は撒水用として觀ますならば、勿論是は別種の見地に立たなければなりませぬ即ち、將來に於て道路は擴築せられ、高層建築も亦大に增加することでありましよう、其ときに於て、尙ほ今日の如く之が防火用、撒水用、洒掃用等として上水道を兼用するが如きは、抑も當を得たる措置とは云へませぬ。

▲凡そ、普通家事、營業用を主眼とせる上水道に於ては、其用具管厚、及び經濟上の見地とに由りて水壓自ら一定し、現今に於ても、既に直ちに之を防火用に利用して、其効果の薄弱なるは夙に私共の經驗する處であります。然るに、今後の高層建築の防火に對し、之を利用して克く効果を得べきや否やは、今更研究の余地はないのであります。故に、之が爲極めて高級の壓力を有する水道の設置を望まざるを得ないのであります。そうして、大阪市の如き、水路の四通八達せる都市に在つては、隨所に電動喞筒を設け、非常の際、一擧手克く之を運轉せしめ、適當に配置せる高壓管より吐出せしめて、充分に防火の目的に供し、其手常の日に於ては、同一配水管を以て、低壓の撒水用又は路面洒掃用及び下水道の洗滌用水を取るべく計畫し、之を全然飲料用水と區別するの必要を此處に切言せざるを得ない次第であります。

▲本市の將來膨脹せる時代に處すべき水道計畫、即ち都市計畫との關係は概要右の如きありますけれども、這般の事業は現下直ちに其施行を要するものでなく、勿論現下の施設としては、近き將來に於て來るべき一定の數に對する準備に缺ぐる處がなかつたならば、之にて滿足し、豫め廣大無邊の施設を要せないのであります。只今日爲すべきこと、否、爲さゞる可からざる一事は、之が實行に支障なき施設の準備であります。

▲換言せば、他日の用に供すべき所謂水源地區若くは淨水工場地帶の設定であります。即ち、之を準備し、之を設定し、其地區地域內に於て水道の施設經營と兩立せざる一切の事業を禁止するに在ります。惟ふに、都市の無限なる膨脹は現代の大勢であつて、大阪市の膨脹發展が我淀川の右岸に延伸し、一望茫漠たる田園に煤煙の飛揚すること、亦決して遠き將來ではあるまいと想ひます、其ときに至り、之をなさむとするも時既に遲矣であります。少くとも、其實施の至難を豫め想像するに難くありませぬ。之が爲には、其發展未だ此の區域に及ばざる現時に於て速に行ふに如かないと信じます。

はちす葉の
にごりにしまぬ心もて
なにかは露を玉とあざむく



都市と社會施設

將來の『市加古市』(1)

ウォルター・ディ・ムウディイ著
Z Y 生 譯

一

嘗て余が市加古市に於ける有名なる十二市街擴張事件に關聯して法廷證人席にありし時のことである。この市と戰へる或る辨護士が、彼の質問に對する余の答辨に稍激して、證人席に進み寄り、そして威嚇する如き目付、脅迫する如き身振をして尋ねた。

『貴下は建築家か』
『いやソウでない』
『機械技師か』
『異ふ』
『工業家か』
『いや』
『貴下は自分は都市計劃者と思つてゐるか』
『ソウです』

『どうして？』

『私の都市計劃の遣方は、專門家的でなく振興的である。私の職業は科學的振興法なのだ』

『アー、科學的振興法？左樣か、よろしい。では貴下は如何なる空想派より空想的職業を學むだかを此法廷で話しなさるだらう』

余は余の說が法廷內の人々に輕侮され終らうといふ虞をもつてゐたが、でも聽衆は明に愉快に娛樂的に、『廣く經驗の學校』に於てする余の答を聞いてくれた。

『廣く經驗の學校』！この言葉こそ都市計劃—人類の經驗—の全範圍を冠するものである。更に大なる經驗と更に小なる理論てふ旗幟こそ亞米利加に於ける到る處の都市の都市計劃を進行せしむるに最も必要なるものなのである。この法律家は余が專門家ならざるが故証する資格に欠け居るとの論據にて、私の凡ての證明を否認すべきであるとの動議を法廷に提出した、併し其の動議は否決された。そして件の辨護士はもつと公正にして好爭的でない樣にとの忠告を受けた、そして專門家たる資格を有するには、その方面に關する知識を建設し分類するためにその物象と狀態とに就て特別なる研究をするため、十分なる年月を與へられた者でなければならぬ、といふ法廷の意見であつた。

再び其科學の定義は非實用的の學說を敗るべくなおかれた、科學は建設し分類されたる知識である。この物こそ米國に於ける凡ての都市計劃の聚合に於て欠げたるものである。振興的、敎育的努力の重要そのものが、凡ての都市計劃の企圖に於て最も重大なるものと看ねばならぬ處の基礎的にして緊要のものである。

千九百年即ち大統領選擧に先だつ三週間、市加古商業會議所の年會晩餐の（今は之が歷史的となりおれり）終に於て—この時の演說者は、米合衆國大統領の主なる後補者たりし、チャールス、エイチ、タフトとウヰリアム、ヂェ、ブライアンであつた、後に大統領タフトの秘書となり、更に大藏省の補助書記となつた。チャールス、ディ、ノルトンが或疑問を提げ余に近づ

いて來た。そしてその疑問が後に市加古市の都市計劃の事業を管理し、進でその擔保人等よりなる獨占的振興財産たる、商業クラブを産むに至つたのである。

これは市加古都市計劃委員會がその計劃を擁護し振興する目的で、市加古市會によつて組織された。二年前のことであつた。更にその後チャールス、エイチ、ウエィカーから私に第二の申込があつた時に余の志は受け入れられた。氏は新に市加古都市計劃委員會の永久の議長に任命されてゐたのである。以上の点で私の都市計劃事業の遣方の如何なるものかが判らう。余は前述の爭論的な反對家たる辨護士の場合の如く余の證明を敗らんと望むでゐる專門家階級の空氣を、出來る丈け清澄にする爲自分が都市計劃の專門家に非す單に振興者に過ぬ事實を明にしてゐる。余は自分が說敎者と敎育家の領分に這入り得るや否やを強く疑つてゐる。この事に就て想ひ起すは、曾つて自分が或大學の學生等の前で科學的振興法に就て演說をした時のことである。私の演說の終るや否や商業學部長は起立して『さて諸君今我等は十分に說敎を受けたと推測されるで只今總長閣下より御注意を受けて此プログラムを終らう』と述べた。併し之れは學部長が期待したよりも異つた結果を齎した。『學部長』と呼んだときに總長は辛うじて立ち居るものゝようであつた。余は其時の叫の威嚇的なるを忘れることが出來ない。總長は『敎師は說敎者に非れば大說敎者たるを得ないことを學生の前で不斷に忘れてはならん、注意します』と述べた。寔に都市計劃を進行せしむるには多くの敎授が必要である又多く說敎をするといふことも非常に必要である。

都市計劃事業には別に秘密はない、その職業に選まれたる少數の者にのみ全智有る攝理が與へたる不思議な特別な能力があり、實は、眞實の都市計劃の收得を暗くするに拘らず世界を啓發する天賦を賦與されてゐる、と信せしむる人々の爲に本書は書いたのではない。都市計劃と

は凡ゆる都市の居住民をして更により善く生活せしむる境遇を辿る單純な常識的の手順に過ぎぬ。我等の渇望せる結果を如何にして得るかてふ問題を記述するには一項を費せば十分である

本書の目的は、一には都市計劃を實現するに市民にとり必要にして重要な部分を識らしめ、二には職業的な都市計劃者の如何にして考案を爲し其考案は彼等の仕事場では完全なものとして描がれてゐるかを語るにある。自分は、之れが都市計劃に對する國民的考案を建設し、且つ其上に敎育と振興の諸要素を固く定むるに助と成らんことを望むでゐる。兩者は互に提携して進み、而して其國民的考案なるものは都市計劃の結果を得るに先だつて起らねばならぬ。即ち亞米利加に於ては『受票盆』が都市計劃者に先つて行かねばならぬ。斯の点を認識し理解せば成功は疑ひない、然らざれば災を招くに止まらう此理由の眞なるは從來企てられし他の計劃の成功せるものと不成功に終れるものとの多くが示してゐる。理論と神秘の廣大なる領土內の空中遊行は、都市計劃の振興策の中にはない。最も必要なる理論が實際的事實の巖に障害を與ふるに疲勞を覺えて、両脚を堅く地上に固着せしめて動せざるにある。

眞實の都市計劃とは如何なるものかは他の章に述べよう、併しその或一面に於ては古代の或詰問に似てゐる、即ち『何處より我は來たか、何故此處にあるか、何處に行きつゝある?』と朽つ可き定命にある人類は幾時代も無益にその疑問を解かんと苦惱した。これに對する最善の答は、地上の深い經歷に於て善事を勵むために安らかに頭を横たふ可き場所を發見するには餘に忙しかつた彼れの(基督)摸範に於て發見することが出來る。

何處より都市計劃は來たか。

我等は市府の周圍に群る公の建築物の寫れる考古學的探究の繪畫より最古の事物の閃きを看取する。古代バビロンのベルシャザル王は、臣下の物質的進歩に熱中した。彼れの管理の下に民衆は法律によりて一日三回の入浴を强制され

ト居た。其結果健康を害する者がなかつた。天文學も數學もアルハベットも凡てバビロンに創まり、一時間が六十分に細分されし制度も此處に發した。規則正しき郵送、下水工事、銀行等もあつた。嚴烈なる法律は、庶民を富者權力者からの壓迫より保護してゐた。歷史上の權威に據れば、バビロンの賢者は電氣學に關する或知識をも有つてゐた。國民的完全は軍備の充實よりも更に重要である。國民と其財產とを出來る丈け最善の狀態に於くことである。都市住民の公の健康を保全することである。個人と同樣に國民的にも固有なる自己保存の第一の本能に從ひ行く事である。如何なる窮乏が生じようとも、自ら其に備へ、能ふ丈けの智慧を發揮することである。

市加古都市計劃委員會議長は、千九百十六年戰時長官に、バビロニヤ人が曾て法律の命令の下に日に三回入浴せし如き享樂を民衆に與へむ爲滿々たるフロント湖の浴岸に水浴場を設く可事を戰時長官に敎ゆるに依て上記の如き智慧を發揮した。其議長の云つた事下の通りである

『市加古紙に現れしワシントン公文は告げて曰く、二週間內に五百名が軍隊階級に補充せられたが、彼等は二千人以上の應募志願者中より採用された。却下されし者の數は驚く可き數に上つてゐる。奉仕を申出し總數中の七十五パーセントが採用資格に欠げたるは何の原因に歸す可きか、合衆國民の五十三パーセントは諸市に居住してゐる。この点は都市住民の健康を再造する爲に更に全備せる諸方法の必要を語るものではないか。補充者の卸賣的の却下の根本原因が躰格の低落にありとすれば、確に我國は或類の設備を必要とする他の危機に面してゐる。即ち我市民の公の健康—國民の最大の遺產たる—を保全すべき設備が必要である。我等は國民として海陸軍備の考案をなせるならば、國民に影響することを根本的なる他の方面の準備に對し計劃する處がなくてはならぬ筈である。此点は大プロント湖を公衆の遊戲場に改造し、是に必要の一切を合衆國政府より許可せられんとする市加古市民の渴望そのものが、圖解的に殆ど戲曲的に說明してゐる。

上記の如き戰爭局の經驗を詳論するは興味あり價値ある事である。或記者が記してゐるには『或有名なる平和論者が戰前に誇つて、若しも亞米利加が脅やかさる如きことあらば、一夜に

して百萬の國民が戰線に就き得る』と。確に國民の勇氣と愛國心に基いて觀ば、彼の言は正當なるも、併し同記者が指示した如く、『戰はんと欲する意志と戰に適することとの間には廣く且つ深き淵がある』

けれども當然亞米利加の軍隊に國家は依賴し得るも、其を戰爭に適す可く養ふには如何に多くの努力と時間とが入用であつたか、此志が表面では迅速に而して殆ど奇蹟的の結果をもつて成就した。併し如此き緊急なる要求に迫らるるに先だち、諸都市に於て市民の肉躰上の健康に對し適當なる方法が講ぜられて居たならば、如何に限り無く能力を發揮し得たであらう。戰爭は多くの貴き敎訓を遺した—諸都市の生活狀態を出來る丈け最良にすることによつて强剛なる國民的肉躰を建造す可き爲めの用意に勝る敎訓はない。戰爭史の書かる塲合には、米國が四百萬の軍隊を組織し、三十五箇の巨大なる軍營を建て、軍需を完備し、大西洋を起ゐて三千哩の彼方に二百廿二萬五千の軍隊を輸送し、その爲に十八ケ月間の信ず可からざる程の短斯間に戰爭を終結せしめたることは、他の如何なる成功にも勝つて特筆さるゝであらう。世界に此に比す可きものなく、殆ど成功を疑はれし此遠征が大平洋の國に於てなされたことはなかつた。

此天才と派遣力と大企圖の完成に現れし力を若し大なる市民の收得に—都市計劃—狙を向けらるゝならば、顯著なる結果を齎らし、我國民は確に無敵の者たるに至るであらう。

親しく接近せん爲に共に蝟集するは人類の傾向であり古往今來渝りなき特性たるも今日は殊に歷史に比類なき程に之れが强くなつてゐる。全世界に亘りて驚嘆す可く比類なき人民の都市集中運動が行はれてゐる。自然此運動が市當局者に新なる問題新なる社會科學、共に密接關係に齎らされし異なる階級間の秩序と市民の健康保全の科學を生むだ。一世紀前に民衆の面したる內政問題は、今日に於て回顧すれば極めて單純なものであた、即ち瓦斯、清水、適當な學校病疾者、癈者に對する科學的に全備せる設備等であつた。我等は今は神の賜ふ日光、空氣、衛生、集積救濟法、便利なる交通機關、貧民借家組織ある慈善事業、健康恢復に對する更に完全せる設備一一言にして竭さば、公衆設備の改善と、諸都市に群集する民衆にとりて更に心引かるる環境を要求してゐる。バルシャザルは今日の如き狀態に住むで居なかつたが、今日と同樣の問題に接觸してゐた。彼がその問題を迎へた態度、又これを解決し了れる態度は、寧ろ近世の市政をして赤面せしむるに足るものがある。



資料

●大阪市都市計畫參考資料（其二）

(IV) 都市計畫區域內人口密度の變遷

大阪市の都市計畫地域內に於ける人口の密度（大正七年）に就ては、既に本誌前々號にて紹介せる處なるが、今此處には、其密度變遷の概要を述ぶることゝせん。

▲市　郡　之を各區別に觀ん歟、孰も明治四十年より大正七年迄を標準とすれば、東區は、（千以下切捨）明治四十年に於て、四十八萬人（一平方里）の割合なりしものが、大正七年に於ては、其約三割二步を增して六十三萬人を算へ、西區に於ては、十五萬人の割合なりしものが、約二割の增加を示して二十三萬人と成れり。而して、南區に於ては、五十六萬人なりしもの、明治四十三年迄は漸次增加して六十二萬人、即ち斯の四箇年の期間に於て約九步餘の增加を示し尙密度を增しつゝある折柄、大火の爲に一時其進脚を停止せるも、明治四十四年より再び進程を起して、大正七年には實に七十萬人、之を明治四十年に於ける發程に比せば、二十二萬人即ち約四割の增加を示せり。更に、北區に於ては、三十六萬人の割合なりしものが、明治四十

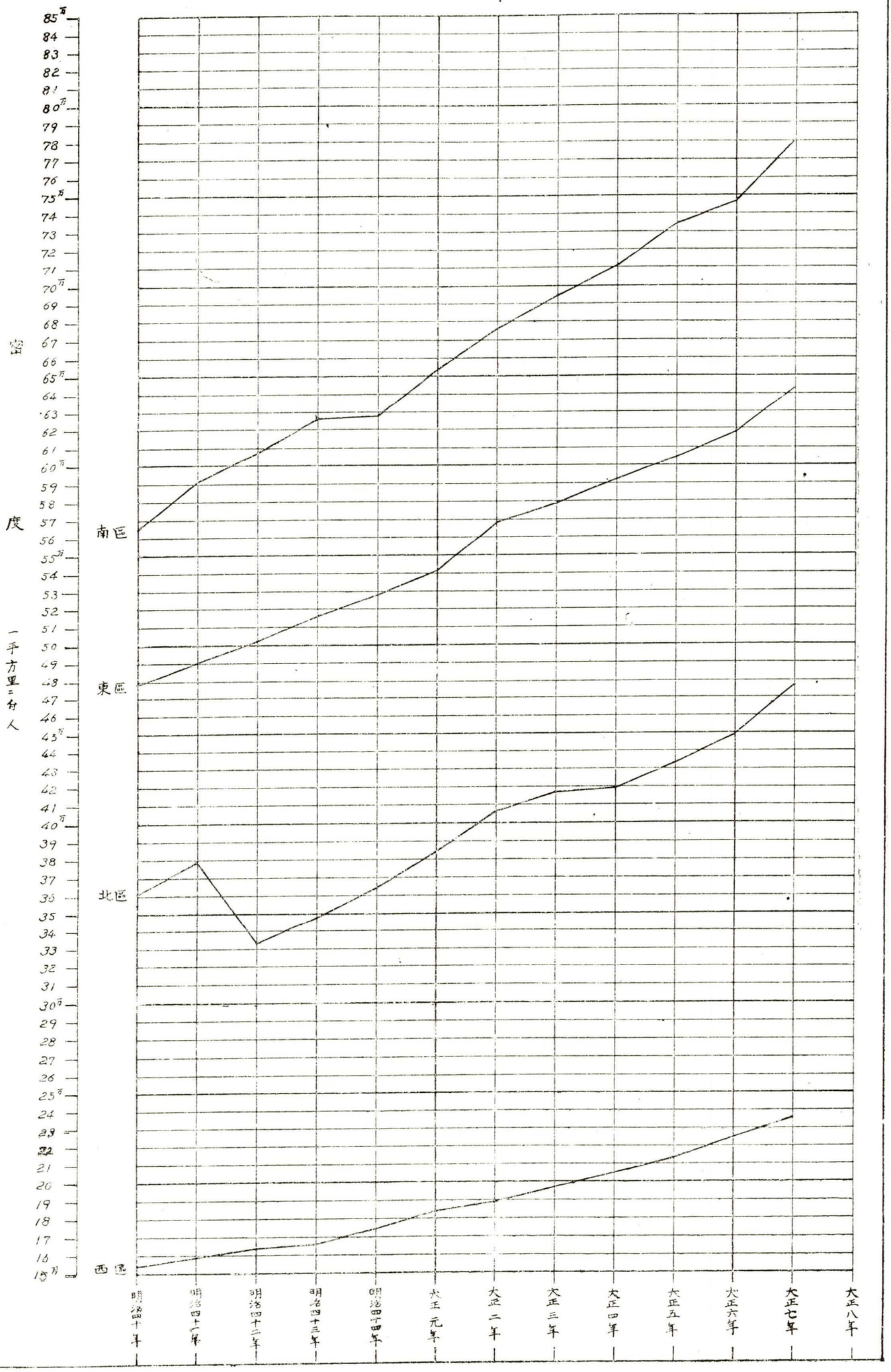
世界大都市人口密度表

都市名	人口	面積(エーカー)	密度(一エーカー)	調査年
倫敦(Met. Dist.)	7.251.358	443424	16	1911
仝 (Adm. Co.)	4.521.301	74816	60	1918
紐育	5333339	189.662	28	1914
巴里	2847229	19.279	148	1911
市俄古	2397600	124448	19	1914
東京	2349830	19043	123	1917
伯林	2082111.	15.696	133	1913
費府	1657.810	82933	20	1914
大阪	1557.986	14447	108	1917
濱堡	1006.748	30527	33	1912
バーミンガム	870.000	43.601	20	1918
リバープール	767.792	21.219	36	1918
セントルイス	737.497	39.100	19	1914
ボストン	734.747	27.612	27	1914
ミュニッヒ	636.000	23.633	27	1913
ライプチッヒ	615.000	19.271	32	1913
バルチモーア	579.390	19.290	30	1914
京都	662,952	8.691	65	1917
神戸	558.319	9.141	61	1917
コロン	544400	29001	19	1913
マルセーユ	528.000	6176	87	1911
リオン	523.796	10.045	52	1911
セフィルド	476.971	24347	20	1918
横濱	462.310	9.072	51	1917
名古屋	419.749	10.005	42	1917
デュッセルドルフ	407.000	27.562	15	1913
ワシントン	353.278	38400	9	1914
カンサス	281.911	37443	8	1914
コッチェスター	241.518	17352	14	1914



人口密度圖 其一

大阪市

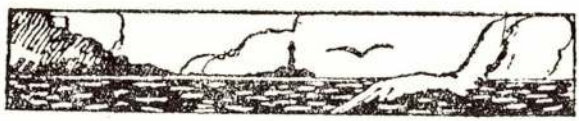

人口密度
一平方里ニ付人
85万
84
83
82
81
80万
79
78
77
76
75万
74
73
72
71
70万
69
68
67
66
65万
64
63
62
61
60万
59
58
57
56
55万
54
53
52
51
50
49
48
47
46
45万
44
43
42
41
40万
39
38
37
36
35
34
33
32
31
30万
29
28
27
26
25万
24
23
22
21
20
19
18
17
16
15万
南區
東區
北區
西區
明治四十年
明治四十一年
明治四十二年
明治四十三年
明治四十四年
大正元年
大正二年
大正三年
大正四年
大正五年
大正六年
大正七年
大正八年

一年に於て、即ち一箇年間に二萬人の增加となりしも、同年に於ける大火に因り、斯の趨勢は一轉して、三十三萬人即ち五萬人の減退を示せり。されど、同年より再び密度を增して、大正三年より同四年の一箇年間は進勢遲々たりしも同年より再び急速の進度を示して、竟に大正七年には四十七萬人、即ち之を明治四十年に於ける密度に比して、約三割の增加と成れり。之を其增加の割合に依りて人口膨脹の順位を示せば左の通りなり。

南區	四〇割
東區	三、二
北區	三、〇
西區	二、〇

▲郡部（省略）

因に人口密度の比較參照に資する爲、別表の如く世界主要都市に於ける人口密度表を併せ揭げたり。



漫錄

四宜草堂漫筆

‖色と音と歌舞伎劇場と‖

□四□

會員　佐藤四郎

月夜に鈴虫の啼くやうな美しい鈴の音につれて淡紅色の鈍張が靜に捲き上ると、觀客席の電燈が吸はれたやうにすつ〳〵と消へてゆく、華麗なること東洋第一と稱せられたる帝國劇場の觀客席に立つた此の時、我等は常に其の舞臺の上に展開せられたる劇の世界に對して一種の物足らなさを感するのである。

帝國劇場の背景や、大道具や、扮裝は極めて強い調子に絢爛を極めたものである、所演の俳優はまことに當代の粹を鍾めたる者である、展開せられたる劇の世界の雰圍氣は他の劇場に比較して劣るやうな濃度のものではない、それなのにも拘はらず、歌舞伎座の土間にありても浪花座の棧敷にありても曾つて感じたることのない此の物足らなさを覺ねると云ふのは何の所以であらう。

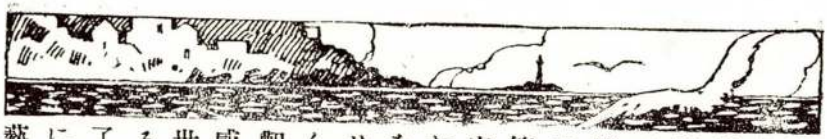
我等の眼は幕の開かれぬ以前に、既に彼



の煌燿たる金碧の裝飾より來る强度の刺戟の爲に疲勞して居るので、幕が開かれてからの劇の世界より放射される光や色を充分感受するとの出來ぬのではあるまいか、果してさうだとすれば帝國劇場の觀客席の裝飾は歌舞伎劇を演ずる舞臺に對して誤れるものであると云ふても過言ではあるまい。

一般に觀客席の裝飾は其の第一義に於て舞臺に於ける劇の世界の結果を助長するものであらねばならぬ、少しにても劇の世界の色調を減殺するが如き裝飾であつたならば、其は劇場裝飾の大切なる根本原理を無視したる者である、斯の點より云へば同一の劇場に於て或は所作劇を演じたり或はオペラを演じたり、相異れる內容を盛り、相異れる表現の形式を取る各種の演奏をなすと云ふ事は、單に無智なる群衆を吸收すると云ふ一時的營利の方面より見て策の得たるものかも知れぬが、忠實に劇を演じ且つ觀ると云ふ藝術的本位よりは極めて拙劣なる手段と云ふべきである。

思ふに我等は『オペラ』の類に對しては其の舞臺の上に起れる莊重華麗なる繪畫的の表現と森嚴崇高なる音樂的情調とを味ふのに常に第三者の位置にある氣分を忘れる事は出來まい、即ち我等は繪畫や彫刻を鑑賞する時と同じやうな心理的態度を持つて額緣の內におさまれる劇の世界を眺むるのである、從つて觀客席の空氣と劇の世界の空氣とは更に何等の交涉を持たぬともよい觀客席の裝飾が舞臺の上に及ぼす影響と云ふても劇の內容に關しては殆んど何等の權威をも有たぬ、唯僅に華麗なる額緣がそれに飾られたる油繪に對するが如く、絢爛なる額緣が舞臺の周圍を美しく彩るに過ぎぬ故に『オペラ』の劇場にありては其の觀客席の裝飾をして赫奕たる金碧にするも決して妨げない、濃艶なる色彩を加ふるも決して否まない、むしろ其のやうにして絢爛華麗を極めた方が適切である、結果が好いの



である。

さりながら我が歌舞伎劇はそうでない、歌舞伎劇の生命はその夢幻的な處にある、歌舞伎劇の舞臺面は平板なる繪畫的のものであるけれども、是に對する觀照の態度は繪畫や彫刻に對する時とかなり其の趣を異にして居る處がある、即ち觀客席にある我等は劇の世界の雰圍氣と同化して觀客席の空氣と舞臺の上の空氣との間に何等の異りたる色調をも見出すことは出來ぬ、觀客席にある我等は既に劇の世界の人である、展開せられたる劇の世界より云へば第一者若しくは第二者であり乍ら決して第三者ではない觀客席の我等の感情が劇の世界の主人公の感情といつの間にやら同化して劇の世界の世相の發展に連れ共に泣いたり笑つたりするのである、如此劇の世界に同化し沒入し了りたる時に於て初めて太き強き一つの線によりて數多くを語らんとする歌舞伎劇の藝術的妙趣を捕捉することが出來るのである。

されば歌舞伎劇場にありては強き光を忌むと同じくけばけばしき裝飾を退くるのである、敢て絢爛なる裝飾は我等の視覺を疲勞せしむると云ふばかりではない、舞臺の上を觀客席との幻覺の同化を妨ぐる事が夥しい、殊に額緣の『ロコ、』式裝飾の如きに至りては此の傾向甚しく、宛も華麗なる額緣の中に文人畫を入れたやうな奇怪な不調和な感じを與ふるのである。

歌舞伎劇場の內部の裝飾は舞臺の上の効果を助長せしむる爲に淸洒な端麗なものを必要とする、光と同じく物柔かな潤ひのある色をとらねばならぬ。

從來の歌舞伎劇場にありては其の裝飾の主要なる色として黑を多く用ゐて居る、舞臺端の一文字幕は云ふまでもない、天井を黑漆にて塗つたのもある、高欄を黑漆にて塗つたのもある、黑は沈んだ强い色である底力のある色である、光線の充分でなかつ



た時代にありてはむしろ一般の劇的雰圍氣を落付かしむるのに効果があつたかも知れぬが、現代の明るい觀客席にはあまりに沈鬱な色である、觀劇と云ふ藝術的氣分に顫るへて居る我等の敏感が甚しく壓迫せられる、黑はあまりに用ふべき色ではない。

一般に云へば、大部分に透明なる空色、ほんのりとしたる淡紅色、落付いた白緣などが適して居る、冷めたき青色や、執着深き橙黃色は斷じて不可である、其の間を點綴する小規模の裝飾に綠青や金やうすい紫や朱などを交へるのはさして惡結果を來さぬけれども、紺青と黑とは常に沈鬱な不快な感じを與へることを忘れてはならぬ。

棧敷の高欄に燃ゆるやうな緋毛氈を張ることもかなり多く行はれて居るが、思ひのほか惡い結果を來さない、それは毛氈の材料の性質上其表面が粗雜な爲に鋭い光を反射しないから、緋色自身より來る强い刺戟が木材や金屬の表面に於ける時程甚しくない故であらう。

劇場に於ける音響の關係は即ち觀客席と音響との研究である、歌舞伎劇は其の表現の第一所緣として科白に重きを置く上に、舞臺の上の劇的雰圍氣を構成する要素としては下坐と稱する各種の鳴り物がある、チヨボと稱する淨瑠璃がある、長唄もある、清元もある、常盤津もある、即ち歌舞伎劇は其の舞臺の上に、大道具や小道具の背景と俳優の作動とによりて繪畫的情調を作り、俳優の科白と各種の鳴り物と唄とによりて音樂的情調を泛かべるのである、故に觀客席の構造が不完全にして舞臺の上の音律を充分に聽取することを能はざるか、或は又れが徒らに騒がしき雜音として觀客の耳朶を打つ時には、其の演ぜられたる歌舞伎劇は生命の半ば以上を失ひたるものとなるであらう。

『ヘンリー、ケレー』氏の説によれば音響學上より見たる理想的の觀客席の形狀は

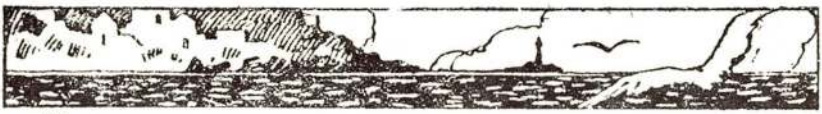


長軸の水平に置かれたる卵形にして彎曲せる天井を有し、狹い方の焦點をふくんで舞臺の設けられたるものであると云ふ、方形にては前後に五十呎、左右に百呎の面積で天井の高さ五十呎、天井も床も水平なのが比較的理想に近く、狹き長方形の一端に舞臺の設けられたる場合には其の兩側壁が全然音響を吸收するやうな構造であるならば案外良き結果を得ることがあるけれども、之は好みて用ふべき形式ではない、最も不完全なのは不規則な形式にして高い穹窿天井を有したるものであるとしてある。

勿論、是等は氣流や温度や、天井と床と四壁との構造材料の性質等を殆ど除外して考へたる者であるから、必しも是の如き形式の觀客席が完全にして、彼の如き形式の觀客席が不完全であると斷言することは出來ないけれども、大体に於て甚しき誤差の無い者であらうと思はれる。

近年、音響學上の理論を參考して建築せられたる歐米劇場の觀客席の形式を見るのに、獨逸の『バイロイトワグネルオペラ』座に於ては扇形である、佛蘭西の『パリーオペラコミック』座に於ては半圓形である、米國紐育の『ニユー、シアター』座に於ては長軸を横にしたる四分三の楕圓形である墺地利の『ウキンナ』皇室劇場に於ては蹄鐵形である、一般に理想的なる卵形に近き蹄鐵形を以て、音響と視覺とより攻究せられたる最も良好なる形式と承認して居るのである。

我國の劇場は過去に於ても現在に於ても純然たる洋風摸擬の二三のものを除きては大略方形に近き長方形であつた、それは觀客席の周圍が音を反響して柔かな朗らかな調子を出さしむる木材より出來て居るのと天井の高さが三十尺に及んだものの無い程迄に低かつたのとが主要な源因となりて、理論的には完全であるが構造上比較的煩鎖なる蹄鐵形が工夫せられずに居たのであら



う。

所詮は舞臺の上に於ける俳優の科白及びそれに附隨して起る鳴り物唄等が、觀客席の何れの所にありても明瞭に聽取することを得ると云ふのが根本の必要條件であつて見れば、其形式の蹄鐵形であるとか半圓形であるとか云ふ事は抑も亦末の事である。劇場建築に於ける音響と云ふ事は既に斯道大家の間に少からぬ研究を積れて居るのではあるが、未だ確乎とした定說は無いやうである、尤も之れは其の土地の空氣の密度や材料の性質等にも著しき關係を有するのであるから、或る地方に於て最も成功したる形式だからと云ふて、それが又他の凡ての地方に於ても好結果を來たすとは限らぬ、現に同一の形式を採用し同一の構造に據りながら一方が美事に成功したのにも拘はらず、一方は非常な失敗を見せたる例も歐洲にはある。

要するに、音響學上より觀たる劇場の形式構造は極めて複雜にして一概に言ふ事は出來ぬが、茲に最も輕便なる一方法がある、それは觀覽料を低廉にして優秀なる演戲を提供する事である、そうすれば殆んど凡ての場合に於て音響學上の困難は遺憾なく取り除かれる、如何となれば、立錐の地もなきまでに入場せる觀客は極めて都合よく音響を吸收し、反射し、共鳴して、潤ひのある柔かな音響を構成して呉れるのである。



太平洋を横ぎりて

會員　波江悌夫

荒波

横濱を出た時から曇つて居た空は、夜を込めて益々黒ずんで來て白浪は舷首を越す樣になつた。名にし負ふ北太平洋の冬航海、荒れないのが不思議な位であるといふ船員の話、今更ながら閉口せざるを得ないではないが、落付かぬ氣分で食ひ込んだ夕食が腹の中で物を言ふ樣では頭が自分の物である樣な氣がしない、一晩中慣れぬベットの上に圓らかならぬ夢を結んだ翌朝丸窓の外に騒かしい外人の一群の會話に目を醒した、中甲板に出て見ると右舷は南風を受けてゐるから殆んど歩けない位に潮に洗はれてゐる。

そこで運動家は左舷に集まつてゐるのだ、長い棒を振り廻して甲板ゴルフに無中になつてゐる外人客の一群は、嘻々として勝負を爭つてゐる彼等は海の上たる事も忘れてゐるかの樣に晴々しい顔付をしてゐる、此一群がくたびれたか姿を船室に隱した後には徒歩運動を初めた日本船客の一團がある自分も其一人である。數にして十四五名、運動の爲の運動か、酔はぬ爲めの運動かは一寸説明が出來ない、沖つ白浪は千重に群り立つてブレーブレーを叫ぶかの如く見ゆる見やうによつては盡し壯觀であるに相違ない。

自分は船に強いといふ誇と經驗を有つて居らぬ、今度が初めての修業である。繪の樣な瀬戸

内の航海や、土佐の室戸崎の一搖とは較べ物にはならない、打寄する波の力の偉大なることは一萬余噸の大船を搖籃の如く弄ぶのだから物凄い譯である、足の踏み度も定め兼ねる横搖や、時を刻んで上下する一種異樣の動き方は、さらでだにペンキの變な臭氣や汽罐の間斷なき響きに面喰つてゐる自分の心を、いやが上にも動搖せしめて止まないのである。

考へて見ると人間は我儘なものである、自分の踏んで居た土地は一切動かぬものと定めて居る「動かざること山の如し」とある、「靜かなること林の如し」としてゐる、だが一度海の上へ乘出した以上は陸の上の因習を捨てなければならぬ筈である、其にも拘はらず本來の面目を發揮してゐる此の太洋の波動に向つて沈靜を望んでゐる、茲だ間違の元は爰である、動の世界に入つては動に應ずるの覺悟を養はねばならぬ、鄕に入つては鄕に從へとあるからは茲で動の研究をやつたら早く自分の矛盾から脫却するに相違ないと考へた。

一体船に醉つたり山に醉つたり人に醉つたりするのは心の平調を破るから起るに相違ない、だが心の平調を恒に失はぬ人だつたら何ともないに相違ない、其証據には無心の小兒を御覽なさい、此の大搖に不關焉と笑つて居るではありませんか。

こんな事を考へた擧句、亂れ勝な自分の心を靜まらせる工夫を初めた、理屈は何うでもつけられる、だが中々理屈で自然は解決せられないツト氣が付いて見ると此の亂調子な船の上下運動にも妙な規律（リズム）がある事を發見した、南風を受けて搖れる兩舷から跳ね返される白浪の或は高く或は低く崩れる姿にも或秒時の間を隔てゝ又繰り返す相等しき形がある樣である、殊に氣持の惡い軸（サキ）と艫（モト）の上下運動を見て居ると、水平線の一高一低と軸（サキ）の動搖とは又一種のリズムを保つて居るではないか、一体波動の曲線は今日迄簡單なる正絃（サイン）の曲線（カーブ）であると信じて居た、處が大洋の波の運動は其正絃の波が明かに消長を保つてゐることを發見した。唯風力の關係による

か但しは氣壓の變化によるものか、海浪の性質に由るものかは解らない。

どつと來た大波に一搖大きく搖れた船は、暫くして中搖を連續して小搖となつて物靜かになる、かと思ふと、やがて次の大搖が來る、それが左右の橫搖と前後の縱搖とに分れる丈稍復雜な立体的大運動であるが、水平線の上り下りを船と連關して眺めて居た自分は、地震の波動を研究してゐる樣な氣持で、發見し得た船の運動のリズムは決して馬鹿に出來ぬ面白味を持つて居るなと思つた。

茲まで考へて來て、甲板を試みに步いて見ると、樂に步けるではないか、船の振動を呑み込んだのである、船の動搖に我心か調和して來たのだ、茲で初めて氣分が晴れて來た、自分の心が自分のものとなつて來て、荒れ狂ふ北太平洋の白波に思はず感謝の祈を捧げたのである。

海の歌

連日の船搖れに氣をくさらした船客も、妙なもので自然と慣性が現れて來て、四五日目には食堂は大分賑かになつた、動搖が烈しいので食卓は夫々に木の枠を嵌め込んで料理皿の落下を防いでゐる、時々橫波の大きい奴が來ると、向ふの丸窓の外に近く白波の碎けるのが見えて、自分等の身体が前にのめる、皿やナイフがズル〳〵と移動する、厨房でガラ〳〵ガランと卓上から轉がり落つる皿の音を聞いて食堂がざはづく時、ボーイの一人が「食事が御濟みになつたら機關長が會ひたいと申されます」と傳言をしてくれた、丁度晝食の時であつた。

別に用もないので早速機關長の室を訪づれたエンヂニアとしての職務からいふても初見である此の人に親しみがある處へ、圖らず親友の友人であると聞いて他人とは思へなくなつた。

「どうです船は？」

と機關長はシガーの箱を取り出しながらいふた

「そうですな、初めての經驗で一寸閉口しましたよ、何しろ出ると直ぐでしたからね」

と自分は答へた。

「まだ此位の動搖は中の部ですよ」

といひながら、マッチを摺つて自分の前に差出したから、箱から一本つまみ出して有り難く頂戴した。

「處で私は一工夫をやつて見ました」

「どんな風にですか？」

「船のピッチングカーブを研究した處が、都合よく船の動き方を會得しだので何ともなくなりました」

と答へる自分の顔を見て、汽罐長はにこつと笑つた。

「面白い處へ氣が付きましたな、船員の中でも早く慣れる奴と遲いのとありますが、要するに船の動搖を早く會得するとせんとです」

と大いに賛成してくれた。

「處で一つ疑問が起きました」

「何んな疑問です」

「船のピッチングリズムと識つて見ると、此のリズムから何等かの材料を得られさうに思はれてなりません、一体海の歌とでもいふ様なものはありませんか、若し海の歌があるとすれば必ず此のリズムと同じ音調を保つて居るに相違ないと思ひますがね」

自分は必ずあると信じて來たのである、陸には陸の歌がなければならぬ、山には山の歌、町には町のリズムがある筈だ、まして大いなる洋の上に船員の心をおらせる様な歌が必らずやあるに相違ないと考へたのである。

暫らく考へて居た機關長は

「そうです、ありますよ、北海道の追分節は胴の間に据つて磁石を見てゐた男が、水平線の上り下りを眺めて造つたに相違ない様ですな」

自分は思はず

「それは愉快です」

と叫んだ、そして追分節を聞かして貰いたひと所望した、處が機關長は次の様にいふた。

「あなたは追分節を知らないのなら、有名な『音戸の瀬戸でよう』といふ船頭の歌は聞いた事がありましよう」

音戸の瀬戸の歌なら自分も知つて居た、成程

『一丈五尺の艦がしわる』程の荒波に海員の元氣を鼓舞した樣な調節のある歌であると思つた機關長は亦いふた。

「それから商船學校の校歌もあなたのいふ海の歌かもしれませんね」

それに違いない。自分の頭の中に直ぐ浮んだ

『波は荒ぶるよー
潮はひかるよー
中を乘り切るよー
快鷹丸そかよー』

ある—ある—海の歌として、又日本人の情緒を述べた歌は數へ立てれば、限りなくあるのである。唯陸の上に育ち陸の歌にのみ養はれた自分の頭の中にない丈である。

だが四周海の日本に、太平洋の覇者であるべき日本に、その太洋の聲を傳へたと思はれる壯快な、雄健なそして若い日本人が血を湧かす樣な、又現時の活動しつゝある數多の海員が心を搖り動かすこと此の荒海の樣な、力あり深みのある歌があるだらうか!?。

自分は改めて質問した。

「成程考へて見ると過去の日本人の海の聲は可なり澤山ある樣ですね、併し現時の海員が我を忘れて唱ふ樣な海の歌はありませんか」

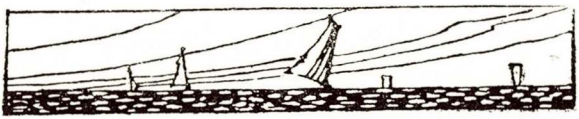
「ありませんな、思ふにこれから追々と出來るでせう、それは海と日本人とが離るべからざるものとなつた時に自然と湧い來るでせう日本人の多くが狹い日本の陸地に愛着して居る間は駄目かもしれませんな」

と機關長はニヤリと笑つた。

實際喇叭節や「さすらい」の歌の全國を風靡した現時の日本に、海の歌は一寸縁がなさ過ぎると自分は思つた。

初夏

梅子金黃杏子肥　麥花雪白菜花稀
日長籬落無人過　唯有蜻蜓蛺蝶飛





女流の建築觀

廣い家狹い家

表千家流　林千代子

職業を持つ私は、殊に他家樣の御家庭に對して割合に深く親しく、そして比較的長い時間を、あちらこちらと方々のいゝ御家庭に寄せて頂きますので、家の建て方や間取り、其他お庭もお臺所もよく委しく見せて頂く事が出來ます。それは特に市內及び阪神間の上流家庭ばかりでございますので、殆んど理想的に苦心を拂はれた建築の方法や、完全な設備や、行き届いた工風といふやうなものも、つひ澤山に見聞きする機會もあるわけでございます。私は今それ等から敎へられた色々の點に加へて、私のつまらない考へを添へ乍ら、ほんの心付いたまゝを二三申し上げてみませう。

先づ玄關に立つて——それは何處迄もほんの素人的な、私のみの考へでございますから。まづ私でしたら玄關は餘んまり廣くなくつてもいゝかと思ひます。ちんまりとした、風雅な、奧床しい質素なものに致したうございます。踏み石抔低いもので、極く無造作な、上の方丈け平に削つて周り



は自然のまゝにでこぼことしたものゝ方がいゝやうに思はれます。それから大抵のお宅は鈴呼をつけてございますけれども、それが往々損じてゐていくら押しても通じない、といふお宅もよくあります。それは氣をつけたいもので、私なら寧ろ呼鈴よりも鐘に鐘木でも添へて三つなら三つ、五つなら五つ、お叩き下さいませといふ風な小さな書いたものでも附けて置いたら面白からうと思ひます。そして踏み込みの隅へ備へて置く傘たて、洋杖さしでも、贅澤な貴重なものより、ざつとした燒物等が宜しいでせう。玄關の横の隅には、是非コート脫ぎの低い棚になつた小奇麗な臺を備へて置きたうございます。その次の間は來客のお供の人等が待つ爲めに三疊位な狹い室が必要で、其處には机と一輪の花位ゐ、机の上には二三冊の雜誌でも重ねておきます。洋服を着た人の爲めに、又極く簡單に應接を濟ませて歸つてもいゝ人の爲めに、前の三疊敷の隣へ小さな和洋折衷式の室、卓一つと三四脚の椅子でも具へて置く位ゐの室が出來れば猶結構でございます。

次に客間ですが、普通のお宅で應接室に當てるものでしたら十疊位ゐでいゝでせうが。極く明るい、氣持ちのいゝ室で、眞白に張り替へた障子のその棧は黑塗りにしたらどんなにか上品で美しいでせうか。腰板等も低い、桐の無地に致します。椽はゆつくりと廣くとつて糠で拭き込んで美しい艶を出すことも宜しうございますが、小さなお子達でも多いお宅は滑つて轉げたりする心配がありますから上敷を敷いたらいゝと思ひます。椽の外側はもう一枚硝子障子を立て廻らして、その障子は一間四方の一枚硝子、その枠は白では汚れ易いし黑では剝げる憂ひがありますので、茶色の枠等は品よくて宜しからうと思ひます。若し多勢の客でも



ある時の用意には、この座敷きを十五疊程に拵へて、それを二重に鞘の間にすればいゝと思ひます。

次に飛んで臺所にゆきたいと思ひますが、それには私の色々な注文がございます。私は大阪風のたゝきにした臺所よりも、東京風の板を張つた方が、地面も經濟に使へて、またたゝきに立つて用を足せば、勢ひ廣い處をゆきゝする体のよけいな使ひ方も無駄なら、又下駄の要ることも、殊に冬等は濡れた鼻緒で冷くもあるし足袋の損じることもつまらないでありませう。臺所の板張りは上げ板の下をまづ四つに仕切つて下をたゝきにして、周圍をせめんかトタン張りに致します。まづ一方を炭入れに、次の一つを料理に使ふ原料を入れ場所、周りは皆セメンで塗つてその所々に風通の爲めに穴を幾つか開けて置きます。之は野菜等の蒸れない爲めで、この中を上下二段仕切つて、その仕切るものは金串の様なもので取り外しも自由なものです。即洗つた野菜や濡れた葱抔をその串の上に置く爲めで、上の方には、小芋、茄子、南瓜、大根といつた種類のものを置くのであります。今一つ他の方には、醤油、酒、サイダー等を蓄へ、その隣りの方には、火消し壺糠入れ、小出しの漬物桶等を入れます。流しの上には棚一二様拵へて、洗つて水の垂れてゐる鍋や鉢物抔極く入用なもの丈けをきちんと伏せて置くだけで、なるべく物をごた〳〵と眼に觸れる處に重ねて置かない爲め例令ば料理臺の下部を袋や引き出しにするとか、戸棚を置いて其中は出來る丈け棚を多くして、物を始末よく片附けるやうに致したいものです。來客等の時膳立てする爲め、臺所の片方には胸の高さ迄ある臺は無論拵へるのですが、其他に蝶番になつた幾枚もの板をその臺の前方につけて、使用の場合は、それを立てゝ



早速に幾段かの棚が出來、お膳や、出來上つた料理やをその上に運ぶやうに致します。

女中室――四疊半か、人數によつて六疊位の一間の深い押入れになるべく澤山の棚を拵へる、上方は蒲團を積んで下方は行季や針箱や道具入れ、左側の壁には折れ釘十本打ちつけてぬぎすての着物等總べてそこへ掛けます。右側には小さな棚を二つ三つ拵へて小道具を置く所。こうすれば押入れの襖を閉め切つた所では總べての散らかつたものが何一つ無いやうに、只机の一脚も座蒲團の四五枚もあるきりにしたいと思ひます

裁縫室、洗濯場、不淨場等一々細かく亘つて云へば際限がありませんが、只私は化粧室もまづ普通として置いて、湯殿の中にもう一つ壁に嵌め込みになつた大きな姿見を置くやうにしたらよからうと思つてをります。

以上は上流の立派なお邸の積りで考への浮ぶまゝに云つてみたのですが、若しこの住宅といふ丈けをぐつと引き下げて、ほん淡白と簡易なものを考へてみますならば、家族二三人か四人位迄なら、どんなにでも經濟的な、便利な手數の要らない氣持のいゝ家も拵へられやうかと思ひます。即ち極く地所の狹い處へ建てなければならないものなら、先づ玄關の簀戸を明けるなり狹い踏み込みの次に疊一枚位の上り口、その次の三疊位ひな處を玄關兼、氣の張らない人への應接室に當てゝ、主客は火鉢にでも向つて話しながら、主人はちよいと手をさしのべて片方横の障子を明ると、小ちんまりとした、そして奇麗に片づいた猫の額の様に狹い場所があつて、茶棚や瓦斯用具や幾つもの棚があつてそこには茶盆とか、皿とかコーヒー茶碗等簡單な器具が置いてあります。主人はそこで一寸湯でも沸かし乍ら、或はしる粉でも拵へな



から、來客と打ちとけたお話抔しつゝ座つて手先を動かしてゐる樣なことも面白からうと思ひます。臺所は別に少し在ることはありますが、兎に角、總べてが略式で、奥に一間ある座敷庭位ゐを客間に當ればいゝのです。庭抔も極く狹いながらに、小さな鉢物や木を澤山植ゑて、飛び石抔も、小さな玩具の樣なものを型ばかり並べておきます。そして二階を家人の居間や仕事室、三階目をたゝきにして洗濯場にもなれば、又取り片づけて涼み臺にも運動場に致します。其横に物干し場丈けを拵へるとして、全くこの家は外から見れば、只すぼんと棒立ちになつて長方形の格好の可笑しいかもしれませんが、狹い土地を利用したものとして、若し私の樣な者が隱居でもする時はそんな家でも結構と思つて居ります。

（婦人記者）

椎の葉

（二百二十五年前の俳人の紀行文）

日のくれぬ程に、尼ヶ崎につく。此あたり大物の浦とかや岸に添ふてはぜ釣る男、宿かさん、といふを幸の事におもひ、あないさせて、かれがやどに入ける。難波江よりは、わづか三里には過きぬ歟せしに早旅れのこゝち、きのふけふに似ぬ秋のゆふべ、あはれにも心ぼそかりけり。

あるじ心づかひ淺からずして、此處は入江に近く、夜寒一しほなればとて、手釣の魚などてうじ、さかづきもて出でかはるがはる酌かはして興ことにうつりゆく、いにしへ今のものがたり、取あつめる中に、判官西海の波に漂泊ありし昔、此うらの哀れ、靜が舞、辨慶が顏見るように語るも目ざましをかし。





〔藻苑〕

俳句

芦田秋双選

□短夜

短夜や桑畑に明けし人動く　閑庭
夜釣の灯川面にしろく明易き　同
船の中へ水の白むに明易き　烏白
短夜を締め忘れたる雨戸かな　同
朝風呂の水汲み入れて明易き　暁天
短夜は居寝悪るき子に明けにけり　鳩口

□打水

打水の西日に虹をつくりけり　木刀
雪駄ばきの人に打水の町つゞく　同
打水や軒に荷牛の眠り居る　尚巾
打水のビヤホール築山躑躅かな　鳩口
打水に土塀のやもり落ちにけり　暁天
打水に涼しき風となりにけり　人生

□日傘

松の中を見にかくれゆく日傘哉　大津
釣人に橋の日傘の影動く　木刀
廓湯に繁き出入の日傘かな　松葉
宮詣木の間日ざしを日傘かな　鳩口
道頓堀の人の中行く日傘かな　坡水
大師巡りの日傘に空の曇り来る　暁天

□毛虫

青梅を今日も落せし毛虫かな　坡水
陽に透いて風の若葉の毛虫かな　鳩口
藤棚に下る毛虫に觸れにけり　人生
大毛虫手すりを這ふや青葉風　大津
泉水に落ちし虫に緋鯉かな　同

□田植

田植して苗横なぎの風となる　鳩口
夕照に眩ゆき臭の田植かな　暁天
日曜を母に代りて田植かな　坡水



田植唄きゝつゝ町に這入りけり　烏白

□麥打

麥打に埃る庭木となりにけり　水坡
我家の普請なりけり麥の秋　尚巾
麥の葉すれが續いて途の白き外　鳩口
道に干す麥穗の中を車行く　春畝
正午になれば新聞が來す麥の秋　王者香
伏籠の雞は靜かに麥埃　北泉

□青嵐

水車踏む足の力や青嵐　曉天
大廟の一の鳥居や青嵐　同
堤防に牛放ちあり青嵐　同
朱の橋に山狹展け青嵐　鳩口
起ぬけを裏戸に出でつ青嵐　同
山頂の近きに休み青嵐　尚巾
大河につなぎし舟や青嵐　同
五重の塔にのぼりし人や青嵐　人生
青東風や山村の晝靜かなり　坡水
唐崎の松に吹くなり青嵐　同

□雜

鮎なれて石の重さに女かな　大津
登山牛に瀧ぁり鮎を開くかな　鳩口
劇場の狹きに鮎を食べにけり　尚巾
裏畑の風吹きぬけて夏座敷　鳩口
目の下に松原見ゆる夏座敷　曉天
桑籠にたまる落花や山の蔭　汗
藥湯に桃の葉煮たり蠶宿　同
西瓜番嗣の中なる月夜かな　烏白
蚊帳越しの月の白きに讀書かな　大津
緣先に燈を吊りかへて蚊帳かな　月波
瀧道の往來を見つゝ麥酒かな　鳩口
瀧壺に冷やす茶店のビールかな　同
粽さく母に寄り添ふ子供かな　大津
茶畑の青桐太し蝸牛　木刀
欄により谷見下ろすや若楓　人生
溫泉の宿の緣に讀書や若楓　同
雨晴れて田を見晴らしぬ若楓　同
夏の夜の雨をこぼしぬ植木市　秋双
街路樹にある夏の夜となりぬ　同
夏の夜のそゞろ歩きや落し物　同
夏の夜の闇の深きに潮滿てり　同
釣人は夏の夜風邪をひきにけり　同
三階の高き花桐匂ひ來る　同
大戸樋に溢るゝ水や青嵐　同
青嵐庭廣ければ立つ埃　同
青嵐摩耶の霞をふきはらす　同
夏夕心齋橋の往來かな　同



時報

◉地下工作物規定

內務省は遞信省と協議の上道路實施に伴ひ電信、電話地下工作物規定要項を左の如く決定し此程各地方長官に通牒せり

一、本要項に於て工作物と稱するは道路面下に築造埋設する郵便電信、電話、電機、信號、電燈、電力又は電氣鐵道用の地下線路、上水、下水、瓦斯其他液體氣體の輸送管路並に交通運輸用の地下道の類を言ふ

二、本要項に於て本線と稱するは基點より支線の分岐點に到る間の線路（管路を含む、以下同じ）を言ひ、支線と稱するは本線より引込み線の分岐點に到る間の線路を言ひ、引込み線と稱するは支線より分岐し需要場に到る間の線路を言ふ。

三、本要項は道路の幅員三間未滿にして本要項に據り難き場合には之を適用せざること。

四、本線は車道に、支線は歩道に建設すること、歩車道の區別無き道路は幅員の中央三分の二を車道　兩側各六分の一を歩道と見做す。

五、幅員六間未滿の道路又は工事上止むを得ざる場合に前項の規定に據らざることを得

六、瓦斯管路の本線と各種電氣用の本線とは道路の同一側に築設せしめざること

七、車道の本線は道路の中央に液體氣體輸送用の本線は止むを得ざる場合を除くの外瓦斯管の本線と同一側に築設せしむること。

八、引込み線は本線より分岐せしめざること。

九、幅員六間未滿の道路にありては前項の規定に據らざることを得。幅員六間以上の道路と雖も上水道下水道の引込線は又前項の規定に據らざることを得

十、交通運輸用の地下道の築造物は上部に他の地下工作物を築造又は埋設するの餘地を存せしむること但し起業者に於て既設地に工作物を整理し且つ横斷地下工作物に對し相當の設備をなす場合は此限りにあらざること。

十一、前項以外の地下工作物の工部と道

路面との距離は左の制限に據らしむること。

1、下水道本線十尺以上、但し工事上又は土地の狀況に依る止むを得ざる場合に限り三尺迄短縮することを得。

2、其他の本線は四尺以上但し工事上止むを得ざる場合に限り二尺迄短縮することを得。

十二、地下工作物は堅牢にして耐久力を有することを要す。

十三、地下工作物の耐久力は道路構造令街路構造令に據り規定する橋梁の耐力に相當することを要す。

十四、地下工作物の相互間又は地下工作物の地上建設物の距離は作業上並に保安上支障を來たさざる限り之を接近せしむること。

◉市の住宅大經營

大阪市が現在經營しつゝある築港木津川運河口の住宅百八十戸の外に更に六百三十戸の市營住宅を其の北方近接地に建築すべく目下着々工事進行中なるが此の六月末を以て全部竣功を見るべき豫定の處木材運搬其他支障を來し工事に幾分の遲延を免れぬ模樣にして遲くも今秋九月末迄には建築並に水道敷設、道路開設等總て工事落成を告ぐる筈なり愈落成と共に新住居者は市社會部に於て抽籤によりそれぞれ指命するとの事なり又同住宅を市街地と連絡する電鐵路新設も市電鐵部に於て目下準備中で是れ亦遲くも本年一杯には開通の運びを見るべく而して今回の新住宅は現在の市營住宅に比し量に於て約四倍に相當する大規模にして之に附隨せる共同浴場、公設市場其他特別の社會施設を施す爲め夫々考案中にして右工事落成と前後して全部の整頓を見る筈なりと。

◉大阪市都市計畫財源

大阪市の都市計畫部にては當る六月中旬頃開催の都市計畫地方委員會に提出すべき大大阪の區域、都市計畫の實施に要すべき一億三千萬圓の財源の捻出方法等に就き去る五月一十日午後二時より市參事會室に於て關助役を初め、木南助役、岩田土木部長、清水電鐵部技師等其第一回準備協議會を開けり其結果は右の二案に就いて大體目鼻付けりとの事なるが財源の捻出方法に就き木南助役語る『現在の府市會議員から成る十四名の都市計畫委員以外更に十數名の同委員は近く內務省より任命される筈であつて六月中旬には地方委員會が開かれる筈であるが、該委員會に於て劈頭議せらるべき、重大問題はなんと言つても例の、一億三千萬圓の財源であるが此一億三千萬圓の三分の一即ち四千萬圓は國庫の補助を受けることになつてゐるが、殘部八千萬圓は公債に據る心算である即ち愛市公債と言ふ樣な名目のもとに一般大阪市民及び其他の有志から募集する心算である、公債の償還財源は種々各幹部間に於て攻究の結果、地租割、所得稅割に依る賦課方法が最も公平を得又効果も多いから之が基礎的財源を求むる方針に決した、又土地增加稅及遊興稅に關する勅令も近々發布せらると聞くが之が發布されたらば補助財源として公債償還資金の一部に充當する考へである其他當市としては通行稅の全部を市　融通して貰ふ他に新しく車輪稅を賦課し是等の租稅を公債償還の財源に充當

するとに決した』云々、尙大大阪市の區域に就て既に大體の消息を報道して置ける通り淸水市電鐵部技師は『大大阪の範圍も大體は決定したが未だ發表の時期には至らない本日の第一回協議會では大大阪の建設の爲に市が買收すべき土地の評價標準について意見の交換をした』とのみ語れり。

◉大阪監獄敷地利用

大阪市都市計畫地方委員は愈六月中旬第一回地方委員會開會の運びに至るの事なるが、該地方委員會に於て先決問題として劈頭提出さるべき實施設計案は商業地域、住宅區域の設定に依つて生ずる立退者の移轉先に關する案件なり大阪市都市計畫部では直木都市計畫部長洋行中のため岩田都市計畫次長が主任となつて今回府下堺市向井町に移轉する堀川監獄の跡六萬坪の敷地を利用して右立退者を轉住せしむるとに定め、既に計畫案を得たり、今右計畫案の大體を擧ぐれば、右六萬坪の土地を一學校區劃、二公園區劃三住宅區劃、四商業區劃の四區劃に分ち

(一)學校區劃は同地の東南に位する四千坪とし其處に過般市會を通過せる新設の女子職業學校及新設の小學校を建設することは確立せしが其外北野の市立工業學校を同地に移轉することも略內定せるもの>如し。

(二)公園區劃としては五千坪の一劃を設け其全部を公園に充てることに既に決定せり。

(三)住宅區劃は同地東南四千坪の地として專ら市營住宅の建設に使用す。

(四)商業區劃は殘部の中約四千九百坪を以て充つることゝし今回の都市計畫に依つて梅田驛より難波驛に至る所謂二十四間道路の爲に犧牲となるべき商店、老舖の移轉地に充當す。

◉大阪市水道擴張

大阪市水道部にては現在の水道設備は今後數年を出でずして給水に不足を來すの虞あるに依り工費九百七十萬圓を以て大正十二年三月までに柴島水源地の淨水設備を擴張し且配水幹線二條を增設して優に人口三百十萬人に對して給水し得るだけの擴張計畫を立てたるが右擴張計畫の內容は取水喞筒、沈澱池、濾過池、貯水池、送水喞筒、發電機等を增設し四十二吋及び三十九吋の二條の配水本管を增設して四十二吋管は市の東部の幹線に充て三十九吋管は北部の幹線に充て而して此二幹線は相並行し西成郡西中島村大字柴島の送水喞筒室を發し新淀川を渡り同郡豐崎町北長柄及南長柄を經て北區天神橋六丁目に至り此處に分岐して東部幹線は市電車線路に沿ひ南森町を左折し更に天滿橋筋を南下して東區大手門筋に至り左折又南下して法圓阪町より上本町筋に入り再び電車線路に沿うて南區天王寺西門前に出で阿部野筋に至つて既設鐵管と連絡するとゝなれるが此延長二里廿四町四十間なり北部幹線は市電梅田善源寺線に沿ひ梅田停車場前に出で出入橋を渡つて再び電車線路に入り更に朝日橋を渡つて西區四貫島町に出で春日出町島屋町を經て櫻島町にて既設鐵管と連絡す此延長二里卅一町卅間是等兩幹線共市內適當の箇所に分岐管を出して既設鐵管に連絡せしめ左記箇所にて管の內徑を順次縮少する

ことゝなれり。

東部幹線

▲寺町四十二町より三十九町▲上本町一丁目三十九町より三十六町▲上本町六丁目三十六町より三十町▲上本町九丁目三十町より二十七町▲天王寺椎寺町二十七町より二十四町▲天王寺西門二十四町より二十二町

北部幹線

▲本庄浮田町三十九町より三十六町▲西野田玉川町三十六町より三十三町▲西野田上の町三十三町より三十町▲千鳥橋三十町より二十七町▲恩貴島橋筋二十七町より二十四町▲恩貴島南の町二十四町より二十町

◉百四方里の大阪市

既報の如く大阪市の都市計畫地方委員會は六月中旬開會の筈なるが該委員會に提出すべき大阪市の區域は以前發表せられ區域よりも擴大せられ其原案は客月十七日に大體の作成を終れり而して該區域は大阪市の北部を環流せる神崎川と南部に於て自然的分界を成せる大和川とを目標とし市の幾何學的重心たる四ツ橋より此の各川に達する距離各五哩を標準として立案せられたるものなり斯くて北は神崎川、南は大和川を限りとし東方は八尾町小阪村に達し西方は海に達する此の廣袤百四方里が大大阪市の區域として決定せられんとするもの、如し。

◉尚住宅難の大阪

市及び附近市町村の住宅難現況につき最近大阪府社會課がその實際を調査せる處に據れば現在約一萬戸乃至一萬五千戸の不足あり這は大阪市の人口が年々四萬乃至四萬五千人位增加して一戸五人平均に收容するとせば七年八年の兩年度に於て一萬六千戸又は一萬八千戸の新築家屋を要する筈なり然るに大正三年より大正七年に至る每年度に於ての新築數は僅かに二千戸又は二千八百戸位にして六年末より八年末迄の新築を約五千戸と見做すも尙に一萬戸ばかり不足を告げ在る譯なり、更に市と密接の關係を有せる堺市の一般狀態を見るに同市の七年末の人口は七萬四千九百人戸數一萬四千百廿一戸にして一戸平均約五人三分強たり是を大正四年度の一戸收容平均の如きは四人五分現在に比して約八分の增殖なりその他東成西成兩郡の如き亦如上の如く人口の增加に對し家屋の新築なき故住宅難を告ぐるは當然の事と判り府に於ては近く緩和策を講ずる筈なりと。





會報

會誌

◉購讀の申込みが近來段々と殖へました、是は一面に於て我誌の存在的地歩を抄めた所以だと存じます。入會申込も殖へる一方でありますから、それだけ我會誌の頒布が弘くなつた譯で、隨つて我協會の働きが一層力あることとなるのでムいます。

◉會誌の内容に就ては、毎號何處か進歩の蹟を現はし度いと編輯者は編輯上の苦心も一方ならぬ譯でムいますが、雜誌を拵へるといふことも一箇の尊き藝術でムいますから、編輯者は何處までも此藝術的な生命に生き度いと努力致して居ります。

◉幾度申上げるようでムいますが、會員各位の御特權である處の我誌の利用は、どうぞ充分に御行使くだされ度いと編輯者は切望致して居ります、會員各位の我意思が此の會誌の上に多く現はれるのが我誌本來の使命でムいますから。

圖書

（寄贈）

建築雜誌　第三四輯乃四〇〇號　（建築學會）
建築世界　第十四卷第五號　（建築世界社）
住宅　第五卷第五號　（工業之大日本社）
鐵と鋼　第十七卷第五號　（工業の大日本社）
建築新報　第六年第四號　（日本鋼鐵協會）
通俗衛生　第二卷第四號　（建築新報社）
電氣協會雜誌　第二六一號　（大阪衛生會）
材木新聞　毎號　第三八一號　（電氣協會）
建築業協會々報　（其）　（其會）
建築評論　第二卷第三號　（建築評論社）
新住宅　第一年第五號

（其　　社）

ペイント　　創刊號（ペイント雜誌社）

都市公論　第三卷第四號（都市研究會）

テナミ　　創刊號（東京出版株式會社）

工業の友　第一五六號（工手學校同窓會）

帝國鐵道協會々報第二十一卷　五號（帝國鐵道協會）

大阪毎日新聞社社中訓話（大阪毎日新聞社）

商工時報　第二十七號（大阪市役所）

會合

◉理事會

日　時　五月七日正午

會　場　大阪倶樂部

出席者　片岡、宗、葛野、設樂各理事、江村（編）

記　事　（一）新事務所設備費假拂及仝寄附金募集（二）五月十七日午後五時大阪ホテルに於て春季大會を開催但し新歸朝者久保田繁亮、波江悌夫、須賀豐治郎三君の歡迎會を兼ぬる事等に就て決議す。

◉定期春季大會

右記の決議に基き、豫定日を一日繰り下げて左の通り春季大會を催せり。

日　時　五月十八日午後六時

會　場　大阪ホテル

出席者　來賓久保田、波江、須賀三君の外池田寛、井上國助、橋本料左衛門新海正綱、德政金吾、片岡安、吉木久吉、辰巳吉之助、瀧山孫二郎宗兵藏、坪井誠一、能村知二、野呂長四郎、置鹽章、岡本新次郎、山本辰五郎、山本潔、前田武正、松本仁重郎、福家佐和志、鴻池忠三郎、有山福重郎、佐藤彰界、齋藤又吉木村海次郎、湯淺乙吉、清水榮次島田良馨、菱田厚介、森正藏、瀨戸孫三郎、須川廉太郎、光安梶之助、池田仙太郎、花田孝二郎、東松孝時吉田直次郎、田中勇、辻井多仲中川辰藏、岡部顯則、大林賢四郎熊取谷熊次郎、山本辰次郎、矢島一雄、舟橋喜一、小林悉、青田忠時、坂井未吉、佐藤清八、佐藤四郎、大黒福松、設樂貞雄、錢高善造、須賀藤五郎、谷民藏、中川廣小笠原銅、山添繁藏、松村雄吉、佐野謹三、白杉龜造の諸君。

記事　片岡理事長開會の辭及び當日の來賓たる新歸朝者三君に對する歡迎の辭あり、次いで仝理事長の紹介に依り、久保田、須賀、波江三君の順序にて、海外視察に於ける感想談あり、了つて暫時休憩の中に、豫て照致し置たる新事務所設備費に就て寄附金申込を受く、七時食堂を開きて晩餐を共にし、デザートコースに入るや、宗主記の紹介を以て、波江、須賀兩君よりの種々珍奇なる歸朝土産物を抽籤にて各員に頒ち、興頗る湧けり。斯くて、食後休憩室にて更に歡談盛に起り、談笑の裡興盡きざりしも、午後九時散會せり。

役員及職員

理事長　片岡安
理事　宗兵藏（主記）
　　池田寅（編輯）
　　葛野壯一郎（編輯）
　　吉井長七（編輯）
　　舟橋喜一（主計）
編輯補　設樂貞雄
　　波江悌夫
　　佐藤四郎
書記　江村郊邨
　　越山達繁
　　渡島

會員	一七六	會員（地方）	五一
名譽贊助員	七二	終身贊助員	四一
特別贊助員	九	普通贊助員	二五〇
合計	五九九		

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金五拾錢	貳錢
	六冊	壹圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
特別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ		

大正九年五月三十日印刷（毎月壹回）
大正九年六月一日發行（一日發行）

大阪市北區相生町一三四
電話（東一八八三番）
發行兼編輯人
兼印刷人　伊藤幸太郎

大阪市東區內淡路町一丁目三十一番地
印刷所　大阪活版所

大阪市西區京町堀上通一丁目
不動貯金銀行ビルデインング內
發行所　日本建築協會
電話　土佐堀一九七三番
振替口座大阪三九九七五

大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話、土佐堀二四四〇番
振替口座二〇八四番

白耳義國首府

ブルュクセル市建築規則

（中）



ブルックセル市建築規則【中】

第六章　公道ニ接スル所有地ノ外構

第二十六條　公道ニ接スル地面ノ持主ハ壁又ハ鐵柵ヲ以テ外構ヲ設クベキ義務アルモノトス

市參事會及助役ハ其外構壁、鐵柵及此等ノ下部ニ設クル側石等ノ寸法ヲ決定ス

外構壁ノ上部ハ笠石或ハ市役所ニ於テ認可スル他ノ材料ヲ以テ覆フモノトス

但構造物其他何等ノ設備ヲ有セザル空地ノ前面ニハ市參事會ニ於テ木製ノ外構ヲ設クル事ヲ許可スルコトヲ得

持主ノ過失ニヨリ所定ノ期間内ニ之ヲ設ケザルトキハ市役所ニ於テ持主ノ費用ヲ以テ之ヲ公設ス

第七章　基礎壁

第二十七條　基礎ヲ設クルニ必要ナル溝堀ハ頁好ナル地盤ニ達スルマデ堀下ゲベシ且下ニ掲ゲルトコロノ共界壁ノ設置ニ差支ザル樣充分ノ深サトスベシ

頁好ナル地盤ナキ時ハ丁寧ニ打チタル割栗積、抗打拾算盤、拾算盤、筏地形穿井他形其他普通ノ工法ヲ用ユヘシ

持主ハ壁ノ濕氣止メニ關シ充分ナル注意ヲ施ス義務アルモノトス

共界壁ハ基礎ヲ除キ歩道ノ最低部ヨリ深二米突五十仙地下ニ入ルモノトス

之ト同樣ノ深サハ公道ニ面スル外構壁ニ接續セル空キ地ニ將來建築スル場合ニハ其要トナルベキ壁ニハ少クモ奥行十米突ノ處迄ヲ必要トス

第二十八條　基礎壁ハ地下室ヲ壁厚ヨリ少クモ十仙米突マデ兩側ニ踏出シ譬令後者ニアル窓入口等ノ下ト雖モ斷續スルコトナク一樣トスベシ

地下室ノ礎ノ踏出ハ高サニ準スベキモノナリト雖モ如何ナル場合ニ於テモ兩側共五仙米突以下タルコトヲ得ズ

基礎ノ下層ノ厚サ即チ巾ハ建地ノ高サニ應ジ市參事會及助役ニ於テ決定セラルベシ

如何ナル塲合ト雖モ此厚ミハ一階ノ家ニ於テハ六十仙米突一階以上ノ家ニ於テハ十仙米突以下タルコトヲ得ズ

第八章　建物前面、間仕切及妻ノ壁

條二十九條　公道ニ面スル建物前面ノ壁

ノ高サハ其道巾ニ準ジ定メラル建物前面最高限ハ左ノ如シ

一、公共ノ廣場、大通リ及巾十五米突以上ノ町ニ於テハ二十一米突

二、巾十四米突ノ町ニ於テハ二十米突

三、同十三同　十九同

四、同十二同　十八同

五、同十一同　十七同

六、同十同　十六同

七、同九同　十五同

八、同八同　十四同

九、同七同　十三同

十、同六同　十二同

十一、同五同　十一同

十二、同四同　十同

十三、同三米突以下ノ町ニ於テハ八米突

市參事會及助役ハ建築ノ構造上及美觀上ニ關スル理由アルトキハ上記ノ制限以上ノ高サヲ許可スルコトヲ得

第三十條　建物前面ノ高サトハ建物ノ中心ニ於テ歩道面ヨリ軒蛇腹或ハ其建物前面ノ垂直面ニアル屋上階並ニ屋上階ノ代用ヲ爲ス「マンサールド」ノ上端マデヲ取ルモノトス

公道ノ巾ハ建物前面ノ壁面ニ就キテ測ルモノトス

町ノ兩側並行セザル場合ニハ建物前面ノ高サハ各建物兩端ニ於ケル道巾ノ平均ニヨリテ決定スルモノトス

或町ノ街規線變更又ハ更正サルベキ場合ニハ建物前面ノ高サハ將來ニ於ケル巾ヲ以テ決ス

第三十一條　巾不動ナル一箇以上ノ町ニ面スル角家ノ前面ノ高サハ其最モ狹キ町ニ面シテハ市參事會ノ許可ヲ得タル上ニアラザレバ其最モ廣キ町ニ對シ許可ヲ居ル高サニ建ツルコトヲ能ハズ

公道ヨリ後部ニアル建物前面或ハ建物前面ノ一部分ノ高サハ其町ノ反對ノ側ニ於ケル街規線ヨリ其前面ノ立ツ處ノ距離ニ應ジ決定ゼラルヽモノトス

第二十九條ニ揭ケル最高限ヲ超過スル現在ノ建物前面ハ單ニ修繕又ハ樣替ヲ爲スニ止マル時ハ之ヲ持續スルコトヲ得ルト雖モ改築スル場合ニハ其高サヲ減少スベキモノトス

內部ニアル建物ノ高サハ各其場合ニ應ジ市參事會及助役ニ依リ決セラルヽモノトス

第三十二條　住居ニ充ツル地階及其以上ノ各床ハ少クトモ三米突以上ノ高サヲ有スベシ、地階ト一階床ノ間ニアル中間床及「マンサールド」ハ少クモ二米突六十仙以上地下室ハ二米突五十仙以上厩舍ハ三米突五十仙以上タルベシ

此寸法ハ床或ハ敷石上端ヨリ天井梁ノ下端迄ヲ取ルモノトス

窓ノ上枠床上端ヨリ二米突以下「マンサールド」ニ於テハ市參事會及助役ニ於テ認可サレタル方法ニヨリ通風ノ裝置ヲ施スベキモノトス

平面圖ニハ各肝要ナル部分及附屬家其地共使用向ヲ記入スベシ

第三十三條　公道ニ面スル建物前面ノ壁厚ハ其高サニ準ジ定メラル

十五米突及以下ノ建物前面ニ於テハ塗壁ノ厚サヲ除キ壁厚ノ最小限左ノ如シ

地階及中間床ハ三十八仙米突即煉瓦二枚各床ハ二十八仙米突即煉瓦一枚半

十五米突及以上ノ建物前面ニ於テハ塗

壁ノ厚ヲ除キ壁厚ノ最少限左ノ如シ

地階及中間床四十六仙米突即煉瓦二枚半

第一階三十八仙米突即煉瓦二枚

以上ノ各床二十八仙米突即煉瓦一枚半

建物後及之ニ並行スル壁並ニ間仕切等梁ヲ支フル時ハ地階及中間床ニ於テハ三十八仙米突即煉瓦二枚以上其他各床ニ於テハ二十八仙米突即煉瓦一枚半ヨリ薄クスベカラズ

此壁厚ハ間仕切壁ニ梁ヲ支持セシメズ建物ノ一端ヨリ他端ニ通ズルノ梁ヲ以テ之ニ代用スル場合ニハ之ヲ減少スルコトヲ得

若シ建物ノ側面全部ガ煉瓦ヨリ抵抗力強キ材料ヲ以テ構造サルヽ時ハ市參事會ハ上記以外ノ厚ヲ許可スルコトヲ得

公道ニ面スル建物前面ノ最高限十三米突迄ノ町ニ於テハ其共界壁ノ厚サノ最小限ハ塗壁ヲ除キ二十八仙米突即煉瓦一枚半トシ其他ノ町ニ於テハ其兩妻ノ共界壁ノ厚ノ最小限ハ三十八仙米突即煉瓦二枚トス

第三十四條 窓、入口ノ地覆石及楣ハ石材又ハ鐵材ヲ以テスベシ窓前ノ手摺棒ハ金屬製又ハ石材ヲ以テシ腰石中ニ堅固ニ植込ムベシ

總テ建物ノ前面ヲ木製軸立ヲ以テスルコトヲ禁ズ、窓、入口地覆及楣モ同シク木製ニスルコトヲ禁ズ

軒先ノ手摺、屋二階ノ笠石、上飾並ニ建物側面上部ノ妻ノ甍及段積等同シク石材ヲ以テスベシ

公道ニ面スル屋根傾斜面ヨリ突出スル煙突ノ腰積ノ上端モ同シク石材タルベシ

第三十五條 建物外廻リノ壁間仕切及共界壁共總テ其接合點ニ於テハ繼手ヲ組合ハスベシ

第三十六條 建物ノ總テノ壁ハ各床ノ處ニ於テ引鐵ヲ入ルベシ

第三十七條 除外例ニ依ルノ外總テ入口窓、大硝子窓ノ上ニハ力迫リヲ設クベシ

入口及大硝子窓ニ限リ此等迫リ持ハ市參事會及助役ニヨリ其建物前面ノ大小ニ應ジ決定セラルヽ寸法ノ石又ハ鐵製法立テノ上ニ各其ノ兩端ヲ置クモノトス

建物ノ前面ガ直ニ外部ニ現ハルヽ材料ヲ以テ構造サルヽトキハ其建築者ハ石材ヲ以テ入口或ハ窓ノ法立ヲ設クルコトノ制限ヲ受ケズ

迫リ持ハ梁ト換用スルコトヲ得之ハ建物側壁ノ厚ミノ全部ニ渉ル堅石又ハ鐵製法立ノ上ニ渡スベシ若シ法立石材ナル時ハ少クトモ十五仙米突ノ巾ヲ有シ且其梁ノ掛リ代ハ少クトモ二十五仙米突ヲ要ス

第三十八條 建物ノ側廻リ及內部ニ用フル梁並ニ床組共其受クベキ荷重ヲ支フルニ定分ナル寸法ノモノタルベシ

持主ハ常ニ市參事會ヨリノ質問ニ對シ各梁又ハ鐵梁ノ荷重ヲ示ス調書ヲ差出ス義務アルモノトス

床組ノ構造ニハ堅木ノ角材又ハ鐵梁ノ外使用スベカラス

第三十九條 町ニ面スル側面ニハ充分ナル員數ニ於テ足代ノ穴ヲ明ケ置クベシ

第四十條 持主ハ町名ノ標札及如何ナル種類ノモノタルヲ問ハズ公用ニ關シ受

鐵物或ハ版狀ノ物ヲ建物ノ前面ニ異議ナク取付ケシムル義務アルモノトス

第九章　突出物

第四十一條　突出物ヲ分テ固定及遊動ノ二種トス

根石、側石、地下室ノ入口、通氣口、入口ノ地覆石及段石、車輪除、擦靴器片蓋柱、丸柱、窓臺石、胴蛇腹、椽、蛇腹、樋堅樋等ノ類ヲ固定突出物トス

ガラリ戸、目隱戸、看板、大硝子窓前ノ手摺、街燈等ヲ遊動突出物トス

地下室入口、通氣口、入口地覆石及段石、車輪除及擦靴器等ハ歩道ニ關スル規則ニ於テ特別ナル物体トス

總テ突出ハ前面ノ壁面ヨリ街算ス規則ニヨリ許可サルヽ突出ノ度ガ公道ノ巾ニ準シ變化スルトキハ其巾ハ第三十條ニ掲グル方法ニヨリ測定セラル

第四十二條　**根石及側石ノ突出ハ左ノ規**定ヲ超過スルコトヲ得ズ

十米突及其以上ノ巾ヲ有スル町ニ於テハ十二仙米

十米突以下ノ町ニ於テハ七仙米

最初ノ段石ノ突出ハ側石ノ面ニヨリ五仙米以上ヲ超過スル事ヲ得ズ

第四十三條　丸柱及片蓋ノ礎盤ハ十米突及其以上ノ巾ノ町ニ於テハ歩道面ニ於テ側石ノ規定線ヨリ十仙米以上突出スルコトヲ得ズ

十米突以下ノ巾ノ町ニ於テハ五仙米トス但所有地ノ街規線ノ後部ニ壁面ヲ下ゲ餘裕ヲ設クル場合ニハ丸柱片蓋等前記以上ノ突出ヲ爲スコトヲ得、然ドモ建物前面ノ両隣ニ接スル處ニ於テハ之ニ取合ハスルモノトス

側石ヨリ上部ニ於テハ丸柱、片蓋柱等十米突以上ノ町巾ノ處ニ於テハ其ノ街規線ヨリ十二仙米突、十米突以下ノ町巾ノ處ニ於テハ六仙米突ヨリ超ユルコトヲ得ズ

第四十四條　地階ニ於テハ窓臺不及入口地覆石ハ左ノ規定ヲ超ユルコトヲ得ズ

巾十米突及以上ノ町ニ於テハ十五仙米突巾十米突乃至七米突ノ町ニ於テハ十仙米突

巾七米突以下ノ町ニ於テハ七仙米突

若シ窓臺石二米突以上ノ高サニアル時ハ場合ニ依リ市參事會ハ前記以上ノ突出ヲ許可スルコトアルベシ

第四十五條　大硝子窓ノ突出ハ左記ノ寸法ヲ超過スルコトヲ得ス

大硝子窓枠　五仙米突

同窓枠ノ蛇腹及上部ノ飾（地盤ヨリ少クモ二米突五十仙以上ノ高サニアル）　五十仙米突

同窓ノ前面ニ水平ニ取付クル手摺棒（其大サヲモ含有シ）　十六仙米

大硝子窓ノ戸ハ卷込ガラリ戸ヲ以テスベシ

第四十六條　目隱戸並ニガラリ戸ヲ開ク時ハ金屬製燗リ止メヲ以テ窓脇壁面ヘ開キ付ケ置クモノトス窓脇壁面ノ一ケ所ヘ二枚ノ目隱戸又ハガラリ戸開キ付クルトキハ一枚宛重ネ合ハスモノトス

二枚重ネタル處ニテ其突出十二仙突ヲ超ユベカラズ若シ一枚ナル時ハ六仙米突ヲ超ユベカラズ

看板、額及薄肉彫刻物ハ地盤ヨリ二米突五十仙以上ノ高サニ掛クルモノトシ特別ノ許可ヲ受ケタルモノヽ外五十仙米突以上突出スルコトヲ得ズ

ガラリ戸、目隱戸、看板、額、薄肉彫

刻物等ハ石ヘ垂直ニ釣リ付ケタル丈夫ナル鐵蝶番ヲ以テスルカ或ハ堅固ニ大抦立ニ爲シ取付クベシ

地盤ヨリ上二米突五十仙以下ノ高サニ取付クル標札、徽章又ハ大ナル看板ノ突出ニ就キテハ市參事會及助役ハ各其場合ニ應ジ其突出セシメ得ベキ寸法ヲ與フルモノトス

地階ノ入口、地下室ノ入口及目隱戸ハ外開キト爲スコトヲ得ズ然レドモ側石ノ出ヨリ突出セザル場合ニハ戸ノ開キ勝手ヲ公道トスルコトヲ得

又地下室ノ戸ニ於テハ通行上更ニ不便ヲ生セザルトキハ市參事會ハ外開キトスルコトヲ許可スベシ

第四十七條 大硝子窓ニ日覆ヲ取付クルコトヲ得

日覆ハ歩道面ヨリ上二米突五十仙以下ニ下ルコトヲ得ズ

然ドモ此寸法以外ニ二十仙米突丈ケハ房又ハ緣リヲ垂下スルコトヲ得

日覆ノ受鐵物ハ歩道ミリ上二米突五十二以下ニ取付クルコトヲ得ス且其端ノ尙垂下セザル樣止ノ鐵物ノ裝置ヲ要ス日覆出ハ市參事會ニヨリ特ニ定メラレタル場合ヲ除キ歩道ノ規定線ヨリ三十五仙米突以內ニ止ムベシ

第四十八條 特別ノ場合ニ於テ市參事會ハ硝子葺霧除庇ヲ建物ニ取付クルコトヲ許可シ得

其構造ノ骨子ハ鐵製ニシテ堅固ニ建物前面ニ堀込メタル上太拘ニテ引付ケタル同ク鐵製ノ持送リ上ニ定置スルモノトス

此持送リハ其下端歩道面ヨリ最少限二米突五十仙以上ノ高サニ取付クベシ

其突出ノ最大歩道ノ規定線ヨリ三十五仙米突以內タルベシ

此屋根ノ下端ニハ鐵製ノ網ヲ張リタル枠ヲ堅固ニ取付如何ナル變災ニヨリ硝子ノ破碎スル事アルモ墜落シテ通行人ニ危害ヲ及ボスコトナキ樣取付クルモノトス、若之ヲ葺クニ鐵網入硝子ヲ以テスル時ハコノ裏面ニ取付クル網ヲ廢スルコトヲ得、霧除庇ノ屋根ノ水取リハ第五十六條ニ準シ設備スベシ

第四十九條 樑ノ突出ハ巾十二米突以下ノ町ニ於テハ七十仙米突其以上ノ町ニ於テハ九十仙米突ヲ超過スルコトヲ得ス其寸法ハ正面ノ壁面ヨリ樑ノ極端迄ヲ計ルモノトス

樑ハ石又ハ鐵製トシ其取付ルケ所ノ壁厚ノ全体ニ渉リ其壁中ヘ積込ムベシ高サハ少クモ歩道上三米突ニアルベシ

石又ハ鐵製ノ持送リヲ同シク壁ノ全厚ミ丈ケ積込ミ樑ノ下部ニ取付クベシ此等ノ持送リハ歩道面ヨリ二米突五十仙以下ノ處ニ於テハ街規線ヨリ些カタリトモ突出スルコトヲ許サズ

水取リノ爲メ亞鉛又ハ鐵製堅樋ヲ樑ニ取付クルトキハ此等ノ堅樋ハ建物前面ノ壁ニ沿ヒ直下シ地盤ニ達シタル處ニテ吐口ヲ設ク可シ

樑ノ手摺ハ鐵製又ハ石ヲ以テ堅固ニ取付クベシ

刎出シヲ支持スル樑ハ煉瓦迫リ持又ハ鐵ノ刎出シ梁ノ間ニ混凝土ヲ充タシ之ヲ設クルコトヲ得

第五十條 軒蛇腹ノ突出ハ建物前面ノ大小ニ應ジ市參事會及助役ニ於テ定メラルベシ

蛇腹ハ其正面ノ壁厚全体ニ渉リ積ミ込

ムモノトス

第五十一條　家屋前面ノ全部又ハ一部ヲ新築又ハ改築スル場合ニハ持主ハ此規則ニ制定セル寸法ヨリ超過セル突出ヲ減少シ又ハ全廢セザル可カラザルモノトス

第五十二條　市參事會及助役ハ規則ニ制定セラレ居ルヨリ長大ナル突出ヲ許可シ得ルモノトス但公共建物、紀念物又ハ美術的ノ性質ヲ帶ブル構造物ニ限ル

第十章　中庭

第五十三條　總テ住居ニハ中庭ヲ有スベキモノトス其廣狹ハ場合ニ應ッ市參事會及助役ニ依テ決定セラルト雖其建物ノ在ル土地ノ面積ノ八分ノ一ヨリ少カラザルベシ

本規則施行前現存セル建物又ハ模樣ヲ爲ス場合ニハ此命令ニ準據スルヲ得ザルコトヲ承認セラル

市參事會ハ特別ノ場合ニハ地積ノ八分ノ一以下ノ中庭ヲ認可スルコトヲ得

第十一章　屋根葺覆材料

第五十四條　總テ公道ニ沿フ建物ハ石盤瓦又ハ金屬ヲ以テ覆フベシ

瓦ノ色ハ市參事會及助役ニヨリテ同意ヲ得タルモノタルベシ

「マンサールド」ノ傾斜面ヲ瓦ヲ以テ葺クコトヲ禁ズ

葭又ハ其他ノ可燃質物ヲ以テ葺クコトヲ禁ズ

「マンサールド」屋根ノ初メノ勾配ハ水平トノ夾角七十度以上ニ超ユルコトヲ得ズ

此斜面ニハ充分ナル員數ニ於テ屋根職ノ足代又ハ梯子ノ支持方ヲ安全ニスル爲メ金屬製ノ鉤ヲ取付クベシ此等ノ鉤ハ屋根葺工事中取付ケ置クベシ

第十二章　樋

第五十五條　新古ヲ問ハズ總テ公道ニ沿フ建物ハ雨水ヲ受クルニ充分ナル寸法ノ金屬製樋ヲ取設クベシ

第五十六條　若シ雨水ヲ建物ノ內部ニ引入レザルトキハ歩道ノ下ニ之ヲ吐出セシムル樣金屬製ノ管ニヨリ垂直ニ地面ニ導クベシ

此等ノ管ハ建物前面ノ壁面ラニ取付街規線ヨリ十二仙米突以上突出セシムベカラズ又此等ハ下部歩道面ヨリ上二米突二十五仙ノ處迄ハ鐵製タルベシ

第十三章　煖爐、吹子場、窯竈

第五十七條　煖爐、吹子場、窯竈等ハ火災ノ危險ニ對シ充分ノ注意ヲ以テ簡易ニ掃除シ得ル樣構造シ持主ハ斷ヘズ之ヲ完全ナル狀態ニ維持スルモノトス

第五十八條　竈底又ハ煖爐灰止石ノ下ハ甲乙梁ノ構造ニナスベキモノトス

竈底又ハ灰止石ヲ木ノ床板、根太又梁ノ上ニ据ルコトヲ禁ズ

第五十九條　總テ煖爐ハ厚ミ少クモ十仙米突以上ナル石或ハ瓦ノ迫持ノ上ニ据付クベシ

第六十條　木ヲ用ヒタル間仕切壁ニ煖爐ノ上ハ飾リ又ハ烟管ヲ取付クルコトヲ得ズ

第六十一條　煖爐ノ烟管ハ總テ木製ノ物体ヨリ充分ノ距離ヲ保チ且火災ノ虞ナキ樣注意ヲ以テ構造スベシ（千八百六十八年四月二十七日發布ノ火災豫防法ヲ參照）

第六十二條　屋根上ニ出ル煖爐ノ胴及烟管ノ高サハ町ニ面スル建物又ハ後部ニアル建物トヲ問ハズ屋根ノ斜面ノ下端

ニアルトキハ（寸法ハ最モ低キ方ノ側ニ於テ測リ）少クトモ二米突二十仙其他ノ點ヨリ出ルトキハ一米突ノ高サヲ有スルモノトス

附屬家ノ烟突ハ本館後面ノ壁ニ沿ヒ之ヲ設ケ其建物ノ跨腹ヨリ少クトモ二米突上ニ吐口ヲ置クベシ

總テ烟管ノ上部ニハ簡易ニ達スルコトヲ得ル樣設備スベシ

第六十三條　煖爐ノ煙管又ハ如何ナル性質タルヲ問ハズ他ノ煙又ハ蒸瀉ヲ導ク管ノ吐口ヲ公道上ニ設クベカラズ

第六十四條　公道ニ面スル壁中ニ煖爐ノ烟管ヲ設クルニハ其壁厚少クモ三十八仙米ニテ其烟管ヲ取付クル部分ノ窓間ノ壁ハ九十仙米突以上ノ巾ヲ有シ且烟管ト壁ノ外面ノ間ニ十八米突ノ石又ハ煉瓦ノ厚ヲ有スルニアラザレバ之ヲ實行スルコトヲ許サズ

共界壁ニ於テハ煖爐灰止附近ニアル梁ハ壁厚ノ半以上壁ニ積込ムコトヲ得ズ

共界壁ノ中ニ新ニ煖爐又ハ火床ヲ設クルモノハ其隣家ノ梁ヲ切縮ムル義務アルモノトス（民法六百五十七條）

第六十六條　桶職工場ノ煖爐ハ少クトモ其巾一米突二十仙ヲ要ス而シテ此煖爐ヲ設ケアル工場ハ同時ニ木材又ハ其他ノ可燃質物ノ置場トスルコトヲ禁ズ

第六十七條　旅館、旅籠屋、珈琲店又ハ居酒屋等ハ市役所係員カ其主ナル集會所並ニ秣及寢藁舍等ヲ檢査シタル上ニアラザレバ開業スルコトヲ得ズ若又或部分ノ狀態カ火災ノ危險アル場合ニハ公共安全ノ爲メ其命令ニヨリ模樣替ヲ施シタル後ニ開業スルコトヲ得ズ

第六十八條　吹子場、窯、竈ハ全部石、煉瓦又ハ瓦或ハ鐵製タルベシ窯ハ地下室及地階ノ外設クルコトヲ得ズ吹子場竈ハ地階以上ニ設クルトキハ公共安全ノ爲市參事會及助役ニ於テ命ズル條件ヲ遵守スルニアラザレバ設クルコトヲ得ズ

何人ト雖吹子場、窯又ハ竈ヲ共界壁又ハ普通ノ壁ニ設ケントスルモノ又ハ此壁ニ面シ厩、場ノ置場、或ハ酸化性ノ材料ノ貯藏場ヲ設ケントスルモノハ少クモ十仙米突ノ空虛ヲ其壁面ト設ケントスル構造物トノ間ハ存ズベシ（民法六百七十四條）

此空虛ハ空氣ノ自由ニ流通シ又接近スル壁ノ加熱ヲ除ク爲兩端又ハ上部ニ於テ閉塞スベカラズ

市參事會及助役ハ竈、吹子場、製造所及蒸瀉機關ノ煙突及其他總ノ工場或ハ特ニ前以テ許可ヲ受クベキ性質ノ各種ノ操業場ノ高サヲ決定ス

第六十九條　市參事會及助役ハ其豫定セル時期ヨ於テ吹子場窯及竈等ヲ臨檢セシム持主ハ火災ヲ豫防スルニ必要ナリト認メラレタル修繕ヲ實行スベキモノトス

●第三集　第六号　掲載広告一覧（掲載順）

浅海商店
池田稔事務所
出浦建築事務所
新海工務所
葛野建築事務所
渡辺建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所
宗建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
山本窯業商店
国枝工務所

池田勘蔵
大倉土木組大阪出張所
橋本料左衛門
大林組
竹中工務店
長瀬兵馬
山本鑑之進工務所
山中建築部
山本組
鴻池組
松村組
小西組
安藤組大阪出張所
清水組大阪支店
木村組
清水工務店
銭高組

内外土木建築材料
熊取谷熊次郎
石井定七
矢橋商店
濱恒次郎本店
新田ベニヤ製造所
東洋コンブレッソル
明正社
砂崎
東洋コンブレッソル大阪出張所
日本コルク
コルク工業
穴原商会
村井工業所
野沢幸三郎商店
山本コンベス商会
大野正営業所

大阪窯業
銀座建築用品店
大阪煖房商会
大阪電気商会
高田商会
松尾和助本店
大阪鉄筋混凝土工務所
横河橋梁製作所
高石商会本店
米国貿易会社
浅野スレート大阪出張所
共同建材製作所
栄進社
日本石綿盤製造
須賀商会
有田製陶所
宇野沢組スティンド硝子製作所
巣鴨製作所
東京建鉄

北木島石材大阪出張所
萩原煖房工務所
川崎工場
日本建築協会
日本スレートアスファールト工業
日本建築紙工
日本エレベーター製造
高田商会銀座販売店
